

FDK

Integrated Report

FDKグループ 統合報告書 2025



FDKのアイデンティティ

経営理念 進化に挑戦 輝く未来と笑顔のために

グループ戦略 Framework「10年の計」

Vision

FDKグループは、Smart Energy Partnerとして、先進技術を結集し、お客様に電気エネルギーを安心して効率的に活用いただき、持続可能な社会の実現と発展に貢献します。

あるべき姿

誰に 人々の暮らしと社会を支える企業と個々のユーザーに

何を クリーン且つ、安全な電気エネルギーを安定的に活用できるオフリングを届ける(電池/ものづくり、次世代電池、パワーマネジメントソリューション)

いつ 2029年

中期事業計画

—R1—R2—R3→

2029

And Game

計画実行にあたり大切にすべき、FDKの新しい文化

お客様の満足

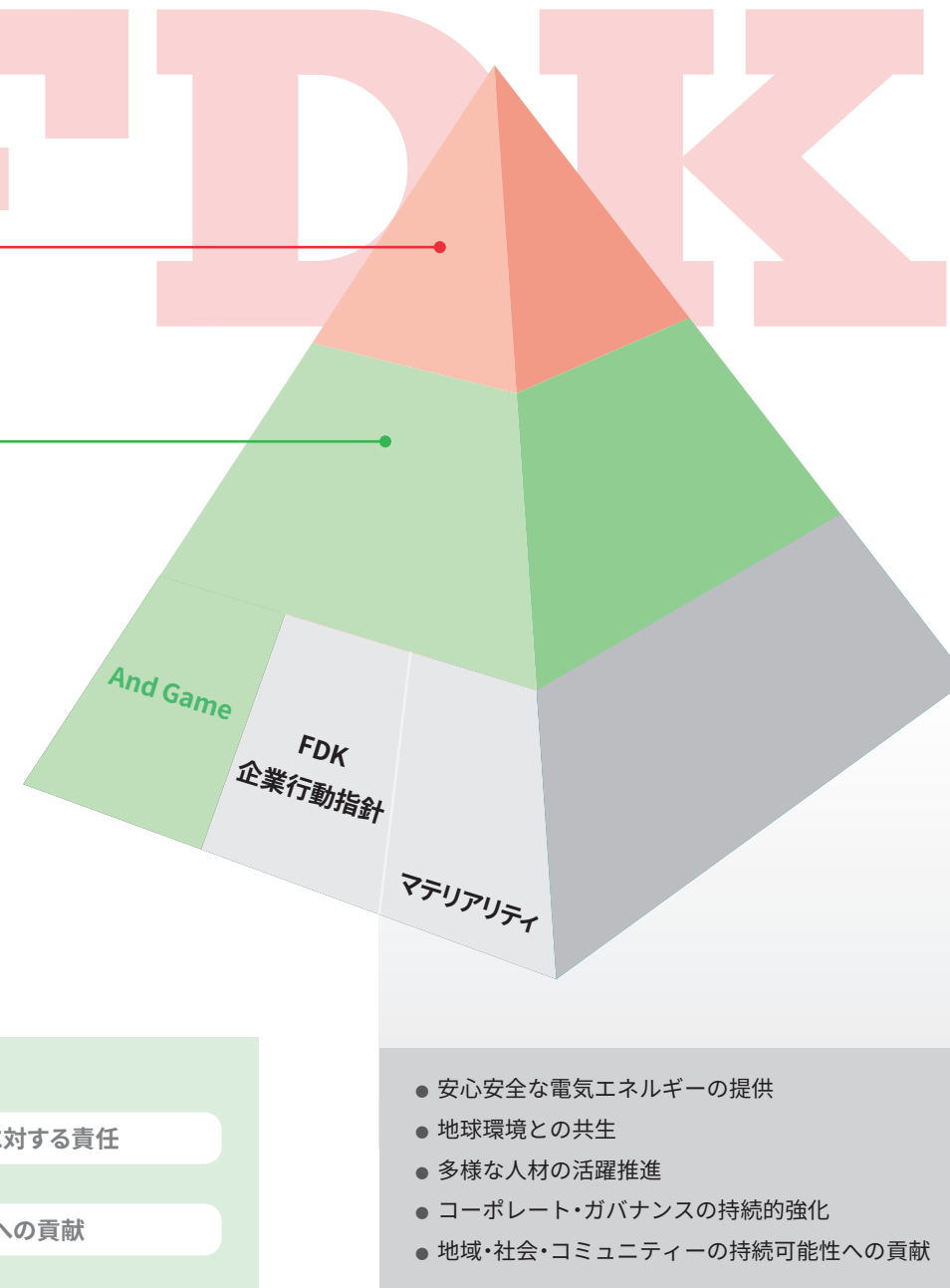
従業員に対する責任

株主への約束

社会への貢献

and

(すべてに應える)



Contentsへ



INDEX

イントロダクション

▶ FDKのアイデンティティ

Contents

TOP MESSAGE

FDKの歩み

事業紹介

財務・非財務ハイライト

FDKグループの価値創造ストーリー

サステナビリティ

財務情報

概要、グループ会社

Contents

イントロダクション

FDKのアイデンティティ	1
Contents	2
TOP MESSAGE	3
FDKの歩み	8
事業紹介	11
財務・非財務ハイライト	12

FDKグループの価値創造ストーリー

価値創造モデル	14
FDKグループ戦略Framework「10年の計」	15
中期事業計画 ●「R1」の振り返り	16
●中期事業計画 「R2」の三本柱／●「R2」の進捗ハイライト	17
●主力ビジネスの利益ある成長の加速	18
●新規ビジネスの始動と開拓	23
●認め合い・高め合う文化の醸成	24

サステナビリティ

FDKアイデンティティにおける「10年の計」×サステナビリティ経営	26
サステナビリティマネジメント	27
マテリアリティ	28
①安心安全な電気エネルギーの提供	32
②地球環境との共生	35
③多様な人材の活躍推進	40
④コーポレート・ガバナンスの持続的強化／リスクコンプライアンスの高度化	47
⑤地域・社会・コミュニティの持続可能性への貢献	55

財務情報

	56
--	----

概要、グループ会社

会社概要	62
株式の状況	64



Contents へ



INDEX

イントロダクション

FDKのアイデンティティ

▶ Contents

TOP MESSAGE

FDKの歩み

事業紹介

財務・非財務ハイライト

FDKグループの価値創造ストーリー

サステナビリティ

財務情報

概要、グループ会社

編集方針

FDKグループでは、FDKグループのサステナビリティ基本方針にもとづく様々な活動をステークホルダーの皆様にご理解いただくために、2017年から「FDKグループCSRレポート」を発行してまいりました。昨年から「FDKグループ 統合報告書」として財務・非財務の両面から当社の事業、取り組みを中心にご報告しています。

対象期間

2024年度（2024年4月1日～2025年3月31日）の活動を中心にご報告しています（一部対象期間外の内容を含みます）。

対象範囲

FDKおよびFDKグループを対象としています。一部FDK単体の報告があります。

参考にしたガイドライン

「FDKグループ統合報告書2025」は、「国際統合報告フレームワーク」（国際統合報告評議会）、「価値協創のための統合的開示・対話ガイダンス（価値協創ガイダンス）」（経済産業省）、「GRI(Global Reporting Initiative) サステナビリティ・レポーティング・スタンダード」を参考に作成しています。

将来に関する事項に関する注意事項

本報告書に記載されている将来の見通しに関する記載は、本報告書の作成時点の当社グループの判断にもとづくものであり、リスクや不確定な要因が含まれています。今後、様々な要因によって、見通しとは大きく異なる結果となる可能性があります。

TOP MESSAGE

変化を力に、
シン・FDK 始動。
新深芯

代表取締役社長
長野 良



Contents へ



INDEX

イントロダクション

FDKのアイデンティティ

Contents

▶ TOP MESSAGE

FDKの歩み

事業紹介

財務・非財務ハイライト

FDKグループの価値創造ストーリー

サステナビリティ

財務情報

概要、グループ会社

新たな転機 ― 資本構成の変化と今後の展望

2025年、FDK株式会社は創業以来の大きな転機を迎えました。台湾のSILITECH TECHNOLOGY CORPORATION（以下、SILITECH社）による公開買付けを経て、当社は新たにPSAグループの一員となり、資本構成が大きく変化しました。これにより、長年親会社であった富士通株式会社が筆頭株主の座を譲る形となり、FDKはより自立した経営体制へと移行することになります。

この転機は突然訪れたものではありません。私が2019年に社長に就任した当初から、富士通グループからの段階的な独立は既定路線として見据えており、それを前提に「10年の計」を策定し、中期事業計画R1・R2を推進してきました。いかなる資本パートナーと未来を歩むことになっても、私たち自身が価値ある事業体であることを証明できるよう、組織と戦略の両面から備えを重ねてきたのです。

SILITECH社との出会いは、そのような中での必然とも言えるものでした。同社はファンドではなく事業会社であり、単なる資本参加にとどまらず、当社の事業全体に対して高い関心を示しました。公開買付けに先立ち、SILITECH社幹部による国内工場の視察や技術説明会を実施した際には、当社の技術力や生産体制への深い理解と評価が寄せられ、互いに描く未来像の方向性が重なることを実感しました。

PSAグループの特徴は、各社が独立性を保ちながらも、連携によりグループ全体の競争力を高める「フェデレーション型」の運営スタイルにあります。FDKもこの一員として、過度な制約に縛られることなく、自社の強みを活かした事業展開を行うことが可能です。すでにPSAグループ内での技術協業や販路連携に向けた具体的なプロジェクトも動きはじめており、今後、製造リソースの相互活用や電子部品事業での協業など、現実的なシナジーの創出が期待されます。

一方で、富士通との関係が完全に途切れるわけではありません。今後も大株主として、また社外取締役の派遣を通じて、当社に対する一定の関与は継続されます。これまでのようなグループ方針による統制はなくなり、むしろ株主として純粋に当社の企業価値向上を見守り、必要に応じた助言をいただける、よりフラットで健全な関係性に変わっていくと認識しています。

2024年度の振り返りと業績評価

2024年度は、FDKグループにとって多面的な挑戦の年となりました。外部環境に目を向けると、世界的な地政学リスクの高まり、資源価格の乱高下、急激な為替変動といった不確実性が引き続き企業活動を取り巻く中、柔軟かつ迅速な対応力を求められる場面が幾度もありました。

特に為替については、歴史的な円安が続いた一年であり、電池事業を中心に一定のプラス効果があった一方、電子事業においては原材料の仕入れ価格上昇が影を落とす結果となりました。こうした状況下においても、全社として真水の数字を見極め、為替の追い風に頼らない経営指標の精査を続けるなど、経営の質の向上に注力しました。

2024年度の連結売上高は631.7億円、営業利益は13.9億円と、前年度比では増収増益を達成しました。とりわけ、電池事業ではニッケル水素電池の国内外市販用途および車載用途向けが増加、加えて設備関連ビジネスの堅調な伸長もあり、事業全体として



INDEX

イントロダクション

FDKのアイデンティティ

Contents

▶ TOP MESSAGE

FDKの歩み

事業紹介

財務・非財務ハイライト

FDKグループの価値創造ストーリー

サステナビリティ

財務情報

概要、グループ会社

健闘しました。一方で、電子事業は半導体装置向けスイッチング電源の需要減などの影響により売上が減少し、セグメント全体では前年を下回る結果となっています。

中期事業計画「R2」における3年累計目標（売上高2,000億円、営業利益50億円）の達成に向けては、残念ながら当初の想定から乖離が生じており、最終年度となる2025年度の見通しは厳しい状況です。最大の要因は、ニッケル水素電池事業の回復が当初の想定よりも遅れている点にあります。特に自動車産業における市況の不透明感が続く中で、新機種量産体制の立ち上がりが後ろ倒しとなり、計画達成を押し下げる結果となりました。



事業ポートフォリオと成長戦略の進化

FDKグループは、長年にわたり多様な製品群と技術基盤を培い、事業ポートフォリオの多角化を進めてきました。この構造が当社のレジリエンスを支える大きな要素となっています。主力製品であるニッケル水素電池やリチウム電池に加え、アルカリ電池、電子事業、設備関連ビジネスがそれぞれ異なる市場で機能し、特定事業の一時的な停滞を他の事業が補完するという好循環を生み出しています。

2024年度は、ニッケル水素電池が売上面では貢献したものの、当初想定していた採算改善や利益成長には至らず、営業利益の伸び悩みの要因となりました。その一方で、リチウム電池は医療・インフラ・スマートメーター向けの需要を着実に獲得し、電子事業ではBluetooth®* Low Energy モジュールなどの新規製品が顧客の関心を集めました。さらに、EV分野に対応する設備関連ビジネスでは、自動車業界のニーズを的確に捉えた提案力が奏功し、堅調な受注が継続しています。このように、製品・用途・市場を多層的に組み合わせた当社の事業構造は、短期的な市場変動に対しても安定的な成長を可能にする「バランス経営」の強みを発揮しています。

一方で、「2025年度における新領域売上構成比15%」という目標達成に向けては、いまだ道半ばにあることも事実です。全固体電池やニッケル亜鉛電池といった次世代電池に関しては、技術仕様の確立と顧客評価を経てパイロット量産段階に進みつつありますが、本格的な事業化にはなお時間を要します。ただし、用途の広がりや顧客層の多様化は着実に進んでおり、当初想定していた以上のスケール感で成長する可能性も見えつつあります。

また、2025年からの新体制においては、SILITECH社との協業を通じて事業の展開力を高める取り組みも始まっています。PSAグループ内のネットワークや製造設備を活用することで、製品供給体制の柔軟性と競争力が一層強化され、当社のグローバル展開における新たな武器となることが期待されます。

今後は、既存事業の深化と新規事業の育成を両輪としながら、変化に強いポートフォリオのさらなる強化を図ってまいります。

*Bluetooth®ワードマークは、Bluetooth SIG, Inc. が所有する商標です。



INDEX

イントロダクション

FDKのアイデンティティ

Contents

▶TOP MESSAGE

FDKの歩み

事業紹介

財務・非財務ハイライト

FDKグループの価値創造ストーリー

サステナビリティ

財務情報

概要、グループ会社



INDEX

イントロダクション

FDKのアイデンティティ

Contents

▶ TOP MESSAGE

FDKの歩み

事業紹介

財務・非財務ハイライト

FDKグループの価値創造ストーリー

サステナビリティ

財務情報

概要、グループ会社

人と組織の進化 ――「認め合い・高め合う」文化の深化

企業が持続的な成長を遂げるための最大の資源は、人材であると私は考えています。特に2024年度は、SILITECH社によるTOBという創業以来初の出来事に直面する中で、多くの社員がこれまでにない柔軟性と責任感を発揮し、前向きに対応してくれました。その姿に、改めてFDKという組織の底力と、そこで働く一人ひとりのプロフェッショナリズムを実感しました。

私が社長に就任して以降、「誇れる会社 大切な人に勧めたい職場」の実現を目標に掲げてきました。そのための文化醸成の核として、「認め合い・高め合う」組織づくりを進めています。社内で展開しているサンクスポイント制度はすでに定着し、イントラネットを通じた私からのメッセージ発信も270号を超えました。現場からのフィードバックや、自主的な反応が広がっており、双方向のコミュニケーションを通じて社内の風通しは格段に良くなってきていると感じます。

加えて、教育体制や評価制度も継続的に進化させています。「eラーニング」の充実、語学研修・留学支援、自己啓発支援などを通じて、社員が自らの成長を実感できる環境を整えてきました。また、評価制度においても、職能と役割に応じた多面的な基準を導入し、「頑張ったから評価される」だけでなく「どう頑張ったか」「何を目指したか」にも着目した透明性のある制度設計を心がけています。

一方で、今なお課題として残るのが「働きがい」のさらなる強化です。従業員満足度調査では一定の成果が見られるものの、給与水準や報酬体系に対する納得感、また縦の多様性――年齢やキャリアの違いを越えた相互理解――といった観点では、さらなる取り組みが必要です。

現在は、多様性に関する新たな概念として「文化的知性(CQ: Cultural Intelligence Quotient)」を組織全体で学びながら、上下の壁を越えた関係性の構築を模索しています。また、PSAグループとの人材交流の可能性も視野に入れ、多様なバックグラウンドを持つ人材が混ざり合い、刺激し合える土壌をつくっていきます。

サステナビリティ経営と企業価値向上

FDKグループは、創業以来、社会の課題と向き合いながら成長してきました。近年は「サステナビリティ経営」の推進を明確に打ち出し、単なる環境配慮や社会貢献にとどまらず、「事業そのものが社会的価値を生む」状態、すなわちCSV(Creating Shared Value: 共通価値の創造)を企業価値向上の中核に据えています。

私たちの主力製品である電池は、CO₂を排出しないクリーンエネルギーの蓄電手段であり、再生可能エネルギーとの組み合わせによって、脱炭素社会の実現に不可欠な存在です。特に小型・高性能のニッケル水素電池は、IoT機器、医療、セキュリティ、モビリティといった分野において、持続可能な社会を支える基盤技術として、ますます需要が高まっています。

こうした製品開発と並行して、再生可能エネルギーの導入にも注力しています。2024年度には鳥取工場での太陽光発電設備稼働を開始し、廈門工場にも同様の取り組みが広がりました。これらは単なるコスト削減施策ではなく、グローバルサプライチェーン全体の脱炭素を推進する上で不可欠な取り組みと位置付けています。

さらに、2024年度からは社内横断のプロジェクトマネジメントオフィス(PMO)を新設し、従業員からの事業アイデアを継続的に吸い上げ、選別・育成する仕組みを整備



鳥取工場(鳥取県)に設置したソーラーパネル

しました。すでに複数の案件がフェーズ移行の段階に入っており、今後の新規事業創出につながる動きとして期待しています。失敗を恐れず挑戦を重ねることで、結果として企業としての持続可能性を高める文化を根付かせていきます。

一方で、サステナビリティの取り組みは、環境だけにとどまりません。当社が定めた5つのマテリアリティ —— 「安心安全な電気エネルギーの提供」「地球環境との共生」「多様な人材の活躍推進」「コーポレート・ガバナンスの持続的強化」「地域・社会・コミュニティの持続可能性への貢献」 —— にもとづき、事業活動全体の中にESG要素を埋め込んでいます。

中でも「多様な人材の活躍推進」は、今後さらなる強化が必要な分野と認識しています。女性管理職比率やシニア人材の活用、多様な働き方への対応など、取り組みは進んでいるものの、社会全体のスピードに追いつくには一層の努力が求められます。加えて、PSAグループとの連携を契機に、グローバルな人的多様性をどう組織の強みに転換していくかも重要な課題です。

私たちは、サステナビリティを一過性の取り組みとせず、「企業としてどう生きるか」という根本的な問いに正面から向き合い続けます。その姿勢がやがて、お客様・従業員・株主・地域社会といったすべてのステークホルダーからの信頼となり、企業価値の源泉となると信じています。

「シンFDK」に向けて —— ステークホルダーとともに

本統合報告書でご報告したとおり、FDKグループは2025年、資本構成の大きな転換点を迎えました。SILITECH社によるTOBに加え、長年積み上がっていた欠損金を解消するための減資を実施し、財務基盤の健全化も果たしました。新たな枠組みの中で、自らの未来を主体的に描き、切り拓いていく絶好の機会であると捉えています。そこで、2025年度のテーマとして「シンFDKの追求」を掲げました。

この“シン”には、新しい、進化、深化、真価、信じる、芯のある——など、様々な意味が込められています。私は、それぞれの社員がこの言葉に自分なりの意味を込め、日々の行動に反映させていくことを期待しています。経営陣が一方的に方針を押し付けるのではなく、一人ひとりが「自分にとってのFDK」を再定義し、その実現に向けて主体的に行動することでこそ、組織は強くしなやかに進化していくと信じています。

TOBや減資といった企業構造に関わる大きな変化も、最終的に目指すのは「すべての

ステークホルダーの笑顔」です。お客様に選ばれ続ける製品を提供すること。従業員が誇りを持って働ける環境を整えること。株主の皆様へ企業としての成長とリターンを届けること。そして、地域・社会と調和しながら未来をともに築いていくこと。これらをすべて「And」で実現していくことが、私たちFDKの掲げる「And Game」の精神です。

今後も、変化を恐れず、本質を見失わない強い組織づくりを進めてまいります。新たなパートナーを得た今だからこそ、これまでの積み重ねと信念を礎に、より一層の価値創造に挑んでいく決意です。

引き続き、皆様のご理解とご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。



INDEX

イントロダクション

FDKのアイデンティティ

Contents

▶ TOP MESSAGE

FDKの歩み

事業紹介

財務・非財務ハイライト

FDKグループの価値創造ストーリー

サステナビリティ

財務情報

概要、グループ会社



INDEX

イントロダクション

FDKのアイデンティティ

Contents

TOP MESSAGE

▶ FDKの歩み

事業紹介

財務・非財務ハイライト

FDKグループの価値創造ストーリー

サステナビリティ

財務情報

概要、グループ会社

1950

ハイライト 1

1950年2月
東京電気化学工業株式会社設立



1950年、東京電気化学工業株式会社は東京芝浦電機株式会社（現・東芝）の乾電池工場（大船工場、鷺津工場）を創業者である志岐隆清と杉田忠嗣が買収する形から始まりました。朝鮮戦争特需の勢いもありマンガン乾電池の製造、販売で経営基盤を固め、事業拡大に繋げていきました。

ハイライト 2

1969年10月
東京証券取引所第二部上場



創業当時、静岡県鷺津町でのマンガン乾電池製造から始まった当社は、高度経済成長と電子工業の飛躍的発展の波に乗り、フェライトの製造販売に着手したことで急成長を遂げ、1969年10月1日に東京証券取引所市場第二部に上場しました。

1980

創業期

静岡県湖西市鷺津に創業。朝鮮戦争特需を背景に乾電池メーカーとして経営基盤を固め、後にフェライトの研究から電子事業にも着手。

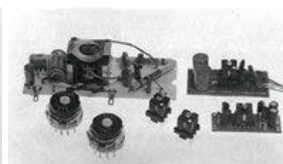
- 1950年 東京電気化学工業株式会社設立
マンガン乾電池製造・販売開始
- 1958年 富士電気化学株式会社に社名変更
- 1959年 フェライト製造開始
- 1960年 コアメモリ製造開始、電子部品業界に進出
- 1967年 アルカリ乾電池製造開始
- 1969年 東京証券取引所第二部上場
- 1972年 富士通グループに入る
- 1973年 DC-DC コンバータ発売
- 1975年 ステッピングモータ発売



ノーベル乾電池(マンガン)



ノーベル乾電池(アルカリ)



DC-DC コンバータ

当時のコア技術

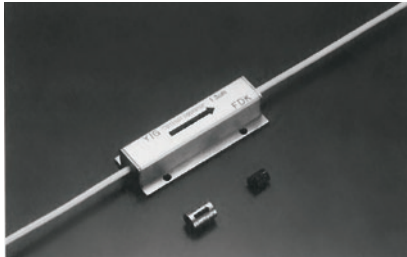
- 粉体技術
- 冶金技術
- 量産技術
- 材料技術

FDKグループの技術は1950年の創業当時の主製品であるマンガン乾電池の二酸化マンガンや炭素粉といった「粉」を取り扱う粉体技術や、粉を加工する冶金技術から始まりました。
1960年代にはテレビの爆発的な需要増により、ブラウン管で使用するフェライト（偏向ヨーク）が大幅に伸長し、マンガン乾電池で培った粉体技術や冶金技術が製品製造を支えました。
1970年代には冶金技術を応用したセラミック製品であるプザーや無線・通信機器用の誘電体フィルタ、ノイズフィルタを製造、販売いたしました。

1981

ハイライト1

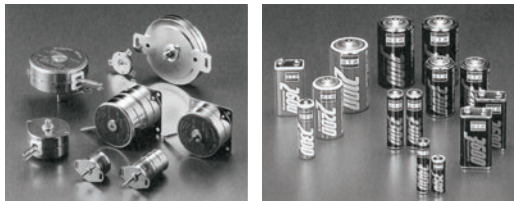
1982年
富士電気化学と情報通信を支えた
光アイソレータ開発



1980年以降、大量の情報を高速で伝達する光ファイバー通信が実用段階となり、YIG単結晶を用いたアイソレータや、光スイッチが光通信における重要材料として注目され、1982年に高性能光アイソレータ、光アイソレータモジュールを開発し、日米情報伝達の中核として役割を果たしました。

ハイライト2

1984年9月1日
東京証券取引所第一部上場



1979年の第二次石油ショックの影響を受け、厳しい経営環境が続きましたが、積極的な設備投資と生産体制の拡充、合理化によりフェライト、ステッパモータ、磁気ヘッド、リチウム電池、アルカリ乾電池、高性能マンガン乾電池が伸長し、1984年9月1日に東京証券取引所市場第一部上場を果たしました。

2000

拡大・グローバル化

電子事業の開花と、リチウム電池の発売。日本からグローバルへ生産拠点と販売網の拡大。

1981年 FUCHI ELECTRONICS CO., LTD. 設立、ロータリートランス発売

1982年 光アイソレータ開発

1983年 リチウム電池発売、トナー発売

1984年 東京証券取引所第一部上場

1992年 FDK ELECTRONICS GMBH 設立、無水銀アルカリ乾電池発売

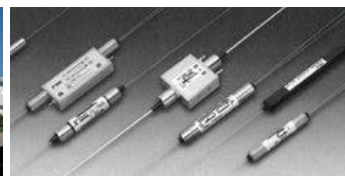
1993年 光スイッチ開発

1994年 XIAMEN FUCHI ELECTRONICS CO., LTD. 設立
(現: XIAMEN FDK CORPORATION)

1999年 積層チップパワーインダクタ発売



XIAMEN FDK CORPORATION



光通信用部品



ロータリートランス

当時のコア技術

■ 磁気回路技術

■ 積層技術

■ 電池加工技術

■ ハイブリッド・モジュール技術

■ 無水銀・無カドミウム技術

1980年代にはそれまでに培った粉体技術と冶金技術を応用した磁気回路技術をもって、VTR（ビデオテープレコーダー）で使用されたロータリートランスやフロッピーディスクで使用された磁気ヘッドが開発・製造され当時の主製品となりました。

1990年代には携帯電話が流行し、ハイブリッド・モジュール技術をもってVCO（電圧制御発振器）を開発・製造し、電波発信機能で使用されました。

Contentsへ



INDEX

イントロダクション

FDKのアイデンティティ

Contents

TOP MESSAGE

▶ FDKの歩み

事業紹介

財務・非財務ハイライト

FDKグループの価値創造ストーリー

サステナビリティ

財務情報

概要、グループ会社

2001

ハイライト 1

2001年1月
FDK株式会社に社名変更

FDK

2001年1月1日、創立50周年を機会に社名を「富士電気化学株式会社」から「FDK株式会社」に改めました。電子製品の登録商標であった、「FDK」に社名を統一し、グローバル企業グループとしての姿勢を示し、21世紀に向け新生FDKが誕生しました。

ハイライト 2

2025年3月
SILITECH TECHNOLOGY CORPORATIONが筆頭株主に

SILITECH × FDK

2025年3月21日、SILITECH社による当社株式のTOBが完了したことにより当社は1972年から所属していた富士通グループから離脱し、SILITECH社が当社の筆頭株主となりました。当社は、SILITECH社との様々なシナジーで企業価値を向上させ、すべてのステークホルダーの皆様の期待に応えてまいります。

現在

成長のための選択と集中

効率的な生産体制とコスト削減によるローコストマニュファクチャリング体制。
コア事業での利益ある成長と新事業の立ち上げ。

- 2001年 FDK株式会社に社名変更
- 2002年 世界最小の可変光アッテネータを開発
- 2009年 ステッピングモータ事業をミネベア株式会社に譲渡
東京証券取引所市場第二部に指定替え
- 2010年 三洋電機株式会社より三洋エナジートワイセル株式会社(ニッケル水素電池事業)および三洋エナジー鳥取株式会社(リチウム電池事業)を譲受
- 2012年 低自己放電型ニッケル水素電池発売
- 2015年 光部品事業を湖北工業株式会社に譲渡
富士通テレコムネットワークス株式会社より、電源事業を譲受
- 2018年 新事業への投資のための第三者割当による第1回新株予約権の発行
- 2019年 フェライト・コイルデバイス・積層パワーインダクタ・セラミックス部品事業を
長野日本無線株式会社に譲渡
SMD対応全固体電池のサンプル出荷開始
FDKグループ戦略Framework「10年の計」を公表
- 2020年 FDKグループ経営理念を制定
- 2022年 東京証券取引所の市場区分の見直しにより市場第二部からスタンダード市場へ移行
- 2023年 Bluetooth® Low Energy モジュールのサンプル出荷開始
- 2024年 BAOTOU SANTOKU BATTERY MATERIALS CO., LTD (電池材料および希土合金)を譲受
- 2025年 SILITECH TECHNOLOGY CORPORATION が筆頭株主に



旧三洋エナジートワイセル株式会社
(現高崎工場)



旧三洋エナジー鳥取株式会社
(現鳥取工場)



旧BAOTOU SANTOKU
BATTERY MATERIALS CO., LTD
(現BAOTOU FDK CO., LTD.)

現在のコア技術

■ 電気化学技術

■ パワーエレクトロニクス技術

■ 回路技術

■ ファイン印刷技術

■ 高密度実装技術

■ CAE 技術

■ 素材技術

2000年頃にはパワーエレクトロニクス技術が台頭し、液晶パネルなどで使用された画面を発光させるインバータトランスが事業を支えました。
その後、2010年には三洋電機株式会社より三洋エナジートワイセル株式会社と三洋エナジー鳥取株式会社を譲受し、電池が事業を支える時代となりました。
電池の開発においては希土材料を扱う素材技術と、電池製品と電子製品を組み合わせる電気回路技術が培われました。
また、近年では今までに培ってきた粉体技術や積層技術、素材技術を用いた全固体電池やニッケル亜鉛電池、株式会社三徳より譲受したBAOTOU FDKにて水素吸蔵合金の製造・開発を行なっております。

Contentsへ



INDEX

イントロダクション

FDKのアイデンティティ

Contents

TOP MESSAGE

▶ FDKの歩み

事業紹介

財務・非財務ハイライト

FDKグループの価値創造ストーリー

サステナビリティ

財務情報

概要、グループ会社

FDKグループは、世界の人々に快適な日常と利便性の提供、地球と生命にやさしい環境保全に取り組み、暮らしを支えています。

身近な暮らしの様々なシーン、日々進化するデジタル環境、未来のスマートシティを支える多種多様な電池と電子製品を提供しています。

FDKグループは、Smart Energy Partnerとして、先進技術を結集し、お客様に電気エネルギーを安心して効率的に活用いただき、持続可能な社会の実現と発展に貢献します。

電池事業（489 億 56 百万円） 前年比 12 億 26 百万円増

安全性が高く、環境にやさしい「ニッケル水素電池」。家電機器や車の緊急通報システムの電源、その他各種バックアップ電源などに使われています。ニッケル水素電池は、各種用途に合わせた幅広いラインアップを揃えており、さらに、充放電回路と組み合わせ、緊急時のバックアップ電源などとしても使われています。

私たちの暮らしに最も身近な「アルカリ乾電池」。確かな実績とノウハウを活かして高性能なアルカリ乾電池を生産しています。その用途は幅広く、あらゆる製品に必要とされています。

高電圧で長寿命な「リチウム電池」。自己放電率が小さく、広い温度範囲で使用が可能な「リチウム一次電池」は、住宅用火災警報器や水道・ガス・電気などのスマートメータをはじめ幅広い用途で使われ、「薄形リチウム一次電池」は、薄形でありながら寿命が長くクレジットカードなどのカード類に搭載可能な電池です。

FDKエンジニアリングは、メカ駆動技術を駆使した圧縮エアー消費の削減による省エネルギー化をはじめ、フルオートメーション設備などの提供により、脱炭素や労働力不足などの課題を解決し、お客様の持続可能なものづくりを支援しています。

主力製品



ニッケル水素電池



アルカリ乾電池



リチウム電池

活用先 車両緊急通報システム・リモコン・住警器

コア技術 電気化学技術・CAE技術・素材技術

2024 年度 連結売上高 631 億 71 百万円

電池事業 77.5%

電子事業 22.5%

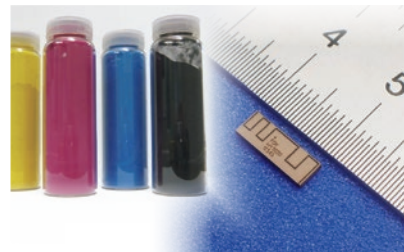
電子事業（142 億 15 百万円） 前年比 7 億 31 百万円減

デジタル環境を支える電子製品。様々な機器の電源に使われている「スイッチング電源」、モビリティ用途向け電子機器などを制御する「各種モジュール」、大型プリンターで使われている「トナー」といった電子製品を、お客様のニーズに応じて提供しています。

近年では、世界最小クラス*の「Bluetooth® Low Energy モジュール」の開発を進め、センシングデータをクラウドに上げて管理する小型医療機器やビーコン(Beacon)の情報をスマートフォンに伝える紛失防止タグ、高齢者や子供の外出・帰宅を家族に知らせる見守りタグなどでの活用が期待されています。

*アンテナ付きシールドタイプ 32kHz/32MHz 水晶振動子、電源周辺受動部品内蔵モジュールとして。
参考値。2024年5月27日現在。(FDK調べ)

主力製品



トナー・Bluetooth® Low Energy モジュール

活用先 複写機、通信機器、産業用制御装置

コア技術 パワーエレクトロニクス技術・回路技術・ファイン印刷技術・高密度実装技術・CAE 技術・素材技術



Contents へ



INDEX

イントロダクション

FDK のアイデンティティ

Contents

TOP MESSAGE

FDK の歩み

▶ 事業紹介

財務・非財務ハイライト

FDKグループの価値創造ストーリー

サステナビリティ

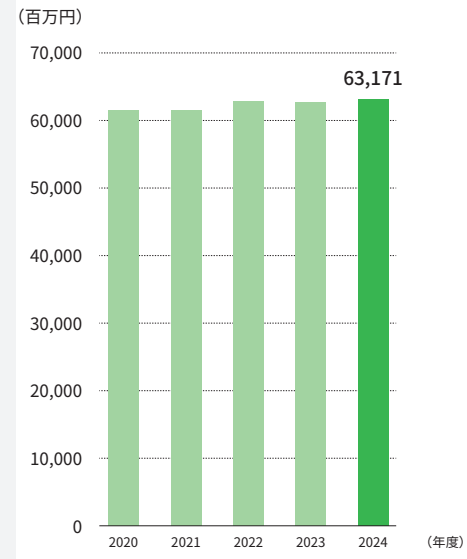
財務情報

概要、グループ会社

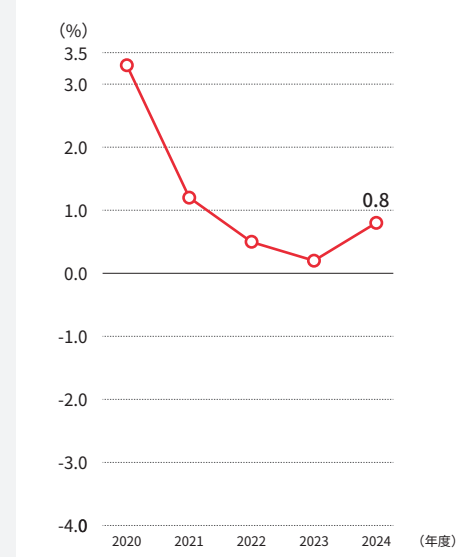
財務・非財務ハイライト

財務情報

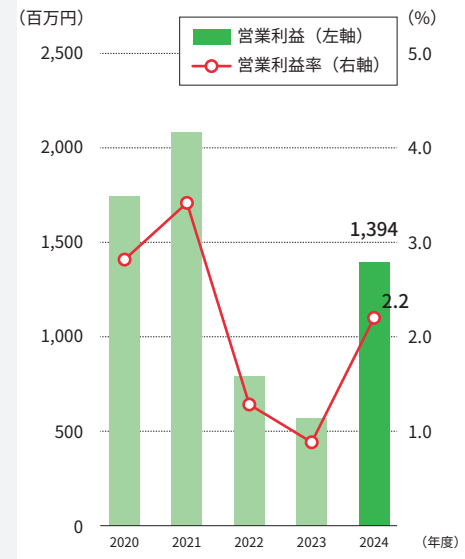
売上高(連結)



当期純利益率



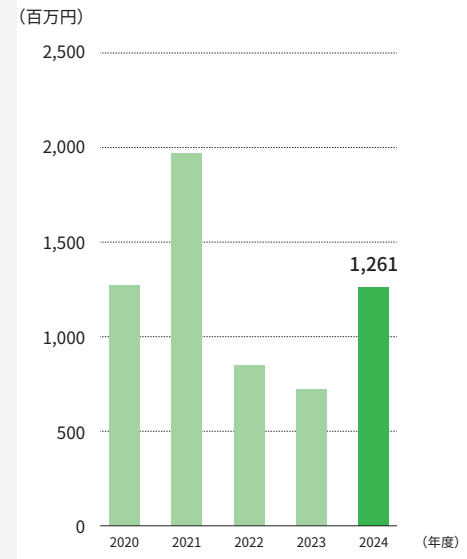
営業利益(連結)／営業利益率



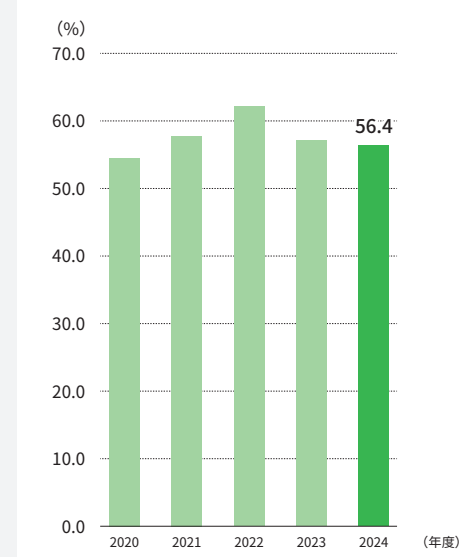
ROIC



経常利益(連結)



国内売上比率



売上高は、2019年度に実施した電子事業での一部事業の譲渡以降は610億円を超える水準で推移しています。損益面では、電子事業での選択と集中による損益の改善や一部事業の譲渡ならびに転進支援制度などの収益構造の改革を進め、2021年度には20億円の営業利益を達成しました。2022年度からは、原材料価格や水道光熱費高騰などの外部環境悪化に対するレジリエンス不足などにより利益が減少したものの、2024年度は原材料価格の変動や技術VEによるコストダウン、さらに円安効果に加わったことにより大幅な増益となり、8期連続での営業損益・経常損益ともに利益計上となりました。



INDEX

イントロダクション

FDKのアイデンティティ

Contents

TOP MESSAGE

FDKの歩み

事業紹介

▶財務・非財務ハイライト

FDKグループの価値創造ストーリー

サステナビリティ

財務情報

概要、グループ会社



INDEX

イントロダクション

FDKのアイデンティティ

Contents

TOP MESSAGE

FDKの歩み

事業紹介

▶ 財務・非財務ハイライト

FDKグループの価値創造ストーリー

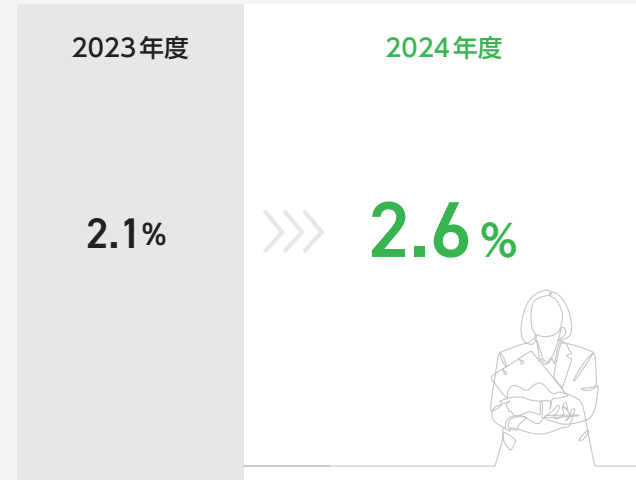
サステナビリティ

財務情報

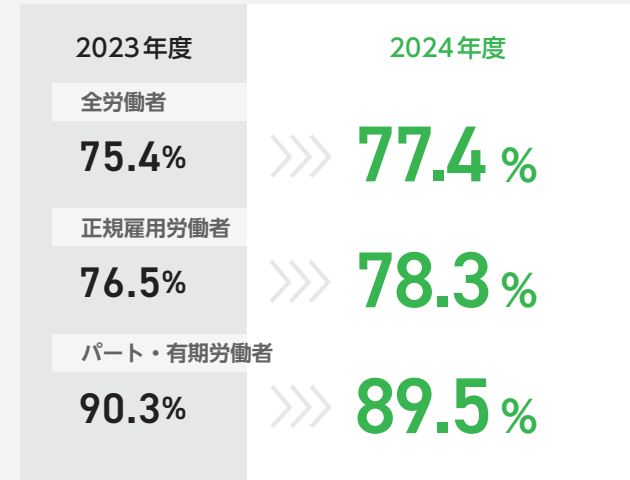
概要、グループ会社

非財務情報

女性管理職比率



男女賃金差異^{*1}



^{*1} 「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律」(平成27年法律第64号)の規定にもとづき算出しています。

男性育休取得率^{*2}



^{*2} 「育児休業、介護休業等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律」(平成3年法律第76号)の規定にもとづき、「育児休業、介護休業等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律施行規則」(平成3年労働省令第25号)第71条の4第1号における育児休業等の取得割合を算出しています。

1人当たり教育研修費用



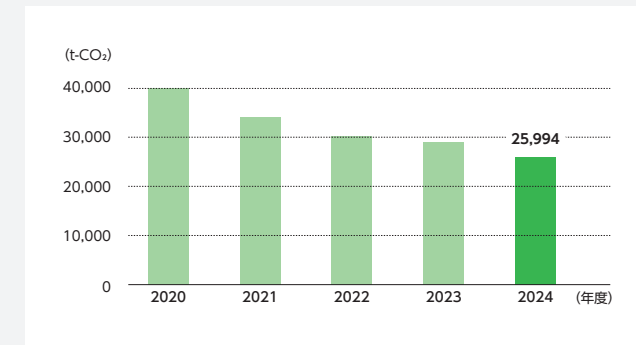
FDKグループでは全社の教育体系をスリム化し、効果的なカリキュラムに毎年見直しをしています。

障がい者雇用率^{*3}



^{*3} 「障害者の雇用の促進等に関する法律」(昭和35年法律第123号)の規定にもとづき算出しています。

CO₂排出量^{*4}



^{*4} GHGプロトコルにもとづきScope 1とScope 2の合計として算出しています。購入電力からの換算係数を従来から改めて、国内・海外ともにマーケット基準で算出しております。

価値創造モデル

FDKグループは、これまでの75年の歴史を通じて培ってきた人的資本や、製造資本を総合的に活用しながら多くの電池・電子製品を送り出してきました。そして、「進化に挑戦 輝く未来と笑顔のために」という経営理念のもと、「持続可能な社会への貢献」のため、FDKグループのあるべき姿、Visionを追求し続けてまいります。



Contentsへ



INDEX

イントロダクション

FDKグループの価値創造ストーリー

▶ 価値創造モデル

FDKグループ戦略Framework「10年の計」

中期事業計画 「R1」の振り返り

中期事業計画 「R2」の三本柱／「R2」の進捗ハイライト

主力ビジネスの利益ある成長の加速

新規ビジネスの始動と開拓

認め合い・高め合う文化の醸成

サステナビリティ

財務情報

概要、グループ会社

*使用エネルギーは電気エネルギーを指します。再生可能エネルギーの割合には非化石証書の割合を含みます。

Vision 2029年のFDKの到達点

FDKグループは、Smart Energy Partnerとして、先進技術を結集し、お客様に電気エネルギーを安心して効率的に活用いただき、持続可能な社会の実現と発展に貢献します。

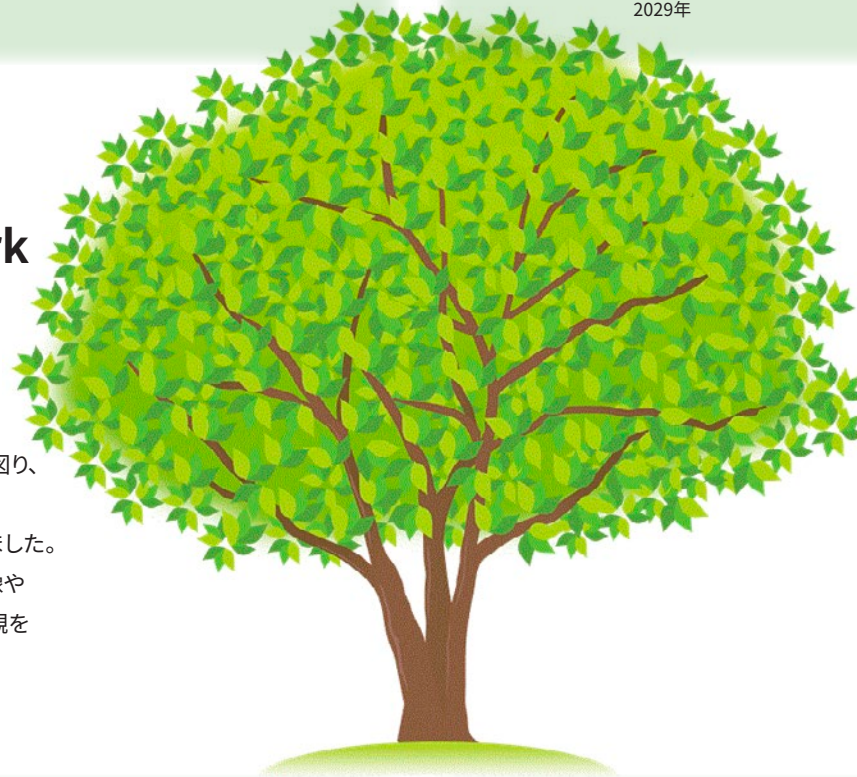
実現すべき企業像

あるべき姿 Visionが実現された状態の定義

- 誰に
人々の暮らしと社会を支える企業と個々のユーザーに
- 何を
クリーン且つ、安全な電気エネルギーを安定的に活用できるオファリングを届ける
(電池/ものづくり、次世代電池、パワーマネジメントソリューション)
- いつ
2029年

FDKグループ戦略Framework 「10年の計」

FDKグループは、さらなる経営体質強化と企業価値の向上を図り、様々なステークホルダーの方々の期待にお応えべく、2019年度にグループ戦略Framework「10年の計」を公表しました。「10年の計」では、2029年に当社グループが実現すべき企業像や実現へのロードマップ、計画実行にあたり大切にすべき価値観を定義しています。



十年之計 莫如樹木

十年の計は木を植えるに及ぶものはない(管子より)

And Game 計画実行にあたり大切にすべき、FDKの新しい文化

お客様の満足

and

従業員に対する責任

株主への約束

(すべてに応える)

社会への貢献

中期事業計画 Vision・あるべき姿を実現するためのロードマップ

R1
2020～2022

R2
2023～2025

R3
2026～2028

Contentsへ



INDEX

イントロダクション

FDKグループの価値創造ストーリー

価値創造モデル

▶ FDKグループ戦略Framework「10年の計」

中期事業計画 「R1」の振り返り

中期事業計画 「R2」の三本柱／
「R2」の進捗ハイライト

主力ビジネスの利益ある成長の加速

新規ビジネスの始動と開拓

認め合い・高め合う文化の醸成

サステナビリティ

財務情報

概要、グループ会社

中期事業計画「R1」の振り返り

当社グループは、2019年10月にFDKグループ戦略Framework「10年の計」および中期事業計画「R1」を発表いたしました。

「10年の計」では最初の3年間を、ステップアップの準備期間として、基本的なことに集中する期間と位置付け、2019年度はYear 0として構造改革・事業改変に注力し、「R1」（2020年度～2022年度）ではYear 0からRoIを最大化することを目標に掲げました。

そして現行ビジネス、新規ビジネス、企業文化・風土に関する三本柱を掲げ、Visionとあるべき姿の実現に向かって、現行ビジネスでは次なる成長に向けた基盤の構築、新規ビジネスでは次世代電池の開発、サンプル出荷、企業文化・風土では「誇れる会社 大切な人に勤めたい職場」への取り組みを推し進めました。

詳細は以下のとおりとなります。

R1 三本柱の振り返り

	現行ビジネスの安定化と利益ある成長の確立	次世代へつながる新事業の積極的開拓	各自が自律的にお客様に満足いただける努力を怠らない企業文化の醸成
成果	● 既存三大事業で、次なる成長に向けた基盤の構築 ● ニッケル水素電池 工業用途の拡充に向けた、種まき ● リチウム電池 生産拠点を統合し、効率化推進 ● 電子事業 構造改革を推進し、安定化	● 全固体電池 事業開始を視野に入れたサンプル出荷、内外の知見導入による開発促進 ● ニッケル亜鉛電池 実用化を前提としたサンプル出荷 ● 水素／空気二次電池 太陽光充電を想定した実証試験へ移行（環境省委託研究事業） 実用化に向けたパートナー先との協議実施 ● パワーソリューション 特定プロジェクトの推進と要素技術開発	● 「誇れる会社 大切な人に勤めたい職場」への取り組み ● 従業員全員参加での経営理念策定・作業制服の統一 ● 新人事制度の導入、タレントマネジメント導入 ● 教育制度の体系化と拡充 ● COVID-19対策を含めた働き方改革の推進 ● ガバナンス強化とサステナビリティ・SDGs・多様性への取り組み ● 社内改善活動の活性化と従業員満足度向上への取り組み
改善すべき点	● 市場の変化への対応 ● ニッケル水素・アルカリ電池事業の変調 COVID-19 禍の市場変動、原材料高騰に対応できず、損益悪化 ● 設備関連ビジネスの売上減 COVID-19 禍の自動車産業の投資抑制による新案件獲得遅れ	● 全固体電池：事業化の大幅遅延	● 構造改革余波：転進支援制度／人手不足、モチベーション ● 新人事システムの導入遅延 ● COVID-19 禍での新人育成体制（WEBのみでの対応） ● 若手世代の不足／高齢層の活用 ● ガバナンス／内部統制の不備（海外子会社、情報セキュリティ等）

R1 経営成績

	FY20-22 累積実績	中期計画 R1 累積目標
連結売上高（億円）	1,857.8	1,760.5
営業利益率	2.5%	3.2%
ROIC（投下資本利益率）	4.3%	5.9%
新事業への投資等（億円）	13.6	55

	総括
成果	● 事業譲渡にも関わらず、事業規模拡大 ● YR0の投資回収（4年間純利益6.1億円） ● FY22：環境悪化でも、営業黒字を確保
改善すべき点	● 公表した3年目目標は、未達 ● 外部環境悪化に対するレジリエンス不足 ● 新電池の開発遅延による投資の遅れ



Contents へ



INDEX

イントロダクション

FDKグループの価値創造ストーリー

価値創造モデル

FDKグループ戦略Framework「10年の計」

▶ 中期事業計画 「R1」の振り返り

中期事業計画 「R2」の三本柱／「R2」の進捗ハイライト

主力ビジネスの利益ある成長の加速

新規ビジネスの始動と開拓

認め合い・高め合う文化の醸成

サステナビリティ

財務情報

概要、グループ会社

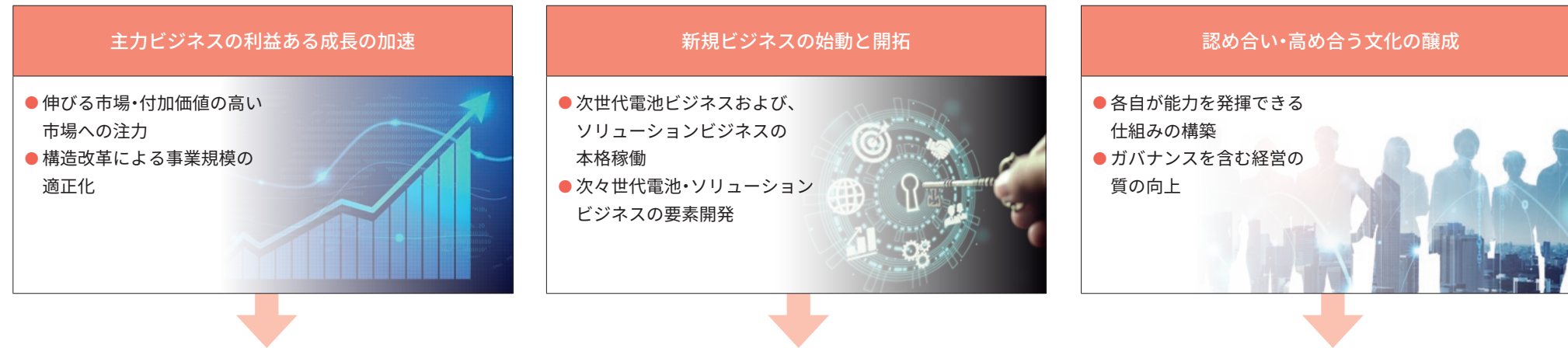
中期事業計画 「R2」の三本柱

中期事業計画「R1」から続く、2023年4月に公表した「R2」（2023年度～2025年度）では、「R1」よりも厳しい経営環境下で、既存三大事業の強化により事業のレジリエンスを高め、新規ビジネスの始動により、「R3」以降への地固めを加速し、自律的に高みを目指す文化の醸成により、経営の品質を高めていくことを目標に掲げています。

ビジネス面では既存三大事業を成長させることで、全社の収益性を向上させるとともに、次世

代電池・パワーソリューション事業を始動し、事業としてのプレゼンスを高めてまいります。また「R1」ではCOVID-19の影響を受け低調だった設備関連ビジネスは、新規事業開拓で成長の礎を築き、アルカリ電池は、構造改革による収益性の改善を進めるなど、2029年のあるべき姿の実現に向けて取り組みを進めています。

R2の三本柱



2024年度の進捗ハイライト

● ニッケル水素電池 車載用途を中心に拡大 利益改善とパック加工の生産拠点の最適化を進行中 ● リチウム電池 高容量モデルの量産準備とDXによる効率化を継続 ● 電子事業・設備関連ビジネス・アルカリ電池 新規顧客開拓やコスト削減を進め、事業拡大と効率向上を図る	● 全固体電池 充電性能や容量向上を目指した汎用性の高い製品開発に注力中 ● ニッケル亜鉛電池 実用化に向けた開発とコストダウンを進めつつ、社内体制を整備 ● パワーソリューション 試作機の性能検証と試作・開発機をベースとした共同開発を推進	● 人的資本経営の強化 人的資本経営の推進とPDCA運用、360度評価制度の導入、健康経営優良法人の認定継続 ● 人材・組織力強化 自己啓発支援、褒め合い・認め合う文化の醸成、IT人材育成の推進
--	--	--

Contentsへ



INDEX

イントロダクション

FDKグループの価値創造ストーリー

価値創造モデル

FDKグループ戦略Framework「10年の計」

中期事業計画 「R1」の振り返り

▶ 中期事業計画 「R2」の三本柱／
「R2」の進捗ハイライト

主力ビジネスの利益ある成長の加速

新規ビジネスの始動と開拓

認め合い・高め合う文化の醸成

サステナビリティ

財務情報

概要、グループ会社

主力ビジネスの利益ある成長の加速

ニッケル水素電池事業

●2024年度の事業概況

2024年度のニッケル水素電池事業は、レアアース、非鉄金属を含めた材料高騰、中国市場での売り上げが伸び悩んだことにより減収減益となりました。

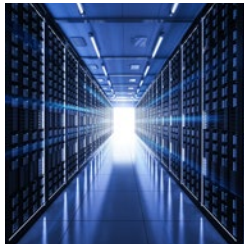
しかしながら下期には材料価格の安定、VE (Value Engineering) や経費改善の取り組みにより、第3四半期は増益となりました。

また2024年3月よりBAOTOU FDK CO., LTD. が新たな仲間となり、今後は水素吸蔵合金ビジネスについても積極的に拡販を進めてまいります。

注力市場



車載市場



電源バックアップ市場

取得済み特許件数

339件

●2024年度に取り組んだテーマ

ターゲットとする五本柱市場の確立

ニッケル水素電池事業では、2024年度を通してターゲットとする五本柱市場（車載／電源バックアップ／モビリティ／社会インフラ／市販・家電）の確立に注力しました。

車載向けでは新規の大型企画を獲得することができ、拡販に成功しました。年々市場が拡大しており、幅広い温度環境下での性能と安全性が重視されるため、需要の高まりが期待されます。

電源バックアップ、モビリティ、社会インフラ向けは社会インフラ向け大手カスタマーへの売上は増加しましたが、新規案件の獲得が減少したことにより全体の底上げにはなりません。今後は海外市場を視野に入れて拡販活動を一層進めてまいります。

市販・家電向けはアジア圏での需要増加により売上目標を達成することができました。

また、今後は燃料電池、水素貯蔵用タンク向け水素吸蔵合金ビジネスの新規拡販を進めていきます。



●残された課題

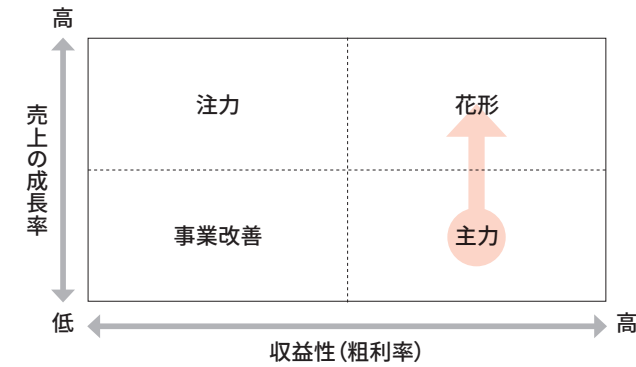
電源バックアップ、モビリティ、社会インフラ向けの拡販



●2025年度に取り組むテーマ

シン・五本柱を新たに設定し、拡販を推進する

事業ポートフォリオにおける位置づけ



関連するマテリアリティ

- 安心安全な電気エネルギーの提供
- 地球環境との共生

マテリアリティ達成に向けた取り組み

- 2025年度に新たに見直した五本柱カテゴリーの拡販により、サステナブルな社会への貢献を推進



INDEX

イントロダクション

FDKグループの価値創造ストーリー

価値創造モデル

FDKグループ戦略Framework「10年の計」

中期事業計画 「R1」の振り返り

中期事業計画 「R2」の三本柱／「R2」の進捗ハイライト

▶主力ビジネスの利益ある成長の加速

新規ビジネスの始動と開拓

認め合い・高め合う文化の醸成

サステナビリティ

財務情報

概要、グループ会社

アルカリ電池事業

●2024年度の事業概況

2024年度のアルカリ電池事業は、前年度比において減収減益となりました。年間を通じてOEM供給している鉛電池の販売が大きく落ち込んだことによる減収と、原材料高と円安傾向が継続、特に亜鉛の調達価格が高騰したことが損益面を圧迫、減益の要因となりました。

しかしながら、2024年8月に発生した日向灘地震と南海トラフ地震臨時情報「巨大地震注意」によるアルカリ電池の特需が発生し、対前年で減収減益ながら利益では営業黒字を確保することができました。

注力市場



ドラッグストア／ホームセンター／
スーパーマーケット市場



通販／WEB市場

取得済み特許件数

139件

●2024年度に取り組んだテーマ

収益力の強化に向けて

アルカリ電池事業では、2024年度を通して構造改革による利益確保、新たな販売ルート開拓と商品開発に注力しました。

構造改革による利益確保では、全販売ルートにおける売価の改定、包装工程での自動箱詰機導入による工数低減、新添加剤採用による材料費低減、ミニマムオペレーションの継続実施を行ないました。

販売については、新規開拓として、大手ドラッグストアチェーンおよび大手協同組合へのプライベートブランド商品の供給を開始し拡販に努めました。

商品開発に関しては、2025年度以降を見据えた製品の性能改良品に関して技術開発を継続するとともに、環境負荷を低減した新包装形態の開発に着手しました。



●残された課題

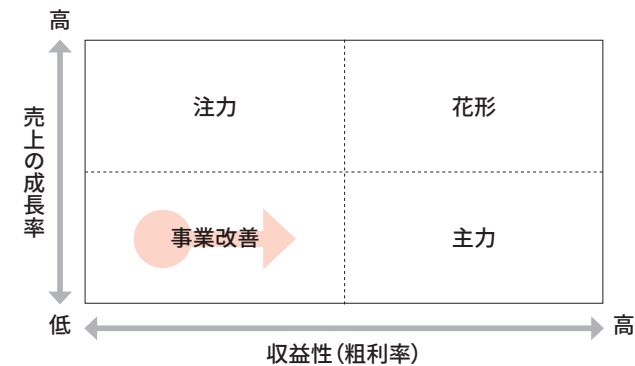
- ・建屋・設備の老朽化対策推進と柔軟な生産体制構築による事業基盤強化
- ・製販一体での販売促進と付加価値商品開発
- ・新たなアルカリ・アイデンティティとなる新ブランド立上げ
- ・事業継続に向けた人材育成と意識改革



●2025年度に取り組むテーマ

- ・新ブランド構築に向け他社との協業も含めたブランド戦略の立案
- ・事業継続に向けた建屋・設備の老朽化対策

事業ポートフォリオにおける位置づけ



関連するマテリアリティ

- 安心安全な電気エネルギーの提供
- 地球環境との共生

マテリアリティ達成に向けた取り組み

- 次期性能改良品の開発
- 環境負荷低減に関する技術開発
- 要素技術による放電特性解析手法の検討

Contentsへ



INDEX

イントロダクション

FDKグループの価値創造ストーリー

価値創造モデル

FDKグループ戦略Framework「10年の計」

中期事業計画 「R1」の振り返り

中期事業計画 「R2」の三本柱／
「R2」の進捗ハイライト

▶主力ビジネスの利益ある成長の加速

新規ビジネスの始動と開拓

認め合い・高め合う文化の醸成

サステナビリティ

財務情報

概要、グループ会社

リチウム電池事業

●2024年度の事業概況

2024年度のリチウム電池事業は、国内向けメータ用途、産業・医療向けで売上は伸長しましたが、海外向けセキュリティ・メータ用途向けが減少したことにより、売上は前年度を下回る結果となりました。また、ウクライナ・中東地域での地政学的な問題、米国の政権交代による今後の政策動向など景気の先行きが不透明な状況で推移しました。

一方で為替変動、原材料価格の変動、物価、人件費の上昇といった外部要因などに対応するため、原価低減活動を中心とした施策を推進し、事業のレジリエンス強化に努めてまいりました。

注力市場



スマートメータ関連市場



産業・医療市場

取得済み特許件数

110件

●2024年度に取り組んだテーマ

高容量モデルCR17500EXの商品化とレジリエンスの強化

リチウム電池事業では、2024年度を通して高容量モデルCR17500EXのサンプル出荷とレジリエンスの強化に注力しました。

高容量モデルCR17500EXは国内・海外向けのスマートメータ関連機器、IoT機器向けなど市場動向を踏まえ顧客ニーズに即した「お客様から選ばれる商品」として開発しました。技術面では新技術を採用し、容量を同形状の当社従来商品比で17%向上させ、高容量化を実現し他社との差別化を図りました。本商品は2025年度下期に本格的な量産体制へ移行し販売を予定しています。

レジリエンスの強化としては為替変動、原材料価格の変動、物価、人件費の上昇、中東情勢を発端とする輸送問題、米国相互関税など急速に変化する外部・内部環境に対応するため、製品価格改定、工場再編による生産性改善、DX/AIなどを活用した原価低減活動を促進させ強固な事業基盤を構築しました。

●残された課題

- ・新商品のスムーズな量産移行
- ・DX/AIのさらなる活用

●2025年度に取り組むテーマ

- ・新商品の販売拡大
- ・DX/AI、自動化の推進

事業ポートフォリオにおける位置づけ



関連するマテリアリティ

- 安心安全な電気エネルギーの提供
- 地球環境との共生

マテリアリティ達成に向けた取り組み

- 高容量モデルの商品化
- 太陽光発電システム導入
- 工場再編による生産性改善

Contentsへ



INDEX

イントロダクション

FDKグループの価値創造ストーリー

価値創造モデル

FDKグループ戦略Framework「10年の計」

中期事業計画 「R1」の振り返り

中期事業計画 「R2」の三本柱／
「R2」の進捗ハイライト

▶主力ビジネスの利益ある成長の加速

新規ビジネスの始動と開拓

認め合い・高め合う文化の醸成

サステナビリティ

財務情報

概要、グループ会社

設備関連ビジネス

●2024年度の事業概況

2024年度の設備関連ビジネスは、製造業の設備投資が回復基調にあり、事業の後押しとなりました。

さらに2024年度は2022年頃から伸長していた自動車関連向け大型設備のリピー特受注が集中する特殊環境となり、国内・海外向けに多くの設備納品があり増収増益となりました。

また、撮影機器向けの中型設備の受注も継続したことで設備関連ビジネスの下支えとなりました。

注力市場



車載向け設備市場

取得済み特許件数

17件

●2024年度に取り組んだテーマ

将来を見据えた新規拡販強化

当社グループの設備関連ビジネスを担うFDKエンジニアリングでは、2024年度を通してマーケティングを強化し新規顧客開拓を拡大および既存顧客の深耕開拓をしていくことで事業価値向上を図ってまいりました。

FDKエンジニアリングの強みである構想提案力や部品組立技術に加え、AIを活用した画像検査装置などソフトウェアの開発強化により、お客様のニーズに合わせ、最適な設備構成を提案してまいりました。また、同業他社との協業体制を構築し新規顧客獲得および既存顧客の取りこぼしがないようビジネスの安定化と利益ある成長を図ってまいりました。

その結果、従来の自動車関連・電池・電気電子・医療関連分野等だけでなく、半導体関連・一次産業向け設備への参入を図ることができました。



●残された課題

- ・新規受注案件および新規顧客獲得強化
- ・人員（設計・制御技術者）確保

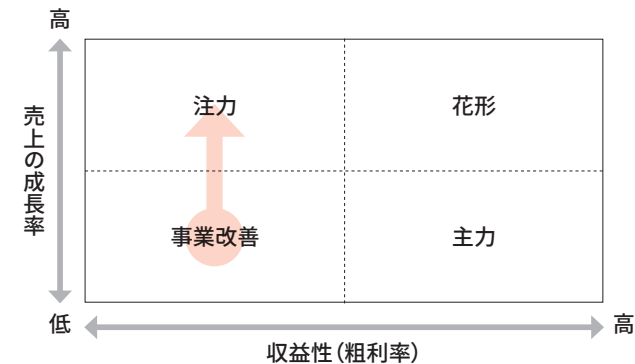


●2025年度に取り組むテーマ

新規市場への拡販強化および新技術の獲得

- ・マーケティング強化による新規顧客開拓の拡大
- ・パートナー会社との連携強化と技術力向上

事業ポートフォリオにおける位置づけ



SDGsへの取り組み

- メカ駆動技術を駆使した圧縮エア消費の削減によるエネルギー削減
- RoHS指令に準拠した有害物質を使わない設備やフルオートメーション設備などのご提供による、脱炭素や労働力不足などの課題解決への寄与



電子事業

●2024年度の事業概況

2024年度の電子事業は、半導体市場では前年の不況から回復基調に入りつつあるものの、分野や地域によってばらつきが見られ、在庫調整や設備投資の抑制が進んだことにより、主要顧客でも電子部品の需要が全体的に減少しました。この影響を受け、電子事業が主力として展開している電源製品の売上が落ち込み、事業の収益性に直接的な影響を与えました。さらに、プリンターや複写機市場の成熟化に伴ない、トナー関連製品の需要も縮小しており、これらが電子事業の減収要因となっています。厳しい市場環境の中、電子事業では新規ビジネスの獲得と既存顧客の深耕開拓に取り組んでおり、その一環として、Bluetooth® Low Energyモジュールのサンプル出荷を開始しました。これにより、IoTやスマートデバイス市場への対応を強化し、将来的な成長基盤の構築を目指しています。

注力市場



半導体・液晶市場



モビリティ市場

取得済み特許件数

171件

●2024年度に取り組んだテーマ

事業価値向上、ビジネスモデルの転換

電子事業では、2024年度を通して、事業価値向上、ビジネスモデルの転換をテーマに多くの取り組みに注力しました。

既存顧客向けの新モデルの継続受注の確保、新規顧客向けの積極的な拡販活動、サンプル出荷を開始したBluetooth® Low Energyモジュールの拡販など、IoT・スマートデバイス市場への対応を強化し、通信モジュール事業の拡大を図っています。

また全固体電池やパワーソリューションとの連携については、電子事業と電池事業との技術融合により、次世代エネルギーソリューションの創出を目指し、2024年度については高付加価値製品の開発と市場投入を推進しました。

さらには外部パートナーとの連携を通じた生産の効率化、サプライチェーンの最適化による原価低減を進め、他社との協業によるコストダウンを行なうとともに、AI・ロボティクス等を活用したSmart Factory化、RPAやPythonを用いた業務効率化、デジタルサプライチェーンの構築を進め、DXによる業務・製造の変革を推し進めています。

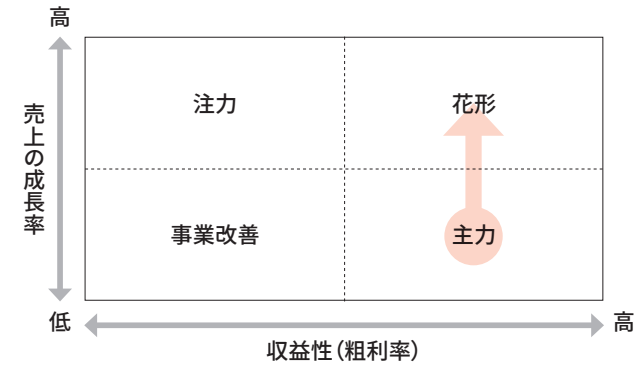
●残された課題

- ・特定顧客への高い依存
- ・コスト構造の硬直性
- ・新規顧客獲得

●2025年度に取り組むテーマ

- ・特定顧客への高い依存からの脱却（拡販・差別化）
- ・コストダウン（他社との協業、連携）

事業ポートフォリオにおける位置づけ



関連するマテリアリティ

- 安心安全な電気エネルギーの提供
- 地球環境との共生

マテリアリティ達成に向けた取り組み

- 既存顧客の深耕と新規顧客の開拓
- Bluetooth® Low Energyモジュールの拡販
- 全固体電池・パワーソリューションとの連携
- 他社との協業によるコストダウン



INDEX

イントロダクション

FDKグループの価値創造ストーリー

価値創造モデル

FDKグループ戦略Framework「10年の計」

中期事業計画 「R1」の振り返り

中期事業計画 「R2」の三本柱／
「R2」の進捗ハイライト

▶主力ビジネスの利益ある成長の加速

新規ビジネスの始動と開拓

認め合い・高め合う文化の醸成

サステナビリティ

財務情報

概要、グループ会社

新規ビジネスの始動と開拓

FDKグループは、グループ戦略Framework「10年の計」のあるべき姿において、2029年度の売上目標800億円のうち30%を新規ビジネスで構成することを目指しており、近年ではニッケル亜鉛電池の実用化推進に注力しています。ニッケル亜鉛電池は当社が長年製造してきた

ニッケル水素電池をベースに開発が進んでおり、鉛蓄電池に比べて軽量で環境負荷が少なく、高い安全性と優れた充放電特性を持つことから、持続可能な社会実現への貢献に大きく資すると考えています。

トピック：次世代電池（ニッケル亜鉛電池）

ニッケル亜鉛電池とは

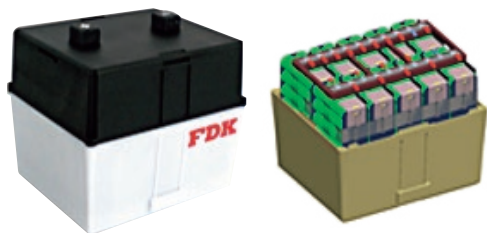
ニッケル亜鉛電池は、ニッケル水素電池と同じニッケルの正極と、アルカリ乾電池と同じ亜鉛の負極から成る電池です。高出力・高い安全性や低コスト・環境負荷が低い点などのメリットを持つ一方、量産技術の確立が課題となっていました。当社は長年培ってきたニッケル水素電池で使用する正極技術や製造技術、アルカリ乾電池の亜鉛負極技術で、量産化への課題を解決しつつあります。当社のニッケル亜鉛電池は、以下のような特長を備えています。

- ・鉛蓄電池と比較して、重量エネルギー密度が約2倍
- ・鉛蓄電池と比較して、充放電サイクルが約3倍
- ・資源豊富な亜鉛を用い、鉛などの有害物質を不使用
- ・水系電解液を用いているため、火災などのリスクが小さく安全性に優れている

こうした特長を優位性として活かすことで、ニッケル亜鉛電池は巨大な鉛電池市場の一部を代替し得ると考えています。

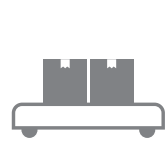


ニッケル亜鉛電池 ZR-4/3FAUP



組電池の例とケース内イメージ

ニッケル亜鉛電池のターゲット市場



電動モビリティ (AGV)



エンジン始動用



サーバー・ストレージ機器



エレベーター機器



その他バックアップ機器

量産出荷を目指した取り組み

当社の高崎工場の屋外キャビネットで実施している連続充電評価試験では、すでに2年以上充放電を継続しています。また、同工場内での製品運搬用AGVの電源として、連続走行の実証実験を行なっています。なお、AGVそのものも弊社の内製開発品となっています。さらに、エクシオグループ株式会社様のソーラーカーポートのバックアップ電源として当社のニッケル亜鉛電池を提供しており、実証実験に参加しています。



当社高崎工場敷地内の連続充電評価試験



高崎工場 AGV 連続走行実証実験



エクシオグループ様
グリッドフリーソーラーカーポート
＊ 停電時のシステム制御用のバックアップ電源

Contents へ



INDEX

イントロダクション

FDKグループの価値創造ストーリー

価値創造モデル

FDKグループ戦略Framework「10年の計」

中期事業計画 「R1」の振り返り

中期事業計画 「R2」の三本柱／
「R2」の進捗ハイライト

主力ビジネスの利益ある成長の加速

▶ 新規ビジネスの始動と開拓

認め合い・高め合う文化の醸成

サステナビリティ

財務情報

概要、グループ会社

認め合い・高め合う文化の醸成

FDKグループでは、お客様、株主、従業員の期待に応える新たな価値を提供し企業価値を高めるとともに、環境経営（カーボンニュートラル等）や企業文化・風土等の変革を推し進める全社DXプロジェクトを、部門・グループ横断で進めています。
年々増加する多品種少量生産への要求やカーボンフットプリントなど、従来のものづくりからの

変革や新しい対応が求められており、その対応として、ものづくりプロセスを最新のITツールやデジタル技術活用をベースに再設計し、スピード感を持った体制づくりと環境対応等を進めています。DXプロジェクトではものづくり以外の様々な業務プロセスの標準化・効率化、人事制度や働く環境といった企業全体の変革につなげ、さらには企業文化・風土も変革していきます。

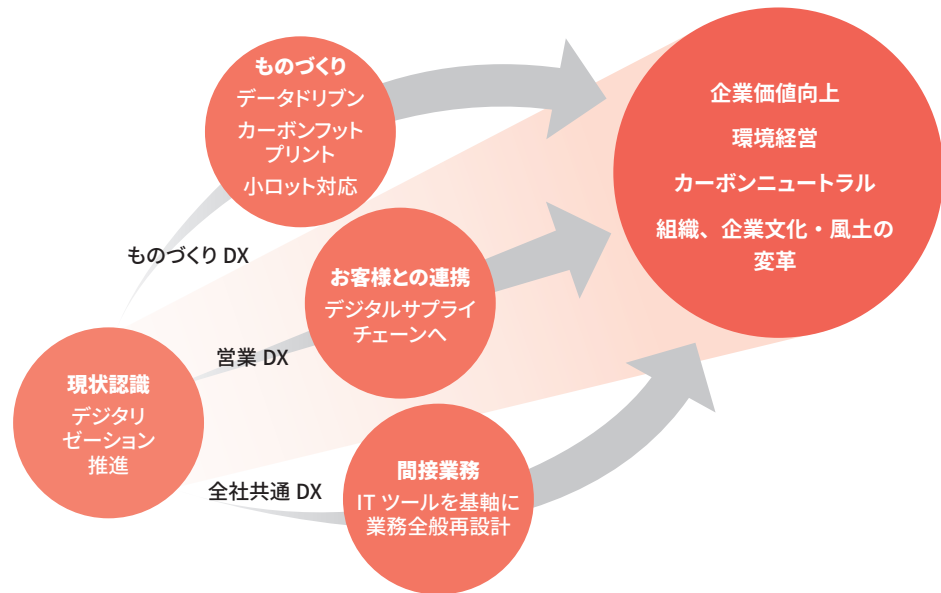
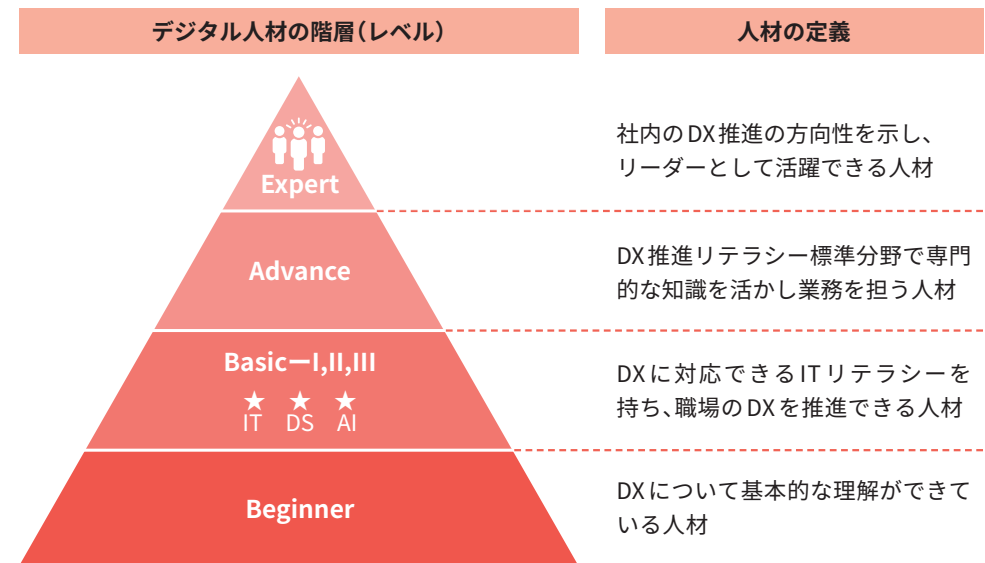
トピック:全社DXプロジェクトとデジタル人材の育成

当社DXの取り組み概要

当社のDXは「現状認識」を起点とし、デジタル技術をベースに「ものづくり」「間接業務」「お客様との連携」を大胆に再設計します。DXに関する活動はそれぞれの部門が主体的に推進しながら、お客様、株主、従業員の期待に応える新たな価値を提供し、企業価値向上、環境経営、組織、企業文化・風土の変革を目指します。

デジタル人材の育成

当社のデジタル人材の育成は、全従業員が一定の知識とデジタル活用のマインドセットを持つことで、業務効率向上や変化への迅速な適応を図り、個人、組織の持続的な成長につなげることを目的としています。
当社はデジタル人材を以下の内容で階層化して定義しており、デジタル人材認定制度を策定した上でDXリテラシー教育の実施やリスクリングなどを行なっております。



トピック:知的財産 DX

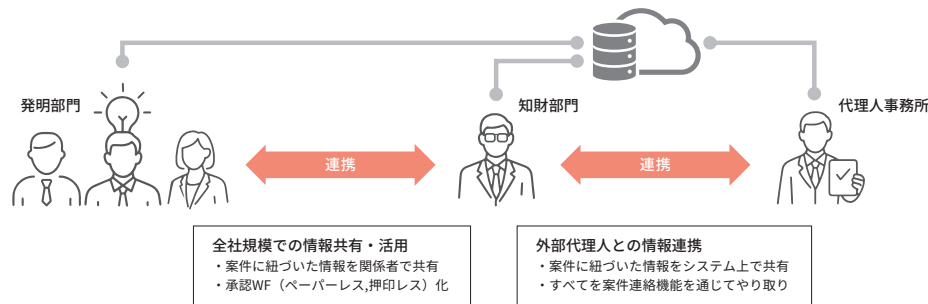
知的財産管理データベースの一元化

当社では、知的財産に関する全社的な業務効率化と情報共有・活用を重要課題と捉え、2021年度よりクラウド管理システムを先行導入し、知的財産 DX を推進してきました。特許・意匠・商標に関する国内外の権利維持管理をはじめ、アイデア創出から出願・権利消滅までの履歴やタスク、報奨金、費用など、従来分散していた情報をクラウド上に集約・連携し、全社的な情報共有と活用を実現しました。

さらに、業務プロセスの刷新と費用削減にも成功し、ワークフローによる電子承認（完全ペーパーレス・押印レス）を導入したほか、知財部門の時間外労働を FY20 比で約 1/4 の削減を実現しました。

当社は、知的財産 DX より獲得したリソースを活用し、他社に影響を与える権利取得や経営に資する知財活動にも積極的に取り組んでいます。

クラウドシステムを利用した業務効率化のイメージ



システム導入による改善効果

時間外労働抑制	重点施策への注力	
知的財産部員の時間外労働 FY20 比約1/4達成 導入前 (FY20) 平均 48時間/月 1名あたり9.7時間/月 ↓ 定着後 (FY23) 平均 16時間/月 1名あたり 2.3時間/月	Front/Engine支援 ・発明作り込み 支援 ・新製品事業化の支援を強化 (全固体電池、リチウム電池、ニッケル亜鉛電池) ・出願戦略および権利化費用の最適化	価値ある情報発信 ・回答リードタイム短縮 ・タイムリーな情報提供 ・知的財産の価値を可視化し全社で共有

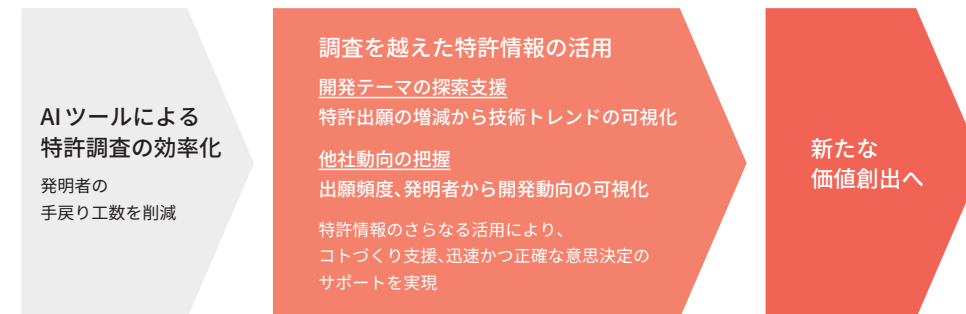
AI 特許調査ツールによる発明者・事業部支援

当社では、特許出願前に発明者自身が特許検索ツールを用いた先行技術調査を行なっています。しかし、調査には高度な検索スキルと明細書の読解力が必要で、時間もかかるため、従来のツールでは十分な調査ができないという課題がありました。

このような課題を解決するため、知的財産 DX の施策として AI 特許調査ツールを導入しました。発明者が技術概要を平易な文章で入力するだけで AI が先行技術を自動検索し、関連性の高い技術を優先順に提示するため、高度なスキルがなくても迅速・的確な調査が可能となり、発明者が本来の開発業務に集中できる環境も整いました。

さらに知的財産部門では「新たな価値創出」を掲げ、従来は困難であった開発テーマ探索や他社動向把握などの事業戦略支援に AI 分析を活用し、発明部門に鮮度の高い情報をタイムリーに提供しています。

AI 特許調査ツール導入による効果のイメージ



知的財産 DX が拓く、新たな企業価値創造

当社では、知的財産 DX を通じて、業務効率化やコスト削減、出願戦略の最適化や AI の利活用拡大など、着実な成果を上げてきました。一方で、知財戦略と経営戦略との整合性の確保といった課題も顕在化しており、「守る知財」からさらなる「経営に資する知財」への進化を図るとともに、環境保全や地域貢献などの社会的価値の創出にも貢献する戦略的な知財活用に取り組んでいます。

当社は引き続き、持続的な成長と企業価値の向上を目指し、知的財産の可能性を最大限に引き出してまいります。

Contents へ



INDEX

イントロダクション

FDK グループの価値創造ストーリー

価値創造モデル

FDKグループ戦略Framework「10年の計」

中期事業計画 「R1」の振り返り

中期事業計画 「R2」の三本柱／
「R2」の進捗ハイライト

主力ビジネスの利益ある成長の加速

新規ビジネスの始動と開拓

▶ 認め合い・高め合う文化の醸成

サステナビリティ

財務情報

概要、グループ会社

FDK アイデンティティにおける 「10年の計」×サステナビリティ経営

FDKのアイデンティティは、土台となる「Value(価値観)」と経営環境等の変化に応じて変えていく「戦略」、どのような経営環境下でも変化しない概念である「経営理念」から成り立っています。「Value(価値観)」の一つである、マテリアリティをもとにサステナビリティ経営を進め、企業価値向上に努めています。

掲げる理想

経営理念

進化に挑戦 輝く未来と笑顔のために

FDKグループ戦略 Framework「10年の計」

Vision

FDKグループは、Smart Energy Partnerとして、先進技術を結集し、お客様に電気エネルギーを安心して効率的に活用いただき、持続可能な社会の実現と発展に貢献します。

あるべき姿(≒ Vision達成の定義)

誰に: 人々の暮らしと社会を支える企業と個々のユーザーに

何を: クリーン且つ、安全な電気エネルギーを安定的に活用できるオファリングを届ける(電池/ものづくり、次世代電池、パワーマネジメントソリューション)

いつ: 2029年

中期事業計画「R2」(2023～2025年度)の3本柱

1 主力ビジネスの利益ある成長の加速

- ニッケル水素電池: ビジネスモデルの変革を加速
- リチウム電池: 信頼され選ばれる電池の安定供給
- アルカリ電池: 事業価値の向上
- 電子事業: 差別化によるさらなる事業価値向上
- 設備関連ビジネス: 「選ばれる設備メーカー」へのステップアップ

2 新規ビジネスの始動と開拓

- 全固体電池: 本格的市場投入
- 次世代電池: 開発推進およびビジネスプラン策定
- パワーマネジメントソリューション: 電子技術を活用した開発

3 認め合い・高め合う文化の醸成

- ガバナンス強化
- 人的資本経営の強化
- 社会的課題への取り組み(サステナビリティ)

FDKのサステナビリティ経営: 中長期目標

- 様々なパートナーとともに未来のスマートシティの実現をはじめ、様々なシーンで貢献できる製品・ソリューションを開発し提供
- カーボンニュートラルへの貢献/ステークホルダーとの協働/資源の有効活用～様々な観点での資源有効活用～
- 人材投資(教育)の充実/ダイバーシティ(インクルージョン)の推進/キャリア形成・能力開発支援/安全で健康的な職場の提供～快適な職場づくりの推進～/健康経営の実現
- 当社グループコーポレートガバナンス・ポリシーの策定/ステークホルダーへのアカウンタビリティの充実/リスクマネジメントの経営プロセスへのさらなる深化/内部統制の推進による業務上のリスクコントロールの強化/法令・社会規範の監視体制の維持・継続的な教育
- ツナガル情報の発信/未来にツナゲル機会の提供/笑顔をツナグ貢献活動の推進

マテリアリティ

1. 安心安全な電気エネルギーの提供
2. 地球環境との共生
3. 多様な人材の活躍推進
4. コーポレート・ガバナンスの持続的強化/リスクコンプライアンスの高度化
5. 地域・社会・コミュニティの持続可能性への貢献

And Game 計画実行にあたり大切にすべき、FDKの新しい文化

お客様の満足

従業員に対する責任

and

(すべてに配慮)

株主への約束

社会への貢献

FDK 企業行動指針

戦略

環境の変化とともに
常に検証・更新

Value

FDKを常に支える土台

Contentsへ



INDEX

イントロダクション

FDKグループの価値創造ストーリー

サステナビリティ

▶ FDKアイデンティティにおける
「10年の計」×サステナビリティ経営

サステナビリティマネジメント

マテリアリティ

安心安全な電気エネルギーの提供

地球環境との共生

多様な人材の活躍推進

コーポレート・ガバナンスの持続的強化/
リスクコンプライアンスの高度化

地域・社会・コミュニティの持続可能性
への貢献

財務情報

概要、グループ会社

サステナビリティマネジメント

FDKグループにとってのサステナビリティ活動は、経営理念である「進化に挑戦 輝く未来と笑顔のために」のもと、ステークホルダー*と協働し、すべての事業活動を通じて様々な社会問題を解決することで、持続可能な社会の実現に貢献していくことです。

サステナビリティ推進体制

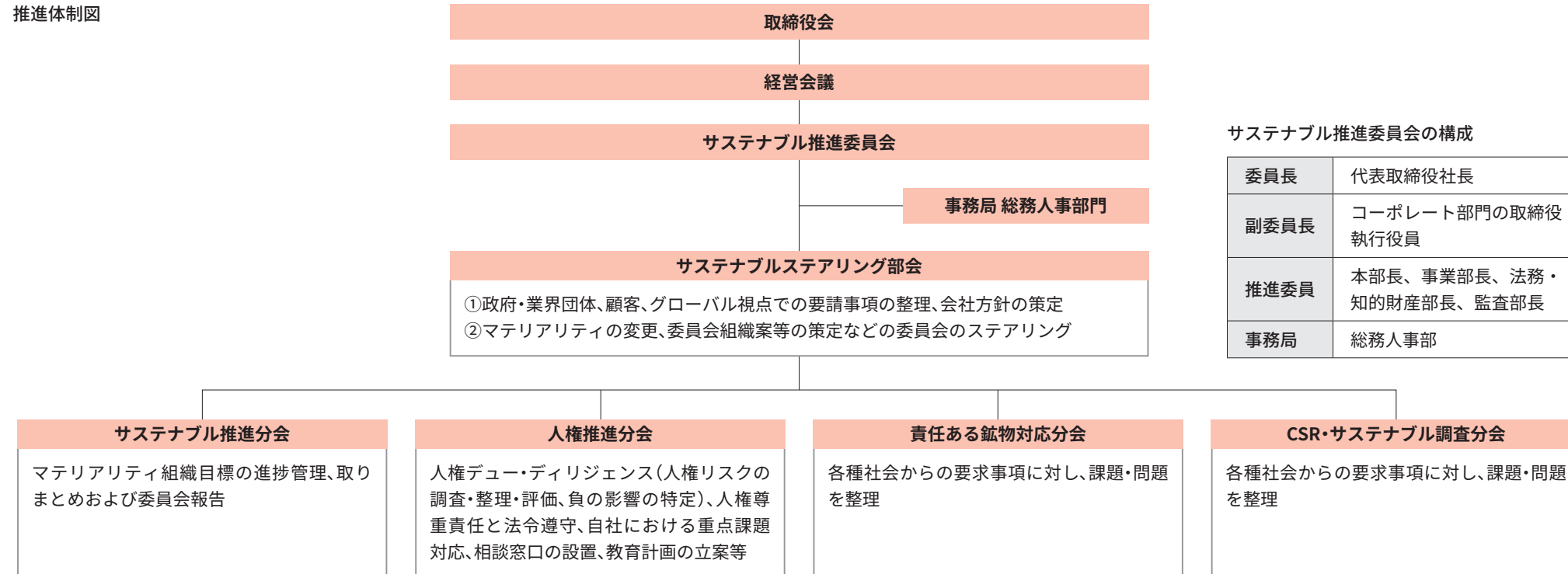
FDKグループは、サステナビリティ活動の推進にあたり、グループの横断的なSDGs実現や環境・社会・ガバナンス分野における中長期的な課題を議論・決定・評価するため、サステナブル推進委員会を設置しています。サステナブル推進委員会は、代表取締役社長を委員長とし、情報発信、新たな社会貢献事例や持続可能な社会とビジネスの在り方などについて定期的なレビューを行っています。

* FDKグループのステークホルダー: FDKグループは、「お客様」「お取引先様」「株主・投資家」「社員」「国際社会・地域社会」をステークホルダーとしています。また、「政府」「NPO」「NGO」「学会」「業界団体」「国際機関」なども「国際社会・地域社会」の中の重要なステークホルダーと考えています。

サステナビリティ基本方針

FDKグループは、経営理念である「進化に挑戦 輝く未来と笑顔のために」のもと、ステークホルダーと協働し、すべての事業活動を通じて様々な社会問題を解決することで、持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

推進体制図



サステナブル推進委員会の構成

委員長	代表取締役社長
副委員長	コーポレート部門の取締役執行役員
推進委員	本部長、事業部長、法務・知的財産部長、監査部長
事務局	総務人事部



INDEX

イントロダクション

FDKグループの価値創造ストーリー

サステナビリティ

FDK アイデンティティにおける「10年の計」×サステナビリティ経営

▶ サステナビリティマネジメント

マテリアリティ

安心安全な電気エネルギーの提供

地球環境との共生

多様な人材の活躍推進

コーポレート・ガバナンスの持続的強化／リスクコンプライアンスの高度化

地域・社会・コミュニティの持続可能性への貢献

財務情報

概要、グループ会社

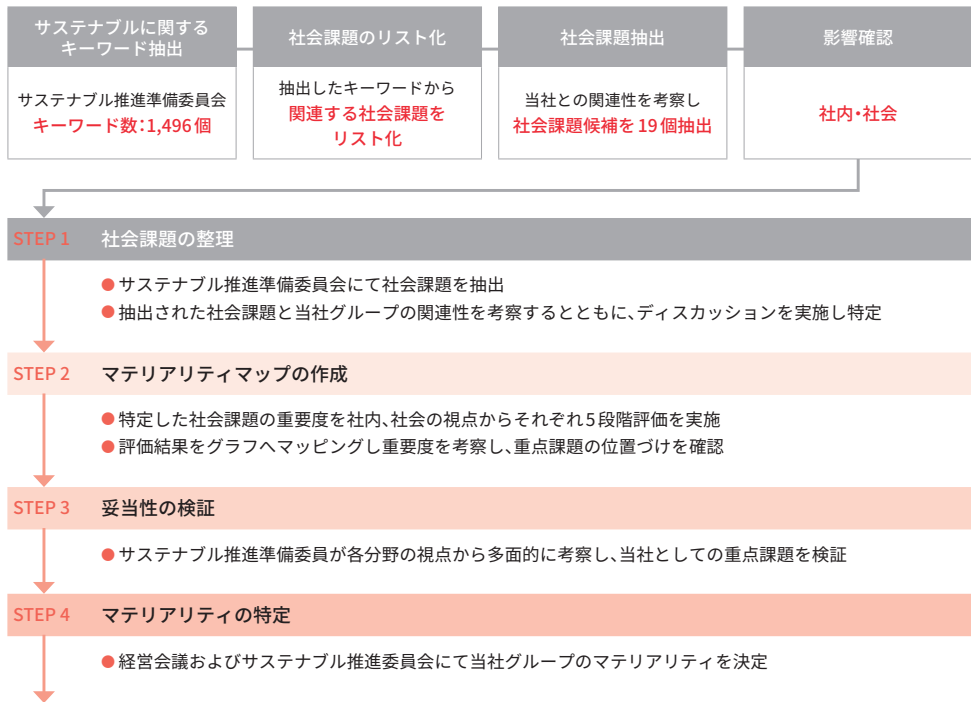
マテリアリティ

当社グループは、経営理念である「進化に挑戦 輝く未来と笑顔のために」およびVisionである「FDKグループは、Smart Energy Partnerとして、先進技術を結集し、お客様に電気エネルギーを安心して効率的に活用いただき、持続可能な社会の実現と発展に貢献します」を実現

マテリアリティの特定プロセス

当社グループのマテリアリティの特定にあたっては、社内に「サステナブル推進準備委員会」を立ち上げ、委員会メンバーによる社会課題の抽出を行ない、その後、当社グループおよびステークホルダーへの重要度の観点から各マテリアリティ候補の評価を行なうとともに、経営会議等におけるディスカッションを踏まえた上で5つのマテリアリティを特定しました。2022年度からは各マテリアリティにおけるKPIを設定し、それぞれの事業部門等で取り組みを進めています。

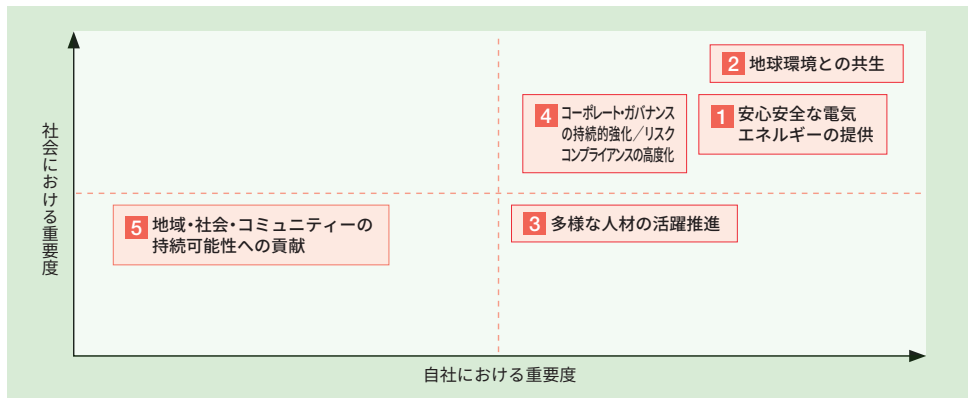
社会問題の整理フロー



していくために、新たに5つのマテリアリティを特定しました。

当社グループは、事業活動を通じて特定した5つのマテリアリティを実現し、社会の持続的な発展とサステナブルな企業価値向上を目指しています。

当社グループの5つのマテリアリティ(重点課題)



マテリアリティ	当社にとってのマテリアリティの施策	ESG区分	関連するSDGs
1 安心安全な電気エネルギーの提供	●サステナブルな社会を支える製品およびソリューションを提供する	E・S	7 持続可能なエネルギー、9 産業・革新性、11 持続可能な都市とコミュニティ
2 地球環境との共生	●気候変動への対応 ●持続的社会的実現・発展への貢献 ●循環型社会の推進	E	7 持続可能なエネルギー、12 持続可能な消費と生産、13 気候変動
3 多様な人材の活躍推進	●全従業員の能力を最大限に発揮できる環境づくり ●健康で働き続けられる環境づくり	S	3 健全な生活、4 質の高い教育、5 ジェンダー平等、8 働きがい、10 人や国の不平等の解消
4 コーポレート・ガバナンスの持続的強化／リスクコンプライアンスの高度化	●ステークホルダーの立場を踏まえ、経営の透明性と客観性を確保した迅速な意思決定を実現するための体制と監督機能の強化 ●リスクコンプライアンス体制の基盤強化 ●全社内統制の強化 ●法令および社会規範の遵守と高い倫理観を持った行動の徹底	G	16 平和と公正
5 地域・社会・コミュニティの持続可能性への貢献	●地域社会とつながり、笑顔溢れる世の中の実現	S	3 健全な生活、14 海の豊かさ

Contentsへ



INDEX

イントロダクション

FDKグループの価値創造ストーリー

サステナビリティ

FDKアイデンティティにおける「10年の計」×サステナビリティ経営

サステナビリティマネジメント

▶ マテリアリティ

安心安全な電気エネルギーの提供

地球環境との共生

多様な人材の活躍推進

コーポレート・ガバナンスの持続的強化／リスクコンプライアンスの高度化

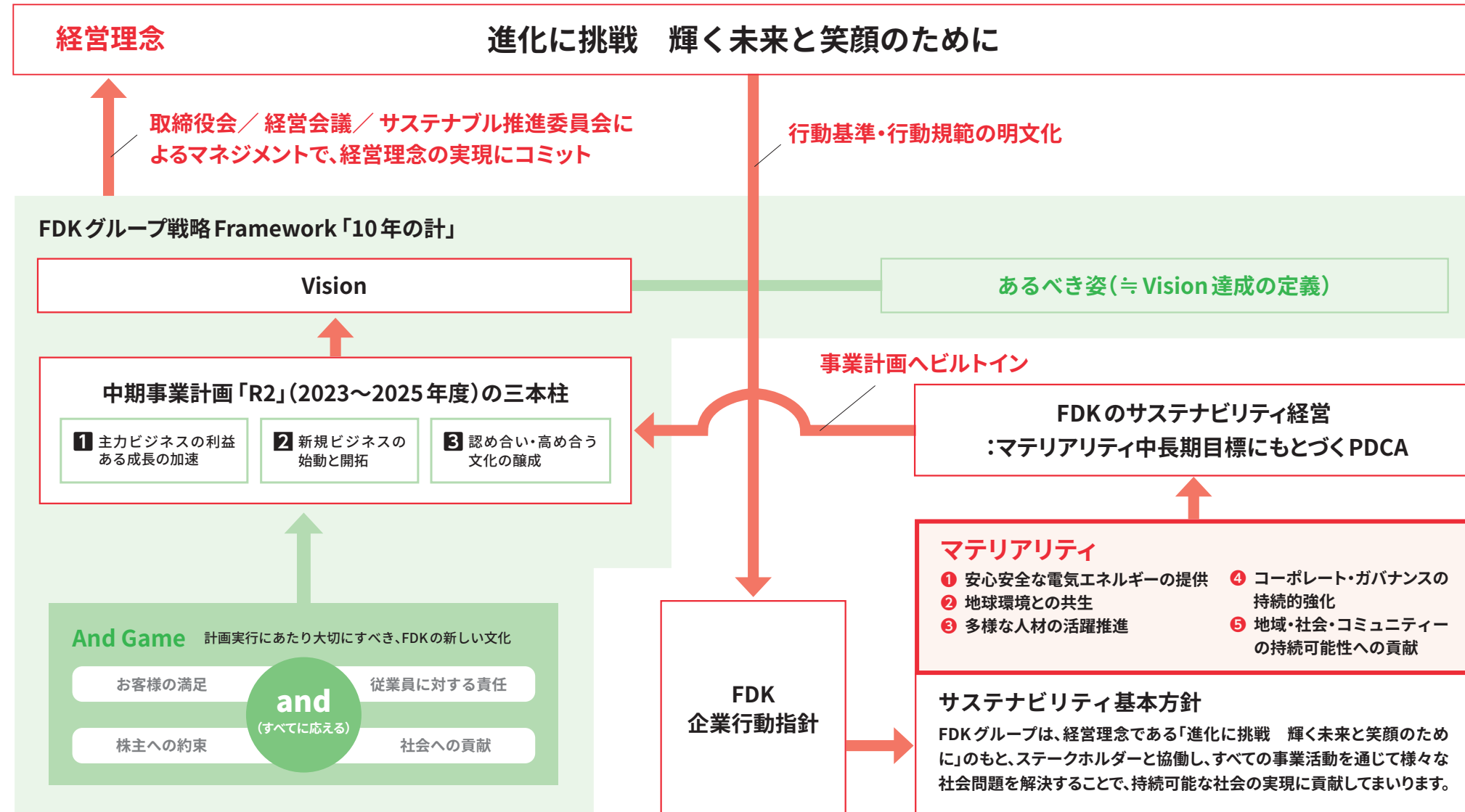
地域・社会・コミュニティの持続可能性への貢献

財務情報

概要、グループ会社

FDKグループのサステナビリティ基本方針にもとづく マテリアリティの位置づけ

FDKグループのマテリアリティは、当社グループおよびステークホルダーへの重要度の観点から優先度を検討して設定しており、マテリアリティに関連するSDGsの解決に向けてサステナビリティ経営を推進しています。5つのマテリアリティの重点施策の実践を通じて、すべてのステークホルダーに価値を提供するとともに、FDKグループの経営理念の実現に取り組んでいます。



INDEX

イントロダクション

FDKグループの価値創造ストーリー

サステナビリティ

FDKアイデンティティにおける「10年の計」×サステナビリティ経営
サステナビリティマネジメント

マテリアリティ

安心安全な電気エネルギーの提供

地球環境との共生

多様な人材の活躍推進

コーポレート・ガバナンスの持続的強化／
リスクコンプライアンスの高度化

地域・社会・コミュニティの持続可能性
への貢献

財務情報

概要、グループ会社

5つのマテリアリティ

マテリアリティ	重点テーマ	中長期目標	目標	2024年度実績
①安心安全な電気エネルギーの提供	サステナブルな社会を支える製品およびソリューションを提供する	■様々なパートナーとともに未来のスマートシティの実現をはじめ、様々なシーンで貢献できる製品・ソリューションを開発し提供【具体的なシーン】 1. Smart Infrastructure 2. Smart Home & Office 3. Smart Retail Store 4. Smart Factory & Mobility	1. Smart Infrastructure 社会インフラ用途の製品開発、性能向上を目指した新製品開発、資源効率向上に寄与する製品開発 2. Smart Home & Office 家電用途向け製品の開発、性能向上を目指した新製品開発、環境負荷低減に関する技術開発 3. Smart Retail Store 電源バックアップ用途向け製品の量産開始、性能向上を目指した新製品開発 4. Smart Factory & Mobility 車載アクセサリやモビリティ用途向け製品の量産および拡販	P.32
②地球環境との共生	気候変動への対応	■カーボンニュートラルへの貢献 1. 再生可能エネルギー導入:2030年までに100% 2. Scope 1～Scope 3排出量の統合管理達成 3. 省エネ活動1%削減/年＝2029年度で7%削減	1. 2024年度再生可能エネルギー導入率24%相当、太陽光発電の運用開始(鳥取工場) 2. Scope 3排出量管理のためのサプライヤーからの情報収集および体制構築を実施 3. 省エネルギー化への施策を抽出し、目標達成に向けて実行、老朽化した設備の計画的な更新	P.35
	持続的社会の実現・発展への貢献	■ステークホルダーとの協働 1. サプライチェーンとの協働推進 2. 社内体制の再構築 3. 国内外の外部機関との連携推進 4. 国際標準規格の提案 5. 含有化学物質調査の100%維持継続 6. 責任ある鉱物調達調査の100%維持継続	1. 人権デュー・ディリジェンスの実施の上、サプライヤー(取引先を含む)へ取り組み内容を統合報告書にて公開 2. CSR調査のシステム化による進捗の可視化 3. 欧州電池規則、バッテリーデュー・ディリジェンスの情報収集および対応 4. 電池工業会を通じた国際標準規格への貢献 5. 含有化学物質調査の100%維持継続 6. 責任ある鉱物調達調査の100%維持継続	
	循環型社会の推進	■資源の有効活用～様々な観点での資源有効活用～ ＊効率・長寿命・低減・削減・リサイクル 1. 省資源化に寄与する製品の設計・開発 2. 資源効率向上に寄与する製品の設計・開発	1. 省資源化製品の設計・開発、調達材料と廃棄物の削減、コバルトなどのレアメタル使用量の削減、製品の長寿命化 2. 材料使用量の削減、減ブラの検討、材料利用率の改善	
③多様な人材の活躍推進	全従業員の能力を最大限に発揮できる環境づくり	■人材投資(教育)の充実	1. 能力開発 ・社内での創造活動の活性化を図るためのPMO養成研修の導入 2. タレントマネジメント(人材育成) ・次世代リーダーの育成強化 ・グローバル人材育成に向けた語学教育(留学)の継続 3. 学習機会の提供 ・eラーニングおよび通信教育、道場の活用促進 ・自ら学ぶ文化の醸成、従業員のスキルおよびモチベーション向上に寄与する機会の提供	P.40
		■ダイバーシティ(インクルージョン)の推進 1. 障がい者雇用の継続・支援 2. 環境・ファシリティ整備(ユニバーサルデザイン化の拡張) 3. ワークライフバランスの充実	1. 障がい者雇用活動の継続と支援、受け入れ部門の知識と理解度の向上 2. ダイバーシティ・インクルージョンに関する研修、人権セミナーの実施 3. 男性の育児休暇取得率の向上 各種休暇制度の充実および取得促進	
		■キャリア形成・能力開発支援 1. 女性管理職比率の向上 ＊2025年度に21年度比150% 2. セカンドキャリア支援	1. 次世代リーダー研修への女性従業員の参加数増加、国際女性デーセミナーの実施 2. シニア社員向けの研修の開催 資格手当に関する制度の見直し	

INDEX

イントロダクション

FDKグループの価値創造ストーリー

サステナビリティ

FDKアイデンティティにおける「10年の計」×サステナビリティ経営

サステナビリティマネジメント

▶マテリアリティ

安心安全な電気エネルギーの提供

地球環境との共生

多様な人材の活躍推進

コーポレート・ガバナンスの持続的強化／リスクコンプライアンスの高度化

地域・社会・コミュニティの持続可能性への貢献

財務情報

概要、グループ会社

マテリアリティ	重点テーマ	中長期目標	目標	2024年度実績
③多様な人材の活躍推進	健康で働き続けられる職場づくり	■安全で健康的な職場の提供～快適な職場づくりの推進～ 1. 労働安全衛生リスク低減の徹底 2. 労働安全衛生教育の充実	1. 労働安全衛生リスク低減活動 2. 労働安全衛生教育訓練計画の進化	P.40
		■健康経営の実現 1. 健康経営優良法人の認証取得 2. ワークライフバランスの充実 ・長時間労働対策 ・有給休暇取得率の向上(取得率80%) ・育児・介護との両立支援(男性の育児・介護休暇取得率30%) 3. 社員の健康増進 ・定期健康診断高リスク者の低減／社員のコミュニケーション向上	1. 健康経営優良法人の認証取得 2. 有給休暇取得率80%の達成および時間外労働の抑制 3. ヘルスリテラシー啓発活動の実施	
④コーポレート・ガバナンスの持続的強化／リスクコンプライアンスの高度化	ステークホルダーの立場を踏まえ、経営の透明性と客観性を確保した迅速な意思決定を実現するための体制と監督機能の強化	■指名・報酬委員会の計画的な運営および改善	1. 指名・報酬委員会の運営と取締役会への確実な答申 2. コーポレートガバナンス・ポリシーの策定	P.47
		■ステークホルダーへのアカウンタビリティの充実	1. ステークホルダーとの対話機会の充実と要請事項への的確な対応 2. 株主、投資家:株主総会、WEB上の情報開示など対話の実行に向けた検討継続	
		■リスクマネジメントの経営プロセスへのさらなる深化	1. リスクコンプライアンス委員会の運用充実 2. コンプライアンス教育の充実	
		■内部統制の推進による業務上のリスクコントロールの強化	1. FDKグループに対する内部監査体制強化 2. 不正防止および不正の早期発見、早期是正による再発防止	
		■法令・社会規範の監視体制の維持・継続的な教育	1. 内部通報窓口の活用促進および通報案件に対する迅速な対応 2. コンプライアンス教育の継続的な実施	
⑤地域・社会・コミュニティの持続可能性への貢献	地域社会と繋がり笑顔溢れる世の中の実現	■ツナガル情報の発信 1. 社会とのコミュニケーション 2. 安心・安全な暮らしのサポート	防災に関する情報発信	P.55
		■未来にツナゲル機会の提供 1. 学ぶ機会の提供 2. 新しい価値を創造する機会の提供	「太陽とツナガル電池の音コンサート」への協賛	
		■笑顔をツナグ貢献活動の推進 地域や社会への貢献活動	1. 地域社会とツナガル推進活動 2. 地域美化にツナガル推進活動 3. エコにツナゲル推進活動 4. 命をツナグ推進活動	

マテリアリティ ①安心安全な電気エネルギーの提供

FDKグループは、FDKグループ戦略Framework「10年の計」のVisionに「Smart Energy Partnerとして、先進技術を結集し、お客様に電気エネルギーを安心して効率的に活用いただき、持続可能な社会の実現と発展に貢献します。」を掲げ、電池・電子製品のメーカーとしてサステナブルな社会を支える製品およびソリューションを提供しています。

高性能・高品質な当社の電池・電子製品だからこそお役に立てる様々な場面で一層の高容量

化、高効率化、環境負荷低減に向けた技術開発、プラスチックフィルムの削減などを進めるとともに、次世代電池の開発を進め、未来のスマートシティ、持続可能な社会の実現に貢献しています。

また、品質に関してはFDKグループ品質方針を定め、高品質で安全な環境にやさしい、お客様にご満足いただける製品を開発・供給して、社会に貢献しています。

リスクと機会

>> リスク

- お客様や業界の品質基準が変化し、当社既存製品が要件を満たさなくなる
- 製造過程での品質管理の問題で製品不具合が増加し信頼損失につながる
- お取引先様とのサプライチェーンの脆弱性により、部材の品質不良や供給遅延が製品品質に影響し、お客様満足度が低下する

>> リスクへの対応

- 品質管理基準を見直し、より厳格な品質保証体制を確立する
- 製品の生産過程に対する定期的な品質監査を実施し、品質保証体制を維持する
- お取引先様との品質基準の最適化および連携強化により部材品質を維持向上する

>> 機会

- 市場で求められる高品質の製品を提供し、ブランド価値向上と新規お客様の獲得を図る
- 業界内での品質リーダーとしての地位を確立し、他社製品と差別化する
- 環境に配慮した製品開発と持続可能なサプライチェーンを通じ企業の社会的責任を遂行する

指標および目標

重点テーマ

サステナブルな社会を支える製品およびソリューションを提供する

中長期目標		2024年度の主な実績
様々なパートナーとともに未来のスマートシティの実現をはじめ、様々なシーンで貢献できる製品・ソリューションを開発し提供する	Smart Infrastructure	・ニッケル水素電池における高耐久モデルの量産開始 ・リチウム電池における性能向上を目指した製品の開発推進 ・電子製品における新製品開発推進 ・次世代電池における新製品開発推進 ・次世代電池における社内性能評価の実施
	Smart Home & Office	・ニッケル水素電池におけるコバルト減仕様製品の量産開始 ・リチウム電池における新製品開発およびサンプル出荷 ・次世代電池における新製品開発推進
	Smart Retail Store	・ニッケル水素電池におけるサンプル出荷 ・リチウム電池における新製品開発の推進およびサンプル出荷 ・次世代電池における新製品開発推進
	Smart Factory & Mobility	・ニッケル水素電池における高出力モデルの量産開始 ・電子製品における新製品開発および出荷 ・次世代電池における新製品開発推進

[Contentsへ](#)

INDEX

[イントロダクション](#)[FDKグループの価値創造ストーリー](#)[サステナビリティ](#)[FDKアイデンティティにおける「10年の計」×サステナビリティ経営](#)[サステナビリティマネジメント](#)[マテリアリティ](#)[▶安心安全な電気エネルギーの提供](#)[地球環境との共生](#)[多様な人材の活躍推進](#)[コーポレート・ガバナンスの持続的強化／リスクコンプライアンスの高度化](#)[地域・社会・コミュニティの持続可能性への貢献](#)[財務情報](#)[概要、グループ会社](#)

様々なパートナーとともに未来のスマートシティの実現をはじめ、 様々なシーンで貢献できる製品・ソリューションを開発し提供

人々の暮らしと社会を支える企業と個々のユーザーに、クリーンかつ安全な電気エネルギーを安定的に活用できるオフアリングをお届けする

基本的な考え方

FDKグループは、高品質で安全であり、地球環境にやさしくお客様にご満足いただける電池・電子製品を継続して開発供給するという考えのもと、社会課題の解決に貢献する製品開発、供給、品質保証体制の構築、グリーン調達に努めています。

取り組み事例

FDKグループの取り組み

環境に関する法令や規範を遵守し、地球にやさしい素材を活かした電池・電子製品を提供することで、未来を育む企業としての企業価値向上に努めています。その施策として、これまで電池事業・電子事業で蓄積してきた差別化技術を活用し、そこから生み出される新たな付加価値をお客様にご提供できるように、次世代電池をはじめとする新製品開発に取り組んでいます。

新製品発表事例等のご紹介(2025年6月時点)

車載アクセサリ市場向けニッケル水素電池「HR-AAATEX」を開発

当社は、新たにニッケル水素電池「HR-AAATEX」を製品ラインアップに加え、2024年8月から量産出荷を開始しました。

車載アクセサリ機器の多様化に伴ない、低温環境下での放電性能の向上が求められています。

当社はこのニーズに応えるために、新規の水素吸蔵合金や外装缶などを採用して電池容量を増加させるとともに、低温放電性能を一層向上させたニッケル水素電池「HR-AAATEX」を開発しました。既存モデル「HR-AAUTEW」の1.2倍の電池容量で、マイナス40℃の環境下で約6倍の放電時間を実現しました。本製品により、寒冷地での車載アクセサリ機器の利便性が高まります。



高容量タイプの高出力円筒形二酸化マンガンリチウム一次電池「CR17500EX」を開発、 量産体制を構築

当社は、高容量タイプの高出力円筒形二酸化マンガンリチウム一次電池「CR17500EX」を開発し、2025年度下期から量産を開始いたします。

高出力円筒形二酸化マンガンリチウム一次電池をご使用のお客様からの、電池の長寿命・高容量化のご要望にお応えするため、電池構造および使用部材の見直しにより、従来モデル「CR17500EP」の電池容量を17%増加させた「CR17500EX」を開発しました。この容量増加により、長時間の使用や組電池仕様の使用本数の削減が可能となります。また、本製品は欧州のRoHS指令や電池規則(2023/1542)などの各種法令に準拠するとともに、米国の安全規格であるUL規格(File No.MH13421)の認定を受けております。



ニッケル亜鉛電池がエクシオグループのグリッドフリーソーラーカーポートの 実証実験に採用

エクシオグループ株式会社様(以下「エクシオグループ」)が実施するグリッドフリーソーラーカーポートの実証実験で、補器向けバックアップ電源として当社のニッケル亜鉛電池が採用されました。

グリッドフリーソーラーカーポートは、系統電力に接続しない独立型システムのため、停電時にはバックアップ電源が必要となります。一般的には鉛蓄電池が使用されますが、当社のニッケル亜鉛電池は鉛蓄電池に比べて軽量で、環境負荷が少なく、鉛蓄電池と同じ充電方式で使いやすいという特長から、補器向けバックアップ電源の代替電池として実証実験に採用されました。今後、エクシオグループと共同で、各種データを収集・蓄積し、実用化に向けて取り組んでまいります。



INDEX

[イントロダクション](#)[FDKグループの価値創造ストーリー](#)[サステナビリティ](#)[FDKアイデンティティにおける「10年の計」×サステナビリティ経営](#)[サステナビリティマネジメント](#)[マテリアリティ](#)[▶安心安全な電気エネルギーの提供](#)[地球環境との共生](#)[多様な人材の活躍推進](#)[コーポレート・ガバナンスの持続的強化／リスクコンプライアンスの高度化](#)[地域・社会・コミュニティの持続可能性への貢献](#)[財務情報](#)[概要、グループ会社](#)

他、マテリアリティに関連する取り組み:品質保証

品質保証活動

品質および安全に配慮した製品の開発と品質保証

〈FDKグループ品質方針〉

「お客様の信頼に応える品質の提供」

〈理念〉

品質第一を基本的な考え方として、高品質で安全な環境にやさしい、お客様にご満足いただける製品を開発・供給して、社会に向け貢献することを使命とします。また、企業責任を問われる重大な品質事故や世界各国の法規制違反など絶対に起こしてはならないと認識しています。そのため、営業から研究・企画・開発・設計・生産さらに顧客サービスなどのすべてのステップにおいて、全部門がお客様起点で行動して、より確かな品質経営を実行します。

〈品質行動指針〉

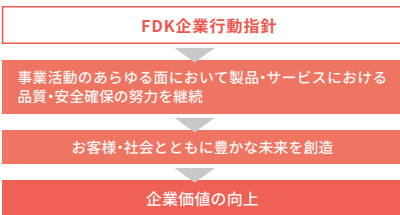
- お客様の品質要求事項は、最優先事項として迅速かつ適切に行動し顧客満足度を向上する。
- 開発段階での源流活動を強化し、品質・価格・納期・環境を造りこみ、量産段階における、品質トラブルの未然防止、採算性の向上、納期の遵守、環境保全の向上につなげる。
- 製品安全、製品含有化学物質など各種コンプライアンスに関わるリスク管理を継続強化する。
- モノづくりの改善活動により、工程仕損、クレームによる損失などの品質ロスを徹底して削減する。
- 品質マネジメントシステムを継続的に改善して、より効果的な品質経営を行なう。

品質保証体制

FDKグループは、品質方針・品質行動指針を実現するために品質マネジメントシステムを構築し、品質保証活動に継続して取り組んでいます。2025年3月時点では、海外拠点を含めた9拠点でISO9001認証を取得しており、うち4拠点でIATF16949認証を取得しています。

品質保証の取り組み

お客様が要求する機能・性能・その他の内容を満足する製品・サービスの品質を提供するためには、経営層をはじめとする様々な部門が連携し企業活動のすべてのプロセスにわたっての全員参加が必要であると考えています。FDKグループは、多岐に



わたる製品群、海外を含めた各事業拠点の品質保証活動における連携にも取り組んでいます。

品質保証統括部では、その活動を活性化するため全事業部との情報共有、品質方針の策定、コンプライアンスに関わる問題や品質トラブル発生時のエスカレーション、人材育成のための教育、不具合事例やノウハウなどについての水平展開にも積極的に取り組んでいます。また、経営トップ主催による「全社品質管理委員会」の設置や経営トップによる改善活動の現場確認など経営面からのアプローチも行なっています。

品質保証強化への取り組みの改善プロセス

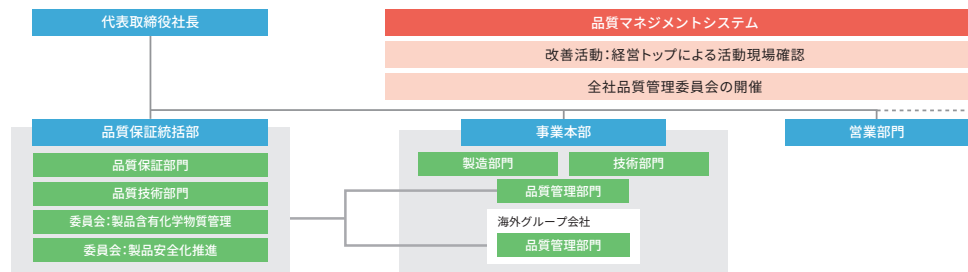
1.FDKグループの品質方針実現に向けた取り組み

製品企画から量産に至る各検証プロセスにおいて、品質関連規定等にもとづき、自部門だけでなく関係部門も交えた広い知見でレビューし、より客観的な検証を行なっています。

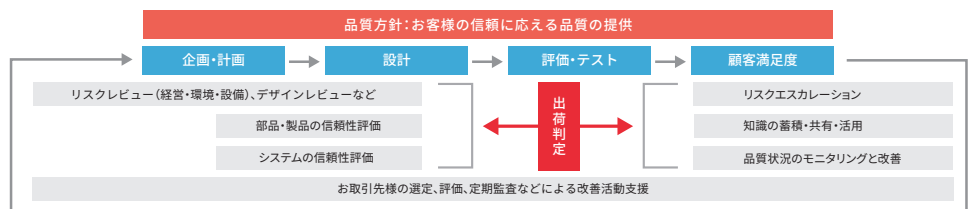
2.グリーン調達活動の取り組み

FDKグループは、環境負荷を考慮した事業活動と環境に配慮した製品の供給により、持続可能な社会の実現に貢献しています。各物資の調達は「FDKグループグリーン調達基準」にもとづいた環境に配慮した物資の調達を行ない、環境に配慮した物資を使用することにより、お客様へ環境配慮製品を提供しています。

品質保証体制図



品質保証の各検証プロセス図



Contentsへ



INDEX

イントロダクション

FDKグループの価値創造ストーリー

サステナビリティ

FDKアイデンティティにおける「10年の計」×サステナビリティ経営

サステナビリティマネジメント

マテリアリティ

▶安心安全な電気エネルギーの提供

地球環境との共生

多様な人材の活躍推進

コーポレート・ガバナンスの持続的強化／リスクコンプライアンスの高度化

地域・社会・コミュニティの持続可能性への貢献

財務情報

概要、グループ会社

マテリアリティ ②地球環境との共生

気候変動や資源枯渇など、地球環境を巡る課題が深刻化する中、企業には持続可能な社会の実現に向けた責任ある行動が求められています。FDKグループは、気候変動リスクを重要課題と捉え、再生可能エネルギーの導入や新素材の活用による資源の有効活用を推進し、カーボンニュートラルへの貢献を目指すなど、環境負荷の低減を推進しています。

サステナブルな製品開発を通じて新たな市場創出に取り組んでいくとともに、地域社会との協働や人権尊重の姿勢を明確にした方針のもと、ステークホルダーとの信頼関係を築いています。FDKグループは、地球環境との共生を企業活動の根幹に据え、持続可能な未来の創造に向けて挑戦を続けています。

リスクと機会

>> リスク

- 気候変動による気温の上昇、海面上昇、大雨などによる対応コスト増加
- 気候変動の影響に伴うサプライチェーンを含む操業停止
- カーボンニュートラル推進に伴ない再生可能エネルギー比率が増加し、エネルギーコスト上昇
- 天然資源枯渇に伴う原材料価格上昇

>> リスクへの対応

- 環境管理体制構築とISO14001認証維持継続
- BCP対応推進とBCM体制構築
- 環境目標を設定し再生可能エネルギー比率増加と温室効果ガスの削減を実施
- 新素材の製品開発による天然資源の有効活用

>> 機会

- サステナブルな社会を支える製品開発による新規市場開拓
- サーキュラーエコノミーを推進した循環型社会への貢献
- 地域・社会・コミュニティの持続可能性への貢献

指標および目標

重点テーマ

気候変動への対応

中長期目標	2024年度実績
カーボンニュートラルへの貢献	・2024年度再生可能エネルギー導入率24.2% ・省エネルギー効果については2023年度比3.3%改善 ・鳥取工場への太陽光発電導入、各工場での夜間・休日の空調間引き運転、空調機の更新、照明のLED化等の実施

重点テーマ

持続的社会的実現・発展への貢献

中長期目標	2024年度実績
ステークホルダーとの協働	・統合報告書にて人権デュー・ディリジェンスの取り組み公開 ・サプライヤーに対するRBA調査実施 ・欧州電池規則やバッテリーデュー・ディリジェンスについての情報収集および社内勉強会の実施 ・含有化学物質、責任ある鉱物調達の調査活動継続

重点テーマ

循環型社会の推進

中長期目標	2024年度実績
資源の有効活用～様々な観点での資源有効活用～	・コバルトの含有量を削減した製品の量産を開始 ・材料利用率の改善



Contentsへ



INDEX

イントロダクション

FDKグループの価値創造ストーリー

サステナビリティ

FDKアイデンティティにおける「10年の計」×サステナビリティ経営

サステナビリティマネジメント

マテリアリティ

安心安全な電気エネルギーの提供

▶ 地球環境との共生

多様な人材の活躍推進

コーポレート・ガバナンスの持続的強化／リスクコンプライアンスの高度化

地域・社会・コミュニティの持続可能性への貢献

財務情報

概要、グループ会社

地球環境保全への対応

基本的な考え方

FDKグループは、企業の事業活動に伴う環境保全への取り組みについて、各国・地域の法規制や、温室効果ガス削減、廃棄物削減、化学物質の管理の徹底のみならず、提供する製品を通しての環境負荷低減等、地球規模の視点で主体的に持続可能な循環社会実現に向けて行動しなければならぬと認識しています。全社的に、より確かな環境経営を推進するため、「FDKグループ労働安全衛生・環境方針」を制定しています。

FDKグループ労働安全衛生・環境方針にもとづく基本方針

- 働く人の全員参加と協議により、労働安全衛生・環境マネジメントシステムを構築し、継続的に改善するとともに労働災害・疾病・環境汚染の予防に努めます。
- 労働安全衛生と環境側面に関わる法令と私たちが同意した地域社会、公的機関、お客様などの要求事項を順守するとともに、自主的な基準を設定し順守します。
- 安全で快適な職場環境のもと、限りあるエネルギーを有効に活用し、社会と環境に貢献する製品およびサービスを提供することを目的に、以下の重点テーマにもとづく行動計画を設定して取り組みます。また、行動計画を定期的に見直し、労働安全衛生と環境のパフォーマンスを継続的に改善します。
 - ①危険ゼロ職場の確立
 - ②清潔で快適な職場環境づくり推進
 - ③健康経営の推進
 - ④循環型社会を目指す事業活動の推進
 - ⑤環境に配慮した研究開発と製品設計の推進
- 教育訓練や啓発活動を通じて、全従業員の安全衛生意識と環境意識の向上に努め、職場5S活動と業務上および通勤時の交通事故撲滅、並びに緊急事態への準備と対応に取り組みます。また、地球環境に配慮した行動を実践できるよう取り組みます。
- 地域社会、公的機関およびお客様などの利害関係者と良好なコミュニケーションを図るため、積極的な情報開示と対話に取り組みます。

ISO14001認証取得状況

FDK株式会社

●本社・湖西工場・鷺津工場・高崎工場・鳥取工場

●営業所 首都圏、札幌、仙台、名古屋、大阪、広島、福岡、沖縄営業センター

国内グループ会社

●株式会社FDKエンジニアリング

●FDKパートナーズ株式会社

海外グループ会社

●FUCHI ELECTRONICS CO., LTD.(台湾)

●XIAMEN FDK CORPORATION(中国・廈門)

●BAOTOU FDK CO., LTD.(中国・包頭)

カーボンニュートラルへの対応

パリ協定等、国際的に持続可能な社会の実現に向けた動きが加速しており、日本においても「2050年にカーボンニュートラル、脱炭素社会の実現を目指す」ことが宣言されています。FDKグループは気候変動への対応を重要課題と捉えカーボンニュートラルへの対応を進めてまいります。自らの事業活動に使用する電力について、再生可能エネルギー比率を2025年に37%以上、2030年に100%を目指します。2024年度は鳥取工場において、太陽光発電設備を導入しました。また非化石証書の活用によりFDKグループ全体の24.2%が再生可能エネルギー由来の電力使用になりました。

グリーン調達について

FDKグループは、地球環境問題の改善を考え、環境負荷を考慮した事業活動と環境配慮製品の提供により社会の持続的発展に貢献するように取り組んでいます。その取り組みにおいて、お取引先様からの納入品につきましても、環境配慮製品であることが必要不可欠であり、その考え方を「FDKグループグリーン調達基準」にまとめました。

FDKグループは、「地球環境との共生」を目指して、環境と調和した製品づくりのために、従来からの品質(Quality)、価格(Cost)、納期(Delivery)、サービス(Service)に加え、環境(Environment)の側面を評価した調達、すなわち「グリーン調達」を推進しています。

＊ FDKグループグリーン調達基準第11.0版
(https://www.fdk.co.jp/kankyou/green_proc.html)



Contentsへ



INDEX

イントロダクション

FDKグループの価値創造ストーリー

サステナビリティ

FDKアイデンティティにおける
「10年の計」×サステナビリティ経営

サステナビリティマネジメント

マテリアリティ

安心安全な電気エネルギーの提供

▶地球環境との共生

多様な人材の活躍推進

コーポレート・ガバナンスの持続的強化／
リスクコンプライアンスの高度化

地域・社会・コミュニティの持続可能性
への貢献

財務情報

概要、グループ会社



Contentsへ



INDEX

イントロダクション

FDKグループの価値創造ストーリー

サステナビリティ

FDKアイデンティティにおける「10年の計」×サステナビリティ経営

サステナビリティマネジメント

マテリアリティ

安心安全な電気エネルギーの提供

▶地球環境との共生

多様な人材の活躍推進

コーポレート・ガバナンスの持続的強化／リスクコンプライアンスの高度化

地域・社会・コミュニティの持続可能性への貢献

財務情報

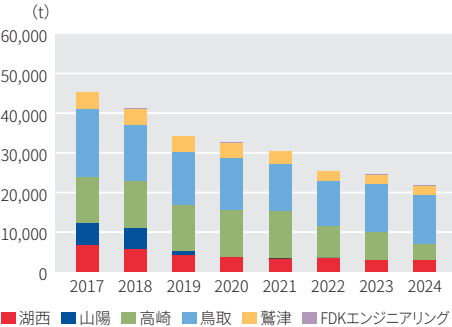
概要、グループ会社

FDKグループ第12期環境行動計画 2024年度実績

項 目	2024年度 行動計画	全体評価 (○or×)
環境配慮設計	省資源化に寄与する製品を開発する(各拠点1件以上)	○
	資源効率向上に寄与する製品を開発する(各拠点1件以上)	○
温室効果ガス削減	国内FDKグループ全体でエネルギー消費CO ₂ 排出量を28,722t以下に抑える	○
エネルギー効率	使用しているエネルギーについて、エネルギー消費原単位を指標として、各拠点で前年度比1%改善する	○
再生可能エネルギー導入	再生可能エネルギーをFDKグループ全体で2030年度に100%導入する(2024年度目標 24%相当)	○
化学物質削減	使用するPRTR法対象物質について、排出量原単位を指標として、各拠点で2024年度末までに前年度比1%改善する	○
廃棄物削減	発生する廃棄物について、発生量原単位を指標として、各拠点2024年度末までに前年度比1%改善する	○
水資源保全	水使用量の把握と適正化	○
地域環境・社会貢献	地域の環境貢献・社会貢献活動の取り組みを、国内FDKグループ全体で年23件以上実施する	○

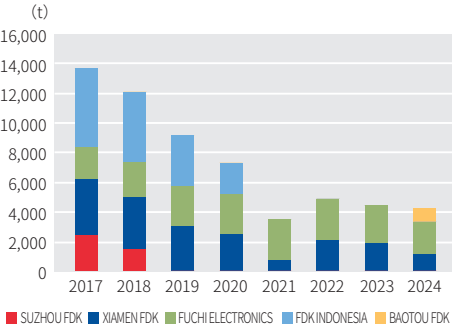
CO₂排出量の推移

(国内工場および生産関連会社) 2017年度～2024年度



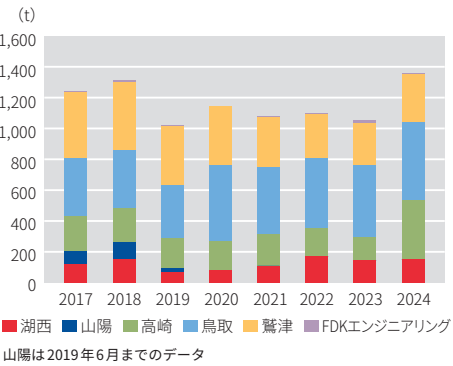
CO₂排出量の推移

(海外生産関連会社) 2017年度～2024年度



廃棄物発生量の推移

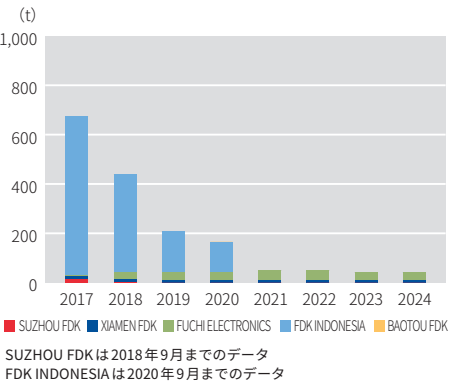
(国内工場および生産関連会社) 2017年度～2024年度



山陽は2019年6月までのデータ

廃棄物発生量の推移

(海外生産関連会社) 2017年度～2024年度



SUZHOU FDKは2018年9月までのデータ

FDK INDONESIAは2020年9月までのデータ

事業所(工場および生産関連会社)別環境パフォーマンスデータ

項目 単位	年度	湖西工場	高崎工場	鳥取工場	鷺津工場	FDK エンジニア リング	XIAMEN FDK CORPORATION	FUCHI ELECTRONICS CO., LTD.	BAOTOU FDK CO., LTD.
CO ₂ 排出量 (t-CO ₂)	2024 前年度	2,950 2,918	4,058 7,022	12,183 12,062	2,425 2,400	116 116	1,146 1,864	2,156 2,510	925 —
水使用量 (m3)	2024 前年度	56,572 38,189	22,103 20,993	82,133 62,058	21,994 27,026	505 457	10,791 13,953	9,047 10,324	21,065 —
PRTR対象 物質排出量 (kg)	2024 前年度	0 0	3 3	0 0	0 0	— —	— —	— —	— —
NOx排出量 (kg)	2024 前年度	0 0	— —	520 422	— —	— —	— —	— —	— —
ばいじん (測定濃度) (g/Nm3)	2024 前年度	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —
排水量 (m3)	2024 前年度	56,572 38,189	21,153 20,156	43,424 34,581	21,994 27,026	505 457	8,632 11,162	9,047 10,324	3,600 —
廃棄物 (t)	2024 前年度	154 146	380 154	511 465	315 279	9 14	10 11	31 32	0 —

＊「—」は、集計対象外、該当なし、または隔年で測定義務があるもので、当該年度の測定を行っていないものです。

＊CO₂排出量は、GHGプロトコルにもとづきScope1とScope2の合計として算出しています。購入電力からの換算係数は従来から改めて、国内・海外ともにマーケット基準で算出しております。購入した非化石証書(太陽光)分をCO₂排出量から減算しています。

XIAMENFDKCORPORATION:2021年度2,650MWh、高崎工場:2022年度5,000MWh、2023年度7,515MWh、2024年度15,500MWh

＊ 操業を停止、事業を譲渡した拠点は、上記より除外しております

ステークホルダーとの協働

FDKグループは、FDK企業行動指針の行動規範の第一項に「人権を尊重します」を掲げ、また調達指針にも「人権尊重・労働・安全衛生」を掲げるなど、従来から人権尊重を最重要な価値観としてまいりました。

2022年9月に日本政府が「責任あるサプライチェーン等における人権尊重のためのガイドライン」を策定したのを契機にビジネスと人権に関する議論を重ね、ステークホルダーとの協働にあたり、当社方針を示すことが必要との結論に至り、2023年10月に「FDKグループ人権方針」を策定いたしました。

■FDKグループ人権方針

●人権宣言

FDKグループは、持続可能な社会の実現と発展に貢献するために全ての人の権利を尊重し、「FDK企業行動指針」にもとづいて行動することを宣言します。

●人権方針に対する基本的な考え方

FDKグループは経営理念に「進化に挑戦 輝く未来と笑顔のために」を掲げており、この経営理念を実践するために、企業行動指針の中で「人権尊重」「法令および社会規範の遵守」を行動規範として定めています。

企業活動の中心である全ての従業員の権利を尊重することで、イキイキと働くことの出来る職場づくりに繋がると考えています。

さらに、FDKグループの従業員だけでなく、活動に関わる全ての人々の権利を尊重することで、笑顔の絶えない輝く未来に繋がることを願います。

●規範や法令の尊重・遵守

FDKグループは「国際人権章典(世界人権宣言と国際人権規約)」、「労働における基本的原則及び権利に関するILO宣言」、「国連グローバル・コンパクトの10原則」等の人権に関する国際規範を支持、尊重します。

そして、国連の「ビジネスと人権に関する指導原則」にもとづき、本方針を定めて人権尊重の取り組みを推進していきます。

また、企業活動を行なう各国、各地域で適用される法令を遵守することを約束します。

なお、国際的に認められた人権と各国や地域の法令の間に矛盾がある場合には、現地での法令と国際的な人権の原則を尊重するための方法を追求します。

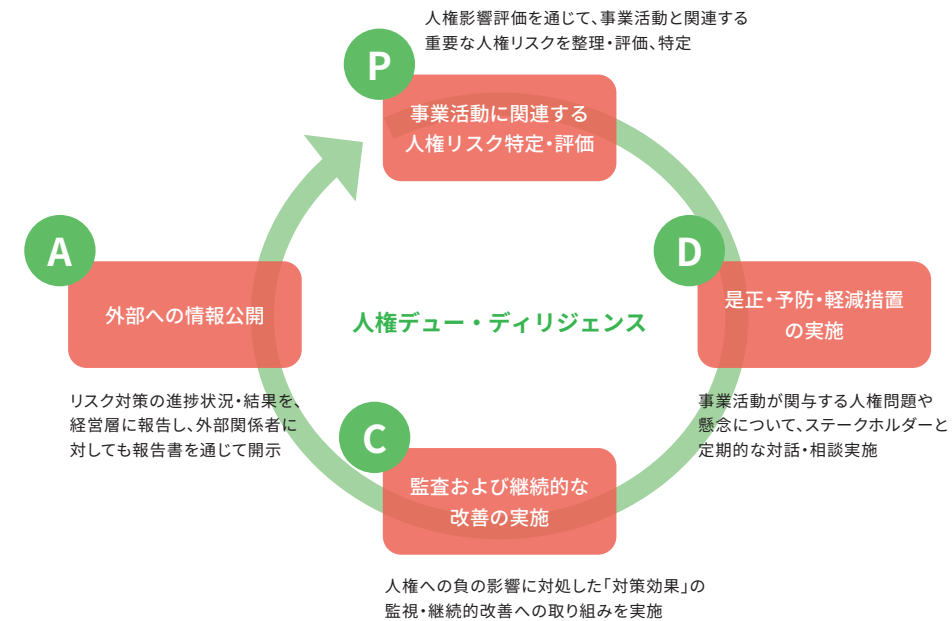
●お取引先様との対話

お取引様にも人権尊重を期待し、本方針のご理解とご協力を求めます。

■人権デュー・ディリジェンス

FDKグループは国連の「ビジネスと人権に関する指導原則」にもとづき、お取引先様とともに人権への負の影響を最小化する「人権デュー・ディリジェンス」の仕組みを構築し、取り組みます。

「人権デュー・ディリジェンス」の仕組み（PDCA プロセス）



INDEX

[イントロダクション](#)[FDKグループの価値創造ストーリー](#)[サステナビリティ](#)[FDKアイデンティティにおける「10年の計」×サステナビリティ経営](#)[サステナビリティマネジメント](#)[マテリアリティ](#)[安心安全な電気エネルギーの提供](#)[▶地球環境との共生](#)[多様な人材の活躍推進](#)[コーポレート・ガバナンスの持続的強化／リスクコンプライアンスの高度化](#)[地域・社会・コミュニティの持続可能性への貢献](#)[財務情報](#)[概要、グループ会社](#)

ステークホルダーとの協働／資源の有効活用

●是正・救済・相談・通報窓口の設置

FDKグループは世界中の様々な国や地域において事業活動を行なっています。様々な立場からの意見に耳を傾け、理解するべく、社内外から人権に関わる相談や意見を収集するための窓口をHPに設置し、以下をお約束しております。

「FDKグループが人権に対する負の影響を引き起こした、または助長したことが明らかになった場合は適切な手段を通じて、その是正、救済に取り組みます。

FDKグループのお取引先様において人権への負の影響が引き起こされている場合には、人権を尊重し、侵害しないよう、ステークホルダーと協力しながら改善に努めていきます。

また、通報者や被害者に関する秘密を保持し、不利益な扱いの禁止を徹底します。」

通報窓口表

窓口(対応部門)	主な相談項目・相談内容・対象者		
【社内に設置】 FDK株式会社 法務・知的財産部 総務人事部	サステナビリティに関するお問い合わせ	FDKグループのサステナビリティに関するお問い合わせ その他、FDKグループの企業活動に関する様々なお問い合わせ ＊人権侵害も含む	すべてのステークホルダー
	ビジネスと人権の対話・救済に関する相談	FDKグループの主なサプライチェーン上の相談窓口(お取引先様コンプライアンス受付窓口)	主にサプライチェーン
【社外に設置】 半蔵門総合法律事務所 FAX: 03-3262-9001 compliance_fdk@hanzomon.gr.jp	倫理・遵守ホットライン	組織的または従業員個人による不正、違法、反倫理行為に関する通報、相談	FDK株式会社の従業員・関係会社従業員・お取引先様
	ハラスメント関係(セクハラ・パワハラ等)相談	各種ハラスメントに関する通報、相談	

■2024年度の具体的な取り組み

●人権尊重に係る教育

従業員一人ひとりが人権尊重の重要性を認識するための啓発活動や事業活動による負の影響を特定、評価するため、2025年1月に全従業員を対象として「ビジネスと人権」をテーマに教育を実施しました。

2024年度の人権教育実績

- ・2024年4月
新入社員研修 静岡県人権啓発センター様による講義“人権について考えよう”
受講者数:新入社員14名

- ・2024年12月
人権セミナー 産業雇用安定センター様による講義“人権について”
受講者数:175名
- ・2025年1月
eラーニング“ビジネスと人権”
受講者数／対象者数:1,786名／1,786名で受講率100%

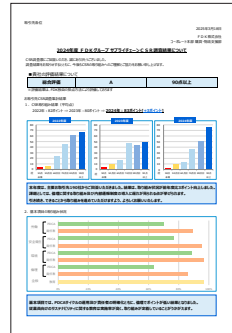


人権セミナー受講の様子

●お客様からの調査、お取引先様への調査

2024年度はお客様より、含有化学物質関連調査:1,142件、責任ある鉱物調査146件、その他CSR調査65件の調査要請をいただき回答に協力してまいりました。

また、当社としてもお取引先様へのサステナブル調達の実進という観点から、サプライチェーンにおけるサステナビリティの取り組みを把握するため、CSR調査を実施しております。2024年度は245件のお取引先様にご回答のご協力をいただき、ご回答いただきましたお取引先様へ結果のご報告を行なっております。



CSR調査結果報告のサンプル

●規範や法令の尊重・遵守－事例－欧州電池規則、バッテリーデュー・ディリジェンス義務への対応

欧州電池規則では「電池は重要なエネルギー源であり、持続可能な開発、気候中立性を実現する重要な要因の一つであるため、急速な需要拡大が予想される、一方コバルトや天然黒鉛、リチウム、ニッケルは様々な電池で活物質の原材料として利用されているが、電池向け需要が非常に高く、かつ供給国が限られているため、環境問題や社会問題が悪化する可能性がある。」とされており、2027年8月よりデュー・ディリジェンス義務が適用される予定です。

当社もこの趣旨に賛同し、デュー・ディリジェンス義務に対応できるように、情報収集を行ない、社内での勉強会、内部管理システムの構築、お取引先様との情報交換を行ないました。

■資源の有効活用

●家電用ニッケル水素電池のコバルト使用量削減

当社家電用ニッケル水素電池において、希少性の高い金属の一種であるコバルトの使用量の削減に向けた製品開発を進めてまいりました。お客様との調整や製品設計の改善により、製品性能をご承認をいただくことができ、2024年9月より量産を開始しています。



Contentsへ



INDEX

イントロダクション

FDKグループの価値創造ストーリー

サステナビリティ

FDK アイデンティティにおける「10年の計」×サステナビリティ経営

サステナビリティマネジメント

マテリアリティ

安心安全な電気エネルギーの提供

▶地球環境との共生

多様な人材の活躍推進

コーポレート・ガバナンスの持続的強化／リスクコンプライアンスの高度化

地域・社会・コミュニティの持続可能性への貢献

財務情報

概要、グループ会社

マテリアリティ ③多様な人材の活躍推進

FDKグループは、経営理念に「進化に挑戦 輝く未来と笑顔のために」を掲げており、この経営理念を実践するために、様々な取り組みを進めております。「人材」を企業の持続可能性を支える重要な経営資本の一つであると認識し、価値観が多様化する現代において、マイノリティやマジョリティ分け隔てなく、多様な個性とすべての人の権利を尊重し全従業員の能力を

最大限に発揮できる環境づくりに取り組んでいます。そして働きがい、やりがいを感じられる人事制度の設計と運用、キャリア形成支援を充実させ、安心安全で、長期的に健康で働き続けられる職場づくりを進め、多様な人材が活躍できる誇れる会社、大切な人に勤めたい職場を実現してまいります。

指標および目標

重点テーマ

全従業員の能力を最大限に発揮できる環境づくり

中長期目標	2024年度実績
人材投資(教育)の充実	・次世代リーダーの育成強化 ・グローバル人材育成に向けた語学留学の継続 ・従業員が自律的に自己研鑽することを目的とした「道場」のさらなる社内周知 ・研修参加者数 延べ 836 名
ダイバーシティ(インクルージョン)の推進	・女性管理職比率の向上 ・ダイバーシティ・インクルージョンに関する研修の実施 ・人権セミナーの開催 ・男性の育児休暇取得率の向上 ・ダイバーシティ研修受講者 913 名 ・インクルージョン研修受講者 2,019 名
キャリア形成・能力開発支援	・シニア社員向けの研修の開催 ・資格手当制度の見直し ・キャリア・能力開発研修受講者 356 名

重点テーマ

健康で働き続けられる職場づくり

中長期目標	2024年度実績
安全で健康的な職場の提供 ～快適な職場づくりの推進～	・労働安全衛生リスク低減活動のPDCAサイクルのさらなる進化 ・交通安全通信の配信 ・時間外労働の管理、有給休暇取得の促進、階層別教育等の充実
健康経営の実現	・二次検診の受診率向上 ・時間外労働の抑制 ・ストレスチェックの全社結果報告会の開催 ・健康管理情報の整理、ヘルスリテラシー向上のための情報提供を実施し、「健康経営優良法人2025」を取得

リスクと機会

>> リスク

- 環境の変化により、働き方の多様性の高まりや入手することが可能な情報の増加により、個人が企業に求める内容が多様化・複雑化する
- 働きがいの低下・やりがいの低下により人材が流出する恐れがある
- 多忙感、人手不足、教育の機会の不足により業務効率・コンプライアンス遵守の意識低下につながり、企業価値が低下する恐れがある

>> リスクへの対応

- 活躍する機会の提供と創造(教育、ダイバーシティ・インクルージョン)
- ニーズに合わせた自律的なキャリア形成・支援対応
- 安全で快適な職場環境づくり(コミュニケーション)
- 健康で働き続けられる職場づくりの実践(福利厚生)

>> 機会

- 個人で入手可能な情報が増加することにより、価値観の多様化、異文化への理解、新しいアイデアの創造が期待される
- 変化やビジネスチャンスへの対応力強化につながる
- 転職市場が活発化することで即戦力の人材が確保できる



Contentsへ



INDEX

イントロダクション

FDKグループの価値創造ストーリー

サステナビリティ

FDK アイデンティティにおける
「10年の計」×サステナビリティ経営

サステナビリティマネジメント

マテリアリティ

安心安全な電気エネルギーの提供

地球環境との共生

▶多様な人材の活躍推進

コーポレート・ガバナンスの持続的強化／
リスクコンプライアンスの高度化地域・社会・コミュニティの持続可能性
への貢献

財務情報

概要、グループ会社

人材投資(教育)の充実

当社グループが描く人的資本経営の考え方

FDKグループは、2023年4月14日に発表した中期事業計画「R2」において、当社グループにおける人的資本経営の考え方を表明しております。当社グループの描く人的資本経営の考え方は、経営戦略と人材戦略の密接な連動を図ることで、経営目標の達成につなげることです。人材戦略としては「人材価値の強化」、「働きがい改革」、「働く環境改革」の3つのカテゴリに注力し推進しております。

●人材価値の強化

当社グループの教育体系においては、従業員自らが自律的に学ぶことにフォーカスした教育体系へ進化させる取り組みを行っていることや、副業制度を導入することで人材価値の向上につなげる取り組みを行なっています。

また、人事制度では2025年度から360度評価制度を導入し、複数の視点からコンピテンシーを評価することで自己成長を促進する取り組みを進めます。

●働きがい改革

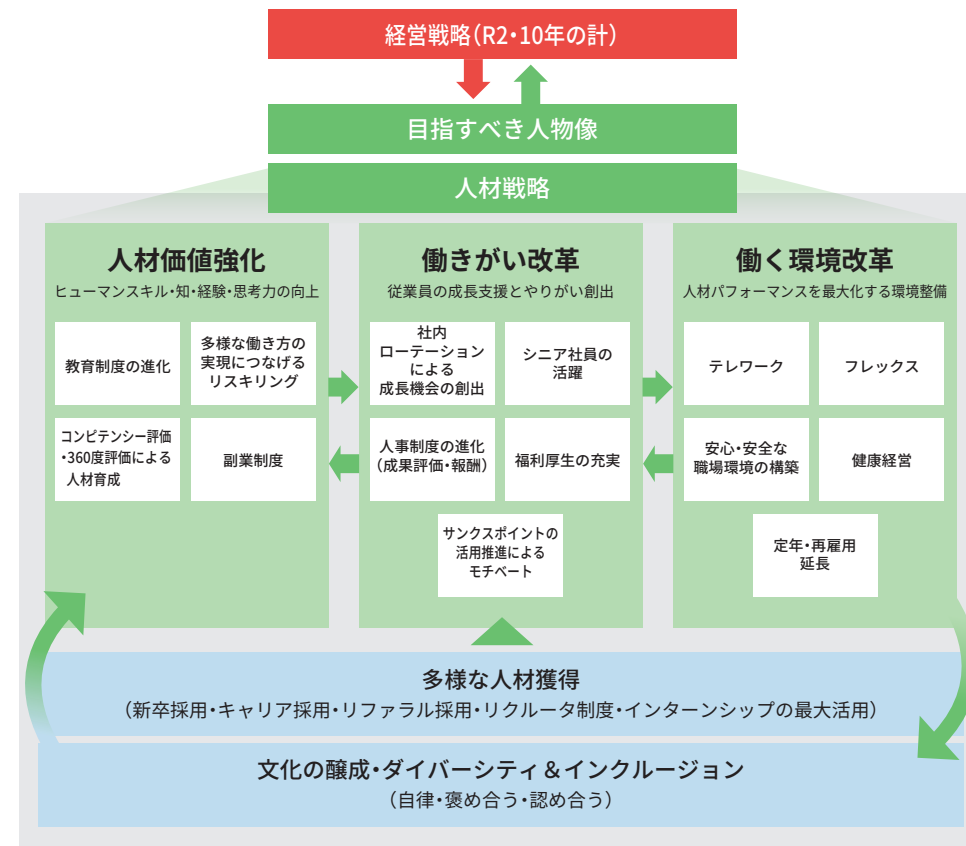
当社グループの人事評価制度においては、3～5年後のありたい姿である「キャリア目標」を起点に、「中長期的な成長を支援する取り組み」と「組織目標への達成度(成果)」の2つの要素を評価する「コンピテンシー評価」と、「組織目標への達成度」を評価する「成果評価」の2つの評価制度を導入し、従業員の働きがいにつなげる制度運用を行なっています。

また、当社グループでは従業員同士でポイントを付与することができるサンクスポイント制度を導入しており、従業員同士で褒め合う・認め合う企業文化の醸成につなげる活動を推進しています。

●働く環境改革

当社グループでは、従業員が心身ともに健康であり、公私ともに充実した生活を送ることができるとともに、活力に満ちた職場環境の実現に向けた取り組みを推進しております。2023年に定めた「健康宣言」および「健康経営方針」にもとづき「心身とも健康で安全に働ける職場環境の構築」「健康意識を高く持つ企業文化を定着し、生産性向上を図る」「全従業員が能力と個性を最大限に発揮し、お客様への期待に応える」3つの取り組みを継続して推進しています。当社は、経済産業省と日本健康会議が共同で実施する「健康経営優良法人認定制度」において、健康経営優良法人として2024年に続き2年連続で認定されました。

また、人材戦略として注力する「人材価値の強化」、「働きがい改革」、「働く環境改革」の3つのカテゴリに対する具体的な取り組みにつきましては、当社グループのサステナビリティ活動の重点課題として掲げるとともに、サステナブル推進委員会で定期的に進捗度または現況のレビューを行なうとともに、重要事項については経営会議で決定し、その結果を取締役会に定期的に報告する体制としています。



Contentsへ



INDEX

イントロダクション

FDKグループの価値創造ストーリー

サステナビリティ

FDK アイデンティティにおける「10年の計」×サステナビリティ経営

サステナビリティマネジメント

マテリアリティ

安心安全な電気エネルギーの提供

地球環境との共生

▶多様な人材の活躍推進

コーポレート・ガバナンスの持続的強化／リスクコンプライアンスの高度化

地域・社会・コミュニティの持続可能性への貢献

財務情報

概要、グループ会社

ダイバーシティ(インクルージョン)の推進

多様性の受容

基本的な考え方

方針

FDKグループでは、企業と個人がともに成長できるよう、国籍、性別、性的指向、年齢、障がいの有無、宗教、価値観にかかわらず、多様な人材を受け入れ活かすことを方針としています。

あるべき姿

FDKグループで働くすべての人が、あらゆる差別を排除し、多様な人材を受け入れ、それらの行動を実践している状態をあるべき姿としています。

施策と取り組み事例

1. すべての人に働きやすい職場環境を整備する

- 障がい者、LGBTQ＋に対応した働きやすい職場環境を整備しました。
- 障がい者の工場実習やトライアル雇用を実施しました。
- バリアフリー化、多目的トイレ設置を計画的に進めています。

各工場における障がい者雇用の取り組み

	直近の取り組み実績	直近の採用実績
高崎工場	・特別支援学校の職場実習 ・職業訓練(3カ月間)の受け入れ ・就労移行支援事業社への職場見学	・2022年度 1名 ・2025年度 1名
湖西工場 鷺津工場	・特別支援学校の職場実習 ・職業訓練(3カ月間)の受け入れ ・就労移行支援事業社への職場見学	・2022年度 2名 ・2023年度 2名
鳥取工場	・特別支援学校の職場実習 ・職業訓練(3カ月間)の受け入れ ・保健師と外部支援機関のフォロー面談 ・サポーター養成講座の受講 ・障がい者就労支援セミナー参加 ・障がい者が働く職場の相談員研修受講	・2022年度 1名 ・2023年度 2名 ・2024年度 1名

＜鳥取工場における障がい者雇用のための取り組み事例＞

鳥取工場では2018年から精神障がい者が雇用義務対象に加えられたことをきっかけに、精神障害に対する知識の普及を担う保健師と採用担当者として障がい者雇用を進め、身体障害・知的障害・精神障害など多様なバックグラウンドを持つ方々を雇用しています。

保健師と職場が連携して、信頼関係を構築し安心して働ける職場づくりを進めるため、受け入れ時には、保健師が作成した障害特性に関する各種資料を受け入れ職場へ配布しています。また受け入れ後には週や月単位で個人の得意・不得意をフィードバックし、自己肯定感の向上、課題への気づきを提供するスキル把握シートの導入、個々の特性に応じて障がい者本人の不安を軽減するため翌日の業務スケジュールの事前連絡を行なうルールづくりなどを進めています。

さらには鳥取労働局、鳥取県、鳥取障害者職業センター等が開催する「とっとり障がい者仕事サポーター養成講座」の受講も積極的に行ない、知識の習得に取り組んでいます。

2. 人事・処遇制度の改善

- 等級制度の名称変更および一般社員の等級区分の統一を行ない、役割および行動特性を重視した多様な人材の活躍につなげる制度に見直しました。

3. 研修、セミナーによる啓発活動の充実

- マネジメント研修で、男性の育児休暇取得の促進、働きがい・やりがいを創出するためのマネジメントについて教育を行ないました。
- 国際女性デーに合わせ、多様な人材を活かす組織の特性を知り、何をすべきか考える講演会を開催しました。

4. 従業員満足度調査の実施

- 全従業員を対象に従業員満足度調査を実施しました(回答率99.1%)。
- 調査結果の課題解決を目的として、組織活性化研修を実施しました。

5. 地域と社会への貢献

- 保存期間が近い防災用非常食(缶入りパン・水)を市内の子供食堂へ寄付を行ないました。障がい者就労支援施設の方が作ったクッキー・ケーキの販売を行ないました。



2024年度国際女性デーテーマ「多様性を活かす組織」に関する講演会



防災用非常食(缶入りパン・水)を子供食堂に寄付



Contentsへ



INDEX

イントロダクション

FDKグループの価値創造ストーリー

サステナビリティ

FDK アイデンティティにおける
「10年の計」×サステナビリティ経営

サステナビリティマネジメント

マテリアリティ

安心安全な電気エネルギーの提供

地球環境との共生

▶多様な人材の活躍推進

コーポレート・ガバナンスの持続的強化／
リスクコンプライアンスの高度化

地域・社会・コミュニティの持続可能性
への貢献

財務情報

概要、グループ会社

FDKグループは、「次世代育成支援対策推進法」にもとづく行動計画に沿い、従業員一人ひとりが元気にやりがいを持って働くことができる環境の実現に向け、「ワーク・ライフ・バランス」の推進などに積極的に取り組んでいます。2016年に「プラチナくるみん」認定を受けました。

第1期行動計画について

女性の活躍を一層推進するため、次のとおり行動計画を策定する。

1. 計画期間

2016年4月1日～2021年3月31日の5年間

2. 当社の課題

子育て中の女性社員が働きやすい風土・職場環境となっていない。

●職場マネジメントが一部不十分であり、仕事と家庭の両立が困難なことから、子育て中の女性の就業継続が難しい。

●出産・子育て等をしながら働き続けている人を支援する職場風土となっていない。

●柔軟な働き方に対する職場の理解が不十分で、子どもが病気のときなどに急に休みをとりにくい。

3. 定量的目標

管理的地位に占める女性の割合を、2015年度から125%以上とする。

4. 取り組み内容と実施時期

取り組み1:経営者主導でのワーク・ライフ・バランスを実行

2016年4月～ 女性活躍推進支援プロジェクトを組織化し、定期的な活動状況の確認、各種施策・効果の情報共有を図る。

2016年10月～ 女性活躍支援室主催のイベントを各年度単位で開催する。

取り組み2:職場対応力・マネジメント強化を目的とした働きやすい環境づくりを推進

2016年4月～ 各種セミナーおよび研修プログラムの企画と検討を行なう。

2016年12月～ 男性管理職および職場リーダーの意識改革を目的としたマネジメント研修を実施する。

2017年6月～ 女性社員の意識改革を目的とした、女性キャリア研修を開催する。

取り組み3:女性社員の積極的な採用と採用計画の推進

2016年10月～ 女性社員の配置職場および職域拡大の検討を行なう。

2017年2月～ 人員計画と採用計画と連動した女性社員の積極的な採用の企画を実行する。女性の活躍を一層推進し、男女ともに長く勤められる職場環境を作るため、次のとおり行動計画を策定する。

また、2016年4月に施行された「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律」にもとづき、行動計画を策定しました。今後も、男女ともに活躍できる企業を目指し取り組んでまいります。

第2期行動計画について

1. 計画期間

2021年4月1日～2026年3月31日の5年間

2. 当社の課題

課題1:職場マネジメントが一部不十分であり、制度利用が理解されていない。

課題2:出産・子育て・介護等をしながら働き続ける人を支援する職場風土が必要。

課題3:柔軟な働き方に対する職場の理解が不十分で、急な休みをとりにくい。

3. 目標と取り組み内容・実施時期

目標1:管理・監督的地位に占める女性の割合を、2021年度から150%以上*とする。

取り組み内容

2021年4月～ 女性活躍を支援する、ダイバーシティ推進室の定例会を開催し、活動状況の確認、各種施策・効果の情報共有を図る。

2021年4月～ 自己啓発カリキュラムを提供し、個人のキャリアアップを支援する。

2021年6月～ 次世代リーダー養成のための研修へ、女性の参加者を増加させる。

2021年9月～ 管理・監督職を対象としたマネジメント研修を開催。

2022年10月～ 女性管理職・監督職との意見交換会を開催。

目標2:柔軟な働き方に資するフレックスタイム制、テレワーク等の利用率を2021年度から25%アップする。

取り組み内容

2021年4月～ 制度のブラッシュアップを行ない、定期的な周知を行なう。

2021年6月～ テレワーク用の環境整備。

2021年9月～ ワーク・ライフ・バランスの重要性をマネジメント研修会で周知する。

2021年9月～ テレワーク上のマネジメントのポイント・課題の教育を実施する。

表1 女性幹部社員比率推移(%)

2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
1.3	1.4	1.4	1.9	2.1	2.6

表2 次世代管理職候補者養成研修受講者の女性比率推移(%)

2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
3	3.8	5.3	7.1	9.1

* 2021年4月1日時点の「管理・監督的地位の女性人数」を100%とした比率



Contentsへ



INDEX

イントロダクション

FDKグループの価値創造ストーリー

サステナビリティ

FDKアイデンティティにおける「10年の計」×サステナビリティ経営

サステナビリティマネジメント

マテリアリティ

安心安全な電気エネルギーの提供

地球環境との共生

▶多様な人材の活躍推進

コーポレート・ガバナンスの持続的強化／リスクコンプライアンスの高度化

地域・社会・コミュニティの持続可能性への貢献

財務情報

概要、グループ会社

キャリア形成・能力開発支援

人材育成

FDKグループの人材育成については、大きく4つのテーマに分けて考えており、それぞれのテーマに沿った教育に取り組んでいます。

1. 階層別研修

新入社員から幹部社員まで各職責に応じた教育の充実を図っています。

2. 育成研修

各専門分野でのプロフェッショナルの育成を目的に、技術検定をはじめとした各種検定の受験、専門セミナーの受講、先端技術、先端スキルの取り込みを図っています。

3. ビジネスリーダー育成

次世代リーダー研修、育成リーダー養成研修、グローバル人材の育成(語学留学)など、組織活性化につながるマネジメント力の強化および人材育成への理解・働きかけを行なっています。

4. 多様な個の成長支援

キャリアデザイン研修・キャリア支援等を通じて個々の人材サポート・モチベーションの向上を図っています。

各種教育研修の見直し

1. 階層別教育の見直し

カリキュラム内容を各階層の役割・期待に特化した内容にブラッシュアップしました。特に若手層に対して新人事制度運用に伴うコンピテンシー評価につながる内容を組み込みました。

2. 自己啓発の機会の提供

自己啓発に向けた個人学習ができる機会を提供しています。eラーニングを取り入れ自己のスキルアップを目指して手軽に学べる学習の機会を提供しています。

3. タレントマネジメントを踏まえた研修の実施

次世代を担う人材の育成を目的とした研修を実施しています。

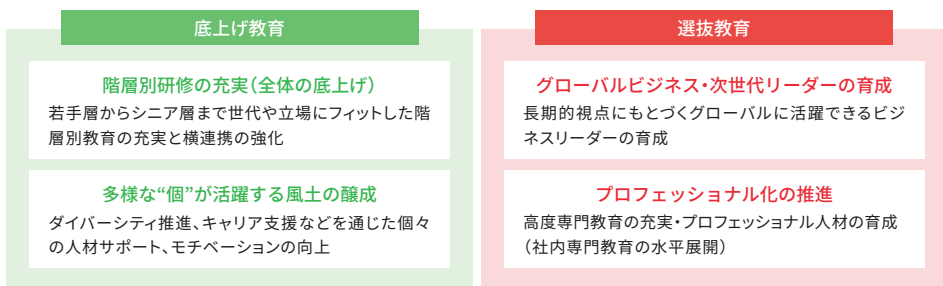
4. 「道場」の充実

「道場」は次に定める活動を行なっています。

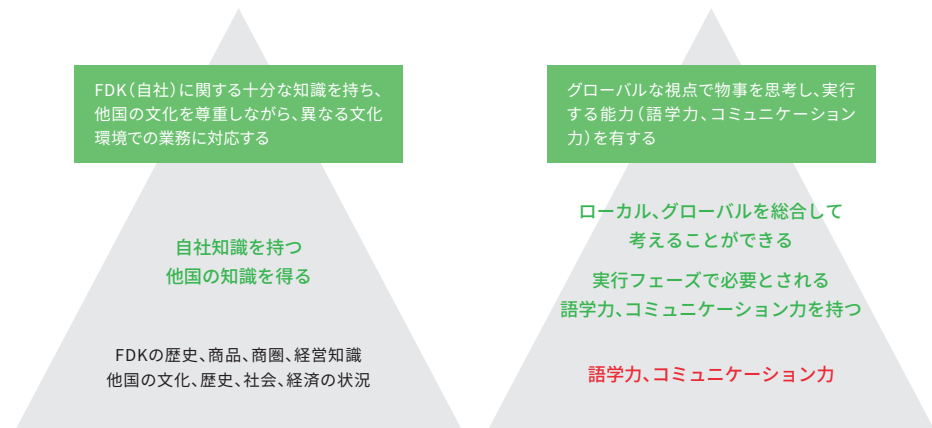
- (1) 多分野において自己研鑽し、知識・能力・心技体を磨き自己の向上を図る活動
- (2) 他部署、世代間のコミュニケーションを充実させ、組織の強化につながる活動

「道場の目的」

- (1) FDKグループの従業員が、多分野において、知識、教養経験などを深め、個人の人生を豊かにする。
- (2) 自己研鑽の意識・環境を改革し、従業員同士が互いに切磋琢磨し、「助け合い」と「競い合い」の風土を構築するとともに、技術伝承や世代間交流を通して組織力の強化を図る。



グローバル人材イメージ図



Contentsへ



INDEX

イントロダクション

FDKグループの価値創造ストーリー

サステナビリティ

FDKアイデンティティにおける「10年の計」×サステナビリティ経営

サステナビリティマネジメント

マテリアリティ

安心安全な電気エネルギーの提供

地球環境との共生

▶多様な人材の活躍推進

コーポレート・ガバナンスの持続的強化／リスクコンプライアンスの高度化

地域・社会・コミュニティの持続可能性への貢献

財務情報

概要、グループ会社

安全で健康的な職場の提供～快適な職場づくりの推進～

安全衛生活動

国内 FDK グループ労働安全衛生・環境方針

「基本理念」

私たちは、人間を尊重し一人一人の「生命」と「心」を大切にします。また、Smart Energy Partnerとして先進技術を結集し、お客様に電気エネルギーを安心して効率的に活用いただき、持続可能な社会の実現と発展に貢献します。

当社で働くすべての人の安全と健康を守り、豊かな自然・美しい地球環境を次世代に伝えていきます。

電池、エレクトロニクス関連の素材・部品とそれらの応用製品および各種製造設備の開発・設計・製造・販売において安全第一に徹し、快適な職場づくりと心と身体の健康づくり、環境保護に全員参加と協議により取り組みます。

労働安全衛生推進体制

当社グループでは、各事業所における「事業所安全衛生委員会」を統括する機能として、「中央安全衛生委員会」を四半期ごとに開催し、全社的な安全衛生活動計画を策定しています。各事業所では「事業所安全衛生委員会」を労使合同で毎月開催し、安全衛生活動計画に沿った活動を行なっています。なお、多くの事業所では、労働安全衛生マネジメントシステムであるISO45001の認証を取得しておりマネジメントシステムを活用することにより、より高いレベルの労働安全衛生体制の実現に取り組んでいます。

社員の安全衛生意識向上への取り組み

各階層へマネジメントシステムに従った安全教育と全社員を対象にしたeラーニングを実施しています。製造現場で働く新卒者・中途入社者へは雇い入れ教育を実施し、各現場のリスクについて理解を深めてから業務へ入るようにしています。その他、定期的な緊急時対応訓練等を実施しています。

ISO45001 認証取得状況

FDK 株式会社

●湖西工場・鷺津工場・高崎工場・鳥取工場

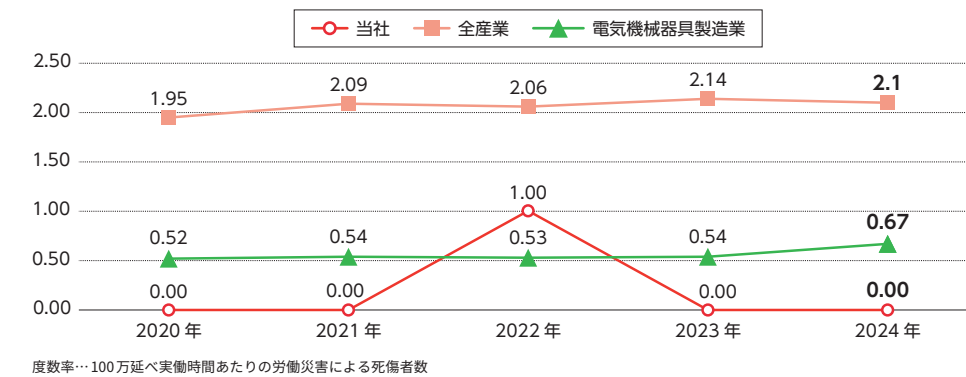
海外グループ会社

●FUCHI ELECTRONICS CO., LTD. (台湾)

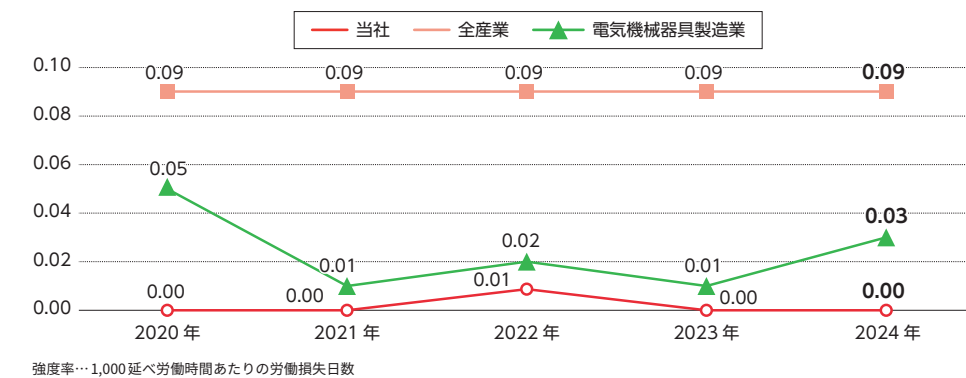
●XIAMEN FDK CORPORATION (中国・廈門)

●BAOTOU FDK CO., LTD. (中国・包頭)

度数率推移



強度率推移



INDEX

イントロダクション

FDKグループの価値創造ストーリー

サステナビリティ

FDK アイデンティティにおける
「10年の計」×サステナビリティ経営

サステナビリティマネジメント

マテリアリティ

安心安全な電気エネルギーの提供

地球環境との共生

▶多様な人材の活躍推進

コーポレート・ガバナンスの持続的強化／
リスクコンプライアンスの高度化地域・社会・コミュニティの持続可能性
への貢献

財務情報

概要、グループ会社

健康経営の実現

「健康経営宣言」2024年度策定

当社グループは、経営理念として「進化に挑戦 輝く未来と笑顔のために」を掲げており、企業活動の中心である従業員が心身ともに健康であり、公私ともに充実した生活を送ることができるとともに、活力に満ちた職場環境の実現に向けて従業員の健康維持・増進に取り組むことを宣言します。

「健康経営方針」

1. 当社グループは生活習慣病予防や適切な健康診断による病気の早期発見に取り組むとともに、健康診断結果にもとづくフォローアップの徹底により従業員とその家族の疾病予防に取り組みます。
2. 当社グループは、すべての従業員の健康を守るために従業員のヘルスリテラシー（健康意識・知識）の向上を目的に健康増進に向けた情報発信に取り組みます。
3. 当社グループは、従業員一人ひとりが能力と個性を最大限に発揮でき、イキイキと働くことができる安心・安全な職場環境の実現に向けてコミュニケーションの活性化に取り組みます。

「重点施策」

当社グループは主要拠点に健康管理スタッフを配置し、健康保険組合と連携して、ありがたい姿と重点施策を定め、社員とその家族の健康維持・増進およびヘルスリテラシー（健康に関わる素養）を高める健康支援活動に取り組んでいます。

「最終的な目標指標」

- 労働生産性の向上：
プレゼンティーイズムの改善
- 休職者数の低減：
アブセンティーイズムの改善
- ヘルスリテラシーの向上：
健康・医療の知識入手、理解
- ワーク・エンゲージメントの向上：
仕事にやりがいを感じ充実した状態

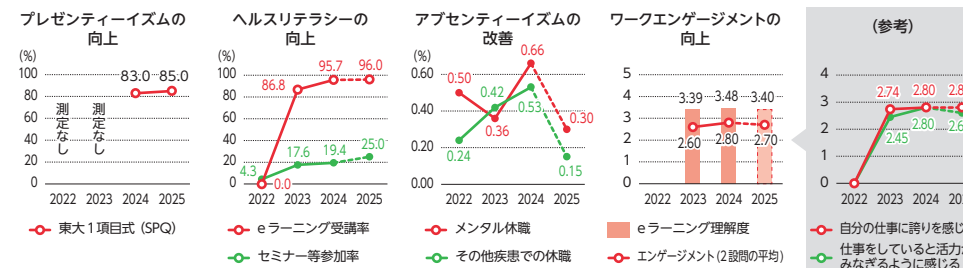
2024年度の主な活動実績

- プレゼンティーイズムの改善（労働生産性の向上）
- アブセンティーイズムの改善（休職者数の低減）
 - 定期健診有所見者への二次検診勧奨（2024年度実績91.3%）
 - ストレスチェックとフォローについて全社共通の仕組み構築（集団分析結果説明会、セミナー開催）
 - ウォーキング活動（参加延べ人数：1,869名 目標8,000歩／日、年2回開催）
- ヘルスリテラシーの向上（健康・医療の知識入手、理解）
 - 健康たより発行（生活習慣の改善・歯の健康保持・身体とホルモンの関係・食べすぎ、飲みすぎ）
 - 全社eラーニング（各種休暇制度の周知および有給休暇取得促進（全員受講）・アサーションに関するeラーニング（1,764名受講））
 - セミナー（女性の健康セミナー「男性にも知って欲しい、女性ホルモンと女性の健康」（80名受講））
 - インフルエンザ予防接種（事業所内集団接種実施・従業員、扶養家族の費用全額補助）
 - 生活習慣病予防川柳の公募（テーマ：少酒・応募件数126件（8名の方受賞））
- ワーク・エンゲージメントの向上
 - 2024年度の従業員満足度（回答率99.1%）の結果をもとに、役員・部門長を対象とした「組織活性化研修」の実施（65名参加）



健康セミナー受講の様子

健康経営の効果 ■ 最終目標 ■



- ・4指標中2指標で目標達成（ヘルスリテラシー・ワークエンゲージメント）
- ・今回追加となったプレゼンティーイズムは今後も測定継続することで定点観察を行なう
- ・休職者に関するアブセンティーイズムに影響を与えることは難しいが、休職期間が長期化している従業員に対して、復職できていない理由を把握していく必要がある

「健康経営優良法人」の認定取得

経済産業省と日本健康会議が共同で実施する「健康経営優良法人認定制度」において、「健康経営優良法人2025」に認定されました。



Contentsへ



INDEX

イントロダクション

FDKグループの価値創造ストーリー

サステナビリティ

FDKアイデンティティにおける「10年の計」×サステナビリティ経営

サステナビリティマネジメント

マテリアリティ

安心安全な電気エネルギーの提供

地球環境との共生

▶多様な人材の活躍推進

コーポレート・ガバナンスの持続的強化／リスクコンプライアンスの高度化

地域・社会・コミュニティの持続可能性への貢献

財務情報

概要、グループ会社

マテリアリティ ④コーポレート・ガバナンスの持続的強化／リスクコンプライアンスの高度化

FDKでは、多岐にわたるステークホルダーとの良好な関係が当社の企業価値の重要な一部を形成するものと認識しています。そのためにはステークホルダーの立場を踏まえ、経営の透明性と客観性を確保した迅速な意思決定を実現するための体制と監督機能の強化が必要不可欠であると考えています。

コーポレート・ガバナンスにおいて、経営の監督と執行の分離の徹底、事業の迅速な執行体制

の確立、社外取締役による適切な監督・監査、リスクマネジメント、内部統制システムの適切な運用を推し進め、透明性の高い経営の実現に取り組んでいます。また、ステークホルダーへの情報開示を積極的に行ない信頼関係の構築に努めています。

リスクと機会

》》 リスク

- データの改ざん、横領、談合などの法令違反や不祥事による損失の発生および当社に対する信用の低下、社会的信用の失墜、企業価値の毀損
- 会計プロセス不備、内部統制違反による損失の発生および当社に対する信用の低下、社会的信用の失墜、企業価値の毀損
- 他社の知的財産権を侵害した場合の訴訟提起、損害賠償請求

》》 リスクへの対応

- コーポレート・ガバナンスの透明性向上(中期事業計画、ガバナンス報告書)
- 当社グループ全体のコンプライアンス教育によるコンプライアンス意識の向上
- コンプライアンス違反リスクの洗い出しとリスク評価の実施対応
- 内部通報制度の適切な運用
- 自社知的財産権の適正な権利化および侵害予防調査の徹底
- 規制や法令の遵守、制度変更への対応

》》 機会

- 意思決定の透明性の向上や変化への適切な対応による安定的な経営基盤の確立
- 適切な情報開示によるステークホルダーの信頼の獲得
- リスクマネジメント体制の強化
- コンプライアンス体制の確立による企業価値の向上
- 知的財産業務のDX化推進

指標および目標

重点テーマ

ステークホルダーの立場を踏まえ、経営の透明性と客観性を確保した迅速な意思決定を実現するための体制と監督機能の強化

中長期目標	2024年度実績
指名・報酬委員会の計画的な運営および改善	・指名・報酬委員会の運営と取締役会への確実な答申 ・コーポレートガナンス・ポリシーの策定
ステークホルダーへのアカウントビリティの充実	・外部からの調査および問い合わせへの対応 取引先調査：39件 メディア・投資家・株主：86件 メディア等調査・アンケート：20件 ・株主、投資家に向けた適切な情報開示
リスクマネジメントの経営プロセスへのさらなる深化	・リスクコントロールの推進 ・人権やコンプライアンス教育に関するeラーニングの実施(受講率100%)
内部統制の推進による業務上のリスクコントロールの強化	・BAOTOU FDKに対する内部統制整備支援 ・海外拠点の安全保障輸出管理に関する監査および提言 ・不正防止および不正の早期発見、早期是正による再発防止
法令・社会規範の監視体制の維持・継続的な教育	・内部通報および相談受付実績：8件 ・eラーニングの実施(受講率100%)



Contentsへ



INDEX

イントロダクション

FDKグループの価値創造ストーリー

サステナビリティ

FDKアイデンティティにおける「10年の計」×サステナビリティ経営

サステナビリティマネジメント

マテリアリティ

安心安全な電気エネルギーの提供

地球環境との共生

多様な人材の活躍推進

▶ コーポレート・ガバナンスの持続的強化／リスクコンプライアンスの高度化

地域・社会・コミュニティの持続可能性への貢献

財務情報

概要、グループ会社

コーポレート・ガバナンスの強化

基本的な考え方

FDKグループは、コーポレート・ガバナンスを充実させることが、企業の健全性、透明性の向上と株主価値の向上につながるものと考えており、金融商品取引所が定めるコーポレートガバナンス・コードの原則を踏まえた各施策、必要に応じて経営体制の見直し、組織の整備を実施しています。また、経営内容の迅速な情報開示に努めるとともにインターネットを通じて財務情報の提供を行なうなど幅広い情報開示を図り公正性と透明性を高めることにも努めています。

当社は経営の意思決定・監督機能と業務執行機能を分離し、取締役会のチェック機能を強化するため、執行役員制度を導入しています。当社の取締役会は、取締役（監査等委員を除く）4名と監査等委員である取締役3名で構成されています。

取締役会は原則毎月1回開催し、経営に関する重要事項を決定するとともに、業績の進捗状況についても議論し、対策等を検討しています。

監査等委員会は、社外取締役3名の監査等委員で構成され、原則毎月1回と必要に応じて随時開催し、経営の適法性および妥当性の監督、監査を行なっています。また各監査等委員は取締役会に出席し、経営全般または個別案件に関する客観的かつ公正な意見陳述を行なうとともに、監査等委員会で立案した監査方針に従い、取締役の業務執行の適法性、妥当性を監査しています。

コーポレート・ガバナンス充実のための施策として、当社グループ全体のコンプライアンスの推進に積極的に取り組むため「FDK企業行動指針」において法の遵守の基本原則を設けております。

2022年3月には取締役の指名・報酬等に関する手続きの公正性・透明性および客観性を強化し、コーポレート・ガバナンス体制のより一層の充実を図ることを目的に、取締役会の諮問機関として任意の「指名・報酬委員会」を設置しました。

任意の指名・報酬委員会は社内取締役1名と独立社外取締役2名の3名で構成されており、取締役会から諮問を受けた次に掲げる事項等の審議、取締役会への答申を行ない、取締役、監査等委員である取締役の指名・報酬について公正性と透明性を高めるための検討・議論を行なっています。

なお、2024年度は4回の委員会を開催し、委員全員がすべての委員会に出席をしています。

<指名・報酬委員会諮問事項>

- 取締役および監査等委員である取締役の選任および解任に関する事項
- 代表取締役の選定および解職に関する事項
- 独立社外取締役の選任に関する事項
- 指名・報酬委員会の委員の選定および解職に関する事項
- 取締役および監査等委員である取締役の報酬に関する事項

- 後継者計画の策定・運用に関する事項
- その他、取締役会が必要と判断した事項

役員トレーニング

当社では、専門知識の更新および専門外知識の習得を目的として、外部講師による取締役および執行役員を対象としたトレーニングを毎年実施し、取締役および執行役員の知識、知見の向上に継続して取り組んでいます。

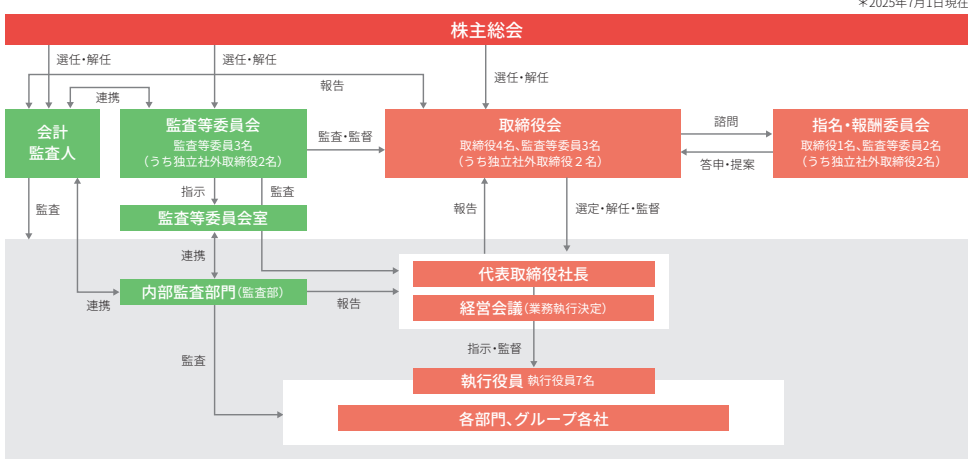
2024年度は「事業ポートフォリオマネジメント投資審査」をテーマに講師を招き、トレーニングを実施しました。

取締役会実効性評価

当社では、取締役会の課題を抽出し、取締役会構成メンバーが当該課題を共有することで、取締役会の実効性を高めるための改善につなげることを目的に、取締役会の実効性評価を毎年実施しています。

アンケートによる自己評価および第三者機関によるアンケートの分析結果にもとづいたディスカッションを実施し、取締役会における課題の討議を行ない、取締役会の監督機能強化に継続して取り組んでいます。

体制図



INDEX

イントロダクション

FDKグループの価値創造ストーリー

サステナビリティ

FDKアイデンティティにおける「10年の計」×サステナビリティ経営

サステナビリティマネジメント

マテリアリティ

安心安全な電気エネルギーの提供

地球環境との共生

多様な人材の活躍推進

▶ コーポレート・ガバナンスの持続的強化／リスクコンプライアンスの高度化

地域・社会・コミュニティの持続可能性への貢献

財務情報

概要、グループ会社

当社グループの取締役



前列左から 取締役 平野 芳晴 代表取締役社長 長野 良
後列左から 社外取締役 酒向 潤一郎 社外取締役 徐 幼珍 社外取締役 粟津 瑞恵 社外取締役 陳 怡光 社外取締役 山崎 頼良

スキルマトリックス

当社における地位	氏名	企業経営／経営戦略	リスク・コンプライアンス／法務	財務会計	事業部／開発技術	ESG／サステナビリティ	グローバル
代表取締役社長	長野 良	●	●	●		●	●
取締役	平野 芳晴		●		●	●	
社外取締役	酒向 潤一郎	●		●			●
社外取締役	徐 幼珍	●	●		●		●
社外取締役(監査等委員)	粟津 瑞恵	●		●			●
社外取締役(監査等委員)	陳 怡光	●	●	●	●		●
社外取締役(監査等委員)	山崎 頼良		●	●			●



代表取締役社長

長野 良

期待される役割

中期事業計画「R2」で三本柱に掲げた「主力ビジネスの利益ある成長の加速」、「新規ビジネスの始動と開拓」、「認め合い・高め合う文化の醸成」を推進し、当社の経営および財務基盤を安定させるとともに成長路線へ導くことで当社の企業価値を向上させることであります。

1985年4月	富士通株式会社入社
2005年7月	同社グローバルビジネスマネジメント本部 グローバル戦略室担当部長
2007年1月	FUJITSU AUSTRALIA LIMITED エグゼクティブ・ディレクター
2009年6月	富士通株式会社海外ビジネスマネジメント本部長代理 兼 グローバルプロジェクト推進室長
2015年4月	同社財務経理本部VP 兼 グローバルプロジェクト推進室長
2016年5月	FUJITSU AMERICA, INC.CFO 富士通株式会社財務経理本部VP 兼 グローバルプロジェクト推進室長
2019年4月	当社執行役員常務 当社コーポレート本部副本部長
2019年6月	当社代表取締役社長 現在に至る 当社執行役員社長 現在に至る 当社営業本部長

Contentsへ



INDEX

イントロダクション

FDKグループの価値創造ストーリー

サステナビリティ

FDK アイデンティティにおける
「10年の計」×サステナビリティ経営

サステナビリティマネジメント

マテリアリティ

安心安全な電気エネルギーの提供

地球環境との共生

多様な人材の活躍推進

▶コーポレート・ガバナンスの持続的強化／
リスクコンプライアンスの高度化

地域・社会・コミュニティの持続可能性
への貢献

財務情報

概要、グループ会社



Contentsへ



INDEX

イントロダクション

FDKグループの価値創造ストーリー

サステナビリティ

FDKアイデンティティにおける
「10年の計」×サステナビリティ経営

サステナビリティマネジメント

マテリアリティ

安心安全な電気エネルギーの提供

地球環境との共生

多様な人材の活躍推進

▶コーポレート・ガバナンスの持続的強化／
リスクコンプライアンスの高度化

地域・社会・コミュニティの持続可能性
への貢献

財務情報

概要、グループ会社



取締役

平野 芳晴

期待される役割

中期事業計画「R2」の達成に向けた各施策の実行および事業価値向上のための成長路線の確立、当社のコーポレート・ガバナンスを一層強化することで当社の企業価値を向上させることであります。

1990年4月 当社入社
2012年11月 当社総務部長 兼 広報・IR室長
2016年4月 当社総務人事統括部長 兼 総務人事部長
兼 リスク・マネジメント部長
兼 広報・IR室長
2017年4月 当社執行役員 現在に至る
2018年3月 当社CSR・コンプライアンス統括部長
兼 総務人事部長
兼 リスク・コンプライアンス部長
2018年4月 FDKパートナーズ株式会社代表取締役社長
現在に至る
2020年6月 当社取締役 現在に至る
当社コーポレート本部長 現在に至る
2021年4月 FUCHI ELECTRONICS CO., LTD. 董事長
現在に至る
2023年4月 当社コンシューマ営業統括部長 現在に至る
2024年1月 XIAMEN FDK CORPORATION 董事長
現在に至る



社外取締役

酒向 潤一郎

期待される役割

当社の中期事業計画「R2」の達成に向けた各施策の実行状況の監督および事業構造改革の方向性などについて、事業戦略部門での経験を通じて培われた広い見識により社外取締役として意見を述べていただくことであります。

2001年12月 株式会社富士通中部システムズ入社
2004年6月 富士通株式会社入社
2009年4月 同社財務経理本部マネージャー
2012年6月 株式会社アニモ監査役 現在に至る
2020年4月 富士通株式会社関連事業本部
シニアマネージャー
2020年6月 FLCS 株式会社監査役 現在に至る
2021年4月 富士通株式会社関連事業本部
事業開発統括部長
2022年4月 同社関連事業本部長
グローバル・イノベーション・パートナーズ株式会社代表取締役
現在に至る
2023年4月 株式会社デンソーテン取締役
富士通セミコンダクター・ファンド株式会社代表取締役
現在に至る
2024年6月 当社取締役 現在に至る
2024年9月 FCL コンポーネント株式会社社外取締役 現在に至る
2025年4月 富士通株式会社ビジネスマネジメント本部
エグゼディレクター 現在に至る



社外取締役

徐 幼珍

期待される役割

当社の中期事業計画「R2」の達成に向けた各施策の実行状況の監督および当社の財務基盤の安定化ならびに持続的な成長に向けた経営施策全般について会社代表者の経験を通じて培われた広い見識により社外取締役として意見を述べていただくことであります。

2010年3月 INFO-TEK CORPORATION 入社
2014年6月 INFO-TEK CORPORATION Assistant Vice President (Sales & Marketing/Production & Material Planning/Procurement)
2020年11月 INFO-TEK CORPORATION President 現在に至る
2020年12月 SILITECH (BVI) HOLDING LTD. Board Director
現在に至る
SILITECH (BERMUDA) HOLDING LTD. Board Director
現在に至る
SILITECH TECHNOLOGY CORPORATION SDN. BHD. Board Director 現在に至る
2021年1月 SILITECH TECHNOLOGY CORPORATION President
現在に至る
2025年6月 当社取締役 現在に至る



社外取締役（監査等委員）
栗津 瑞恵

期待される役割

当社の中期事業計画「R2」の達成に向けた各施策の実行状況および財務会計状況、多様性を含む持続的な成長に向けた経営施策全般について、これまでの職務経験から培われた広い見識により監査等委員である社外取締役として監督・監査していただくことであります。

2006年8月	KPMG, LLP 米国ニューヨークオフィス入社
2008年6月	同社会計監査シニアアソシエイト
2009年2月	上海フレンドリーコンサルティンググループ 会計コンサルタント
2011年9月	アマゾンジャパン株式会社社会計アナリスト
2014年6月	Two Miles 会計事務所 会計税務コンサルタント(米国ハワイ州)
2016年6月	Honu Consulting International LLC (米国ハワイ州)設立
2021年4月	Honu Aloha 設立 現在に至る
2022年6月	当社取締役（監査等委員） 現在に至る



社外取締役（監査等委員）
陳 怡光

期待される役割

当社の中期事業計画「R2」の達成に向けた各施策の実行状況や当社の財務基盤の安定化および持続的な成長に向けた経営施策全般について、会社代表者の経験により培われた広い見識により監査等委員である社外取締役として監督・監査いただくことであります。

2002年12月	DUPONT TAIWAN LIMITED 入社
2011年9月	同社 AP 地域マーケティングエクセレンス部長
2016年2月	Walsin Technology Corporation 海外事業営業本部長
2019年10月	釜屋電機株式会社取締役
2020年5月	同社代表取締役社長 日通エレクトロニクス株式会社代表取締役会長
2021年6月	双信電機株式会社取締役
2023年6月	Walsin Technology Corporation チップ抵抗器事業部長
2024年6月	松尾電機株式会社代表取締役社長 現在に至る
2025年3月	双信電機株式会社代表取締役社長 現在に至る 釜屋電機株式会社取締役 現在に至る
2025年6月	当社取締役（監査等委員） 現在に至る



社外取締役（監査等委員）
山崎 頼良

期待される役割

当社の中期事業計画「R2」の達成に向けた各施策の実行状況や当社の財務基盤の安定化および持続的な成長に向けた経営施策全般について、公認会計士としての経験により培われた広い見識により監査等委員である社外取締役として監督・監査いただくことであります。

2010年2月	あずさ監査法人（現有限責任あずさ監査法人）入所
2014年4月	国際連合世界食糧計画 イタリアローマ本部財務担当官
2018年8月	同機関 日本事務所政府連携担当官
2023年3月	山崎公認会計士事務所代表 現在に至る 双信電機株式会社社外取締役監査等委員
2024年6月	松尾電機株式会社社外監査役 現在に至る 株式会社 Fidelity Bridge 共同代表 現在に至る
2025年6月	当社取締役（監査等委員） 現在に至る


Contents へ



INDEX

イントロダクション

FDKグループの価値創造ストーリー

サステナビリティ

FDK アイデンティティにおける
「10年の計」×サステナビリティ経営

サステナビリティマネジメント

マテリアリティ

安心安全な電気エネルギーの提供

地球環境との共生

多様な人材の活躍推進

▶ コーポレート・ガバナンスの持続的強化／
リスクコンプライアンスの高度化

地域・社会・コミュニティの持続可能性
への貢献

財務情報

概要、グループ会社

ステークホルダーへのアカウンタビリティの充実

ステークホルダーとのコミュニケーション

FDKグループは、良き企業市民としてステークホルダーの多様な期待と要請を理解して企業活動を行なっています。公開すべき情報を的確に開示し、ステークホルダーとの対話を行ない、事業活動への反映を通じて社会に貢献する企業活動を継続的に行なうことによって、企業価値の向上に努めています。

	お客様	お取引先様	株主・投資家	社員	国際社会・地域社会
ステークホルダーと FDK が共有する関心領域	●高品質な製品の提供 ●安全供給、サプライチェーンマネジメントの徹底、法令遵守 ●環境負荷低減推進 ●安全操業 ●BCP 対応 ●適正価格 ●設備投資	●公平・公正・透明性のある取引 ●サプライチェーンマネジメントの徹底、法令遵守 ●安全操業 ●事業継続性 ●環境負荷低減推進	●企業価値向上 ●適正株価 ●財務基盤の安定 ●ROE、ROIC の引き上げ ●収益向上 ●安全操業 ●ESG、SDGs の推進 ●タイムリーな情報提供	●働き方改革の推進 ●イキイキと働ける職場環境の構築 ●幅広い人材の活用 ●教育、福利厚生などの充実	●地域との共生 ●地域発展への貢献 ●安全操業 ●環境負荷低減推進 ●防災対応
コミュニケーション機会	●営業部門・品質保証活動 ●安全かつ効率的に活用いただける製品の提供 ●展示会への出展 ●WEBサイトによる情報提供 ●WEBサイトのお問い合わせ窓口	●製品材料、資材の調達 ●品質監査、工程監査などの実施 ●環境負荷低減、CO₂削減への取り組み	●定時株主総会の開催 ●統合報告書の発行 ●会社紹介パンフレットの発行 ●WEBサイト等による情報配信 ●ニュースリリースでの情報配信	●ビデオ配信を含む社長メッセージの配信 ●従業員満足度調査の実施 ●各種研修やeラーニングの実施 ●ストレスチェックや健康診断などの健康管理 ●労働組合との協議	●「太陽とツナガル電池の音コンサート」の開催 ●地域の清掃や交通安全活動などのボランティア活動 ●環境負荷低減、CO₂削減への貢献
コミュニケーションを通じた価値創造	●既存製品における性能向上を目指した新製品の開発 ●次世代電池の研究開発の推進	●公正な取引機会の確保 ●より良いパートナーシップの構築 ●SDGs を共通目標とした価値共有、社会的責任の遂行	●適時・適正な情報開示 ●資本市場からの適切な評価獲得、資本市場の要望のフィードバックによる企業価値向上 ●社会課題やサステナビリティに関する取り組みと開示	●健康で働き続けられる労働環境の提供 ●自身の健康に関する自認や管理の促進	●国際社会・地域社会からのニーズや期待に応える積極的なコミュニケーション、社会貢献への参加 ●各種宣言、活動への参画を通した責任ある企業活動の実践



INDEX

イントロダクション

FDKグループの価値創造ストーリー

サステナビリティ

FDK アイデンティティにおける「10年の計」×サステナビリティ経営

サステナビリティマネジメント

マテリアリティ

安心安全な電気エネルギーの提供

地球環境との共生

多様な人材の活躍推進

▶ コーポレート・ガバナンスの持続的強化／リスクコンプライアンスの高度化

地域・社会・コミュニティの持続可能性への貢献

財務情報

概要、グループ会社

内部統制の推進による業務上のリスクコントロールの強化

内部統制システムの継続的な運用

基本的な考え方

FDKグループは、企業の社会的責任を果たすためには、コーポレート・ガバナンスの充実が不可欠であるとの認識のもと、お客様、お取引先様、株主、従業員、地域社会などのステークホルダーとの健全で良好な関係を維持しつつ、業務の適正性、財務報告の信頼性を確保するとともに、関連法規、定款を遵守する経営を実現してまいります。

また、当社グループの企業価値の持続的向上を図るためには、経営の効率性を追求するとともに、事業活動より生じる様々なリスクをコントロールすることが必要であり、諸施策の継続的な実施を推進してまいります。

業務の適正を確保するための体制

1. 取締役および従業員の職務の執行が法令および定款に適合することを確保するための体制
2. 取締役の職務の執行に係る情報の保存および管理に関する体制
3. 損失の危険の管理に関する体制
4. 当社および子会社の取締役の職務の執行が効率的に行なわれることを確保するための体制
5. 当社および子会社からなる企業集団における業務の適正を確保するための体制
6. 監査等委員会の監査の適正性を確保するための体制

コンプライアンスの徹底

基本的な考え方

FDKグループは、従業員一人ひとりの行動の基準となる「FDK企業行動指針」を定めています。この行動指針の構成要素である「行動規範」において「人権を尊重する」「公正で自由な取引を行なう」「法令および社会規範を遵守する」「知的財産を守り尊重する」「情報セキュリティを徹底し、秘密を保持する」「業務上の立場を私的に利用しない」ということを明確にしています。この行動規範にもとづいて事業を遂行することにより、株主やお取引先様、消費者の信頼を得られるように努めています。

コンプライアンス教育

FDKグループでは、新入社員教育、中堅社員教育、新任課長研修などの階層別研修において、社内規定や外為法、製造物責任法、独占禁止法、個人情報保護法などの業務に関係の深い法令について説明を行ない、理解促進を図っています。上記の他にも全従業員を対象とした様々なコンプライアンス教育(eラーニングを含む)を継続して実施しています。また、イントラネットを利用して、関連法令の改正情報や違反事例の紹介・周知などコンプライアンスに関する様々な情報を従業員に提供し、法令遵守に関する意識の向上に努めています。

事業運営に関わる法令の遵守

FDKグループでは、「中央安全衛生委員会」「全社環境管理委員会」「製品含有化学物質管理委員会」「輸出管理委員会」「製品安全化推進委員会」などの専門組織を設置し、法令を遵守した事業運営に取り組んでいます。事業を行なう地域の文化や習慣を理解し社会動向などにも的確に対応することにより、倫理的な面からもコンプライアンスの徹底を図っています。

内部通報制度

FDKグループでは、コンプライアンス違反行為に関する通報および相談の適切な処理の仕組みを定めることにより、不正行為等の早期発見と是正を図り、法令を誠実に遵守する公正な経営の強化に資することを目的として、「内部通報窓口」および「お取引先コンプライアンス受付窓口」を設置しています。「内部通報窓口」および「お取引先コンプライアンス受付窓口」への通報については、「内部通報規程」によって通報者の秘密が確保されるとともに、通報を行なったことによるいかなる不利益も受けないことが保証されています。通報にもとづく調査の結果、問題が認められた場合は、すみやかに改善措置を講じています。

2024年度は8件の通報・相談があり、いずれも適切な対応を行ないました。



Contentsへ



INDEX

イントロダクション

FDKグループの価値創造ストーリー

サステナビリティ

FDK アイデンティティにおける
「10年の計」×サステナビリティ経営

サステナビリティマネジメント

マテリアリティ

安心安全な電気エネルギーの提供

地球環境との共生

多様な人材の活躍推進

▶ コーポレート・ガバナンスの持続的強化／
リスクコンプライアンスの高度化

地域・社会・コミュニティの持続可能性
への貢献

財務情報

概要、グループ会社

リスクマネジメントの取り組み

FDKグループは、グローバルな事業活動を通じて、企業価値を持続的に向上し、お客様や地域社会をはじめとするすべてのステークホルダーの皆様に貢献することを目指しています。この目的を達成するため、事業活動により生じるリスクを的確に把握し、対応することを重要な課題と位置づけ、FDKグループ全体のリスクマネジメント体制を構築し、その実践と継続的改善を行ないます。

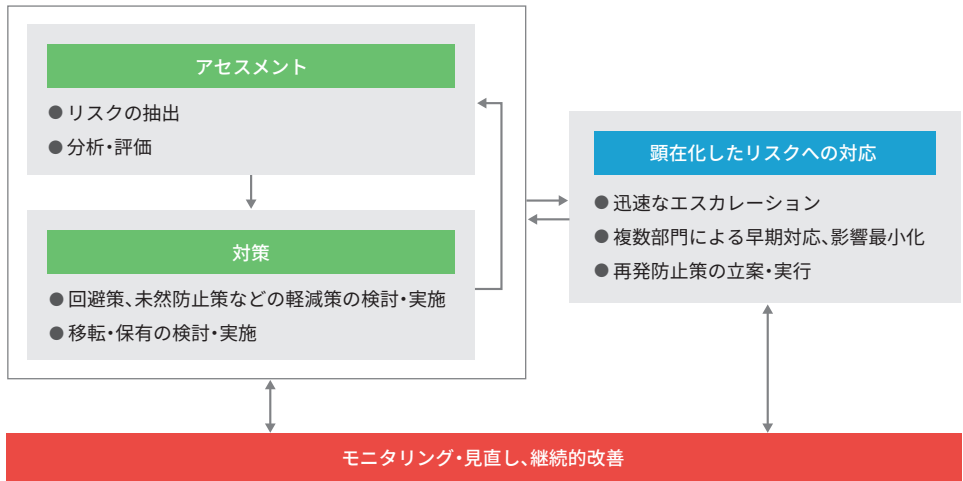
FDKグループでは、取締役会において「内部統制システム構築の基本方針」を定めており、どのような体制・規律をもって経営の効率性の追求と事業活動により生じるリスクをコントロールし経営に臨むかについて、その基本方針を開示しています。

〈リスクマネジメントのプロセス〉

1. 各部門において、事業活動に伴う潜在リスクを抽出、評価・検証します。
2. 各リスクの対応優先度を明確化し、リスクコントロール(リスクの回避・軽減・移転・保有)の方針を決定します。
3. 決定した方針に従って、各部門にて未然防止策を検討し、実施します。
4. リスクが顕在化した場合には、各部門はリスク・コンプライアンス委員会へエスカレーションします。また関連部門、リスク・コンプライアンス委員会事務局などと連携し、適切な対応をとることによって、問題の早期解決、影響の最小化を図るとともに、原因究明に努め、再発防止策を立案し、実行します。

これらの各プロセスにおいても実行状況を確認し、随時改善を図ります。

リスクマネジメントのプロセス図



Contentsへ



INDEX

イントロダクション

FDKグループの価値創造ストーリー

サステナビリティ

FDKアイデンティティにおける「10年の計」×サステナビリティ経営

サステナビリティマネジメント

マテリアリティ

安心安全な電気エネルギーの提供

地球環境との共生

多様な人材の活躍推進

▶ コーポレート・ガバナンスの持続的強化／リスクコンプライアンスの高度化

地域・社会・コミュニティの持続可能性への貢献

財務情報

概要、グループ会社

マテリアリティ ⑤地域・社会・コミュニティの持続可能性への貢献

FDKグループは、良き企業市民として地域社会の一員であることを自覚し、笑顔あふれる未来の創造に向けた取り組みを継続的に推進しています。

2024年度には、防災啓発をテーマとしたラジオ番組「ソナエルRadio」による情報発信や、環境啓発として太陽光で充電したニッケル水素電池を電源とする「太陽とツナガル電池の音コンサート」を全国17回開催し、環境と音楽を融合させた新たな価値を提供しました。

また、拠点周辺の清掃活動や献血、福祉施設への支援、障がい者訓練生の受け入れなど、地域に根ざした貢献活動を展開しています。特に献血活動では、湖西・鳥取・高崎工場にて延べ108名が参加し、命を支える活動として定着しています。FDKグループは、事業活動を通じて地域と笑顔をつなぎ、持続可能な社会の実現に向けて歩みを進めています。

指標および目標

重点テーマ

地域社会と繋がり笑顔溢れる世の中の実現

中長期目標	2024年度実績
ツナガル情報の発信	防災啓発をテーマとしたラジオ番組「ソナエルRadio」(毎週月曜日放送)での防災に関する情報発信
未来にツナゲル機会の提供	「太陽とツナガル電池の音コンサート」の全国開催17回/年間
笑顔をツナグ貢献活動の推進	拠点周辺の清掃活動 献血活動の実施 福祉協議会や地域学校への古切手・ペットボトルキャップの提供 授産施設からの物品購入の促進 フードバンクへ防災備蓄品提供 道の駅構内清掃および花壇の除草・花植え 障がい者訓練生の受け入れ ベルマークの回収および寄付 地域交通安全活動への参加

未来にツナゲル機会の提供

「太陽とツナガル電池の音コンサート」を開催

FDKでは、社会貢献活動の一環として、希少楽器であるクラビオーラの世界唯一のプロ奏者である折重由美子氏による「太陽とツナガル電池の音コンサート」をサポートしています。このコンサートは、太陽光で充電したニッケル水素電池のみを電源に使用しており、循環型エネルギーを目指した地球環境にやさしい充電電池と地球環境保護をテーマに音楽活動をされている折重由美子氏とのコラボレーションによるコンサートです。FDKグループは、これからも自社の事業を活かした社会・環境貢献活動に取り組んでまいります。



笑顔をツナグ貢献活動の推進

献血活動の実施

FDKでは、地域社会への貢献活動の一環として、継続的な社内献血を実施しております。少子高齢化に伴う慢性的な血液需要という社会課題に対して、企業としてできる「命を支える行動」と位置づけ、活動を推進してまいりました。就業時間内での参加を可能とすることで従業員が無理なく参加できる環境を整え、現在は湖西工場・鳥取工場・高崎工場にて毎年2〜3回程度の献血活動を実施しております。2024年度は、上記の拠点で合計108名(延べ)の従業員が参加しました。今後も献血活動を継続し、地域社会と命をつなぎ持続的な取り組みとして発展させてまいります。

[Contentsへ](#)

INDEX

[イントロダクション](#)[FDKグループの価値創造ストーリー](#)[サステナビリティ](#)[FDKアイデンティティにおける「10年の計」×サステナビリティ経営](#)[サステナビリティマネジメント](#)[マテリアリティ](#)[安心安全な電気エネルギーの提供](#)[地球環境との共生](#)[多様な人材の活躍推進](#)[コーポレート・ガバナンスの持続的強化／リスクコンプライアンスの高度化](#)[▶地域・社会・コミュニティの持続可能性への貢献](#)[財務情報](#)[概要、グループ会社](#)

財務情報 連結貸借対照表

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (2024年3月31日)	当連結会計年度 (2025年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,715	4,600
受取手形及び売掛金	16,149	13,534
契約資産	1,302	641
電子記録債権	1,719	404
棚卸資産	11,884	10,549
その他	1,866	2,015
貸倒引当金	△44	△12
流動資産合計	36,593	31,734
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	5,835	5,641
機械装置及び運搬具	4,721	4,802
工具器具及び備品	1,012	858
土地	2,193	2,186
リース資産	72	142
建設仮勘定	323	257
有形固定資産合計	14,158	13,888
無形固定資産	374	329
投資その他の資産		
投資有価証券	234	211
繰延税金資産	45	44
その他	150	132
投資その他の資産合計	429	387
固定資産合計	14,962	14,606
資産合計	51,556	46,340

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (2024年3月31日)	当連結会計年度 (2025年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	10,876	7,810
電子記録債務	4,323	2,559
短期借入金	14,475	14,550
リース債務	40	45
未払金	1,610	1,189
未払法人税等	366	445
その他	2,527	2,279
流動負債合計	34,219	28,879
固定負債		
リース債務	40	113
繰延税金負債	412	381
退職給付に係る負債	715	48
長期未払金	156	151
その他	365	351
固定負債合計	1,691	1,046
負債合計	35,911	29,925
純資産の部		
株主資本		
資本金	31,709	31,709
資本剰余金	26,225	26,225
利益剰余金	△44,993	△44,456
自己株式	△51	△51
株主資本合計	12,889	13,425
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	59	38
為替換算調整勘定	2,758	2,488
退職給付に係る調整累計額	△164	350
その他の包括利益累計額合計	2,653	2,877
非支配株主持分	102	111
純資産合計	15,645	16,414
負債純資産合計	51,556	46,340

＊ 記載金額は百万円未満を切り捨てにより表示しています。



Contentsへ



INDEX

イントロダクション

FDKグループの価値創造ストーリー

サステナビリティ

財務情報

概要、グループ会社

連結損益計算書

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)	当連結会計年度 (自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)
売上高	62,676	63,171
売上原価	52,749	51,779
売上総利益	9,927	11,392
販売費及び一般管理費	9,358	9,997
営業利益	568	1,394
営業外収益		
受取利息	64	77
受取配当金	23	24
為替差益	110	23
固定資産売却益	4	12
受取賃貸料	32	10
作業くず売却益	15	15
その他	60	57
営業外収益合計	311	220
営業外費用		
支払利息	119	178
固定資産除却損	26	66
固定資産売却損	—	76
その他	14	33
営業外費用合計	160	354
経常利益	720	1,261
特別利益		
負ののれん発生益	517	—
補助金収入	128	—
特別利益合計	646	—
特別損失		
減損損失	718	345
特別損失合計	718	345
税金等調整前当期純利益	647	916
法人税、住民税及び事業税	369	391
過年度法人税等	140	—
法人税等調整額	16	△22
法人税等合計	526	368
当期純利益	121	547
非支配株主に帰属する当期純利益	0	10
親会社株主に帰属する当期純利益	120	536

＊ 記載金額は百万円未満を切り捨てにより表示しています。



Contentsへ



INDEX

イントロダクション

FDKグループの価値創造ストーリー

サステナビリティ

財務情報

概要、グループ会社

株主資本等変動計算書

前連結会計年度(自 2023 年 4 月 1 日　至 2024 年 3 月 31 日)

(単位:百万円)

	株主資本					その他の包括利益累計額				非支配株主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	為替換算 調整勘定	退職給付に係る 調整累計額	その他の包括利益 累計額合計		
当期首残高	31,709	26,225	△ 45,114	△ 50	12,769	34	1,825	△ 1,439	420	6	13,196
当期変動額											
親会社株主に 帰属する 当期純利益			120		120						120
自己株式の取得				△ 0	△ 0						△ 0
連結範囲の変動					—		△ 11		△ 11	96	84
株主資本以外の 項目の当期変動 額(純額)						24	944	1,275	2,244	△ 0	2,243
当期変動額合計	—	—	120	△ 0	120	24	933	1,275	2,232	95	2,448
当期末残高	31,709	26,225	△ 44,993	△ 51	12,889	59	2,758	△ 164	2,653	102	15,645

当連結会計年度(自 2024 年 4 月 1 日　至 2025 年 3 月 31 日)

(単位:百万円)

	株主資本					その他の包括利益累計額				非支配株主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	為替換算 調整勘定	退職給付に係る 調整累計額	その他の包括利益 累計額合計		
当期首残高	31,709	26,225	△ 44,993	△ 51	12,889	59	2,758	△ 164	2,653	102	15,645
当期変動額											
親会社株主に 帰属する 当期純利益			536		536						536
自己株式の取得				△ 0	△ 0						△ 0
連結範囲の変動											
株主資本以外の 項目の当期変動 額(純額)						△ 20	△ 270	515	223	9	232
当期変動額合計	—	—	536	△ 0	536	△ 20	△ 270	515	223	9	768
当期末残高	31,709	26,225	△ 44,456	△ 51	13,425	38	2,488	350	2,877	111	16,414

＊ 記載金額は百万円未満を切り捨てにより表示しています。

↑

Contentsへ



INDEX

イントロダクション
FDKグループの価値創造ストーリー
サステナビリティ
財務情報
概要、グループ会社

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)	当連結会計年度 (自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	647	916
減価償却費	2,405	2,305
減損損失	718	345
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	△415	△414
貸倒引当金の増減額(△は減少)	5	△31
受取利息及び受取配当金	△87	△101
支払利息	119	178
為替差損益(△は益)	△1	0
有形固定資産売却損益(△は益)	△4	64
固定資産除却損	26	66
負ののれん発生益	△517	—
補助金収入	△128	—
売上債権の増減額(△は増加)	△1,286	4,519
棚卸資産の増減額(△は増加)	△77	1,299
仕入債務の増減額(△は減少)	△31	△4,750
未払費用の増減額(△は減少)	△267	208
その他	937	△435
小計	2,042	4,169
利息及び配当金の受取額	87	101
補助金の受取額	128	—
利息の支払額	△115	△181

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)	当連結会計年度 (自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)
法人税等の支払額	△523	△317
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,620	3,773
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△2,040	△2,840
有形固定資産の売却による収入	5	55
無形固定資産の取得による支出	△18	△31
投資有価証券の取得による支出	△5	△6
連結の範囲の変更を伴う子会社出資金の取得による支出	△475	—
その他	0	△2
投資活動によるキャッシュ・フロー	△2,533	△2,825
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	1,887	73
自己株式の取得による支出	△0	△0
ファイナンス・リース債務の返済による支出	△73	△48
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,813	24
現金及び現金同等物に係る換算差額	243	△87
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	1,144	884
現金及び現金同等物の期首残高	2,571	3,715
現金及び現金同等物の期末残高	3,715	4,600

＊ 記載金額は百万円未満を切り捨てにより表示しています。



Contents へ



INDEX

イントロダクション

FDKグループの価値創造ストーリー

サステナビリティ

財務情報

概要、グループ会社

11年間の主要財務・非財務データ

(単位:百万円)

		単位	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
会計年度	売上高(連結)	百万円	76,365	80,745	73,682	73,129	72,113	62,123	61,543	61,456	62,784	62,676	63,171
	対前年増減率	%	-0.3%	5.7%	-8.7%	-0.7%	-1.4%	-13.9%	-0.9%	-0.1%	2.2%	-0.2%	0.8%
	営業利益	百万円	2,211	1,580	△330	666	823	841	1,743	2,083	789	568	1,394
	営業利益率	%	2.9%	2.0%	-0.4%	0.9%	1.1%	1.4%	2.8%	3.4%	1.3%	0.9%	2.2%
	経常利益(損失)	百万円	504	658	△697	78	718	565	1,274	1,968	851	720	1,261
	経常利益率	%	0.7%	0.8%	-0.9%	0.1%	1.0%	0.9%	2.1%	3.2%	1.4%	1.1%	2.0%
	持分法による 投資利益(損失)	百万円	△2,353	△602	△141	△85	△60	△15	—	—	—	—	—
	親会社株主に帰属する 当期純利益(純損失)	百万円	961	167	△3,166	△630	△290	△2,340	2,009	740	318	120	536
	親会社株主に帰属する 当期純利益率(純損失率)	%	1.3%	0.2%	-4.3%	-0.9%	-0.4%	-3.8%	3.3%	1.2%	0.5%	0.2%	0.8%
	設備投資額	百万円	2,593	2,531	3,571	2,672	1,934	1,421	3,847	2,516	3,041	2,210	2,541
	減価償却費	百万円	2,632	2,390	2,443	2,092	2,136	2,131	1,984	2,367	2,291	2,405	2,305
	研究開発費	百万円	960	959	937	1,061	947	817	710	711	704	703	747
	営業活動による キャッシュフロー	百万円	1,894	5,371	327	567	1,602	2,799	1,996	2,177	2,783	1,620	3,773
	投資活動による キャッシュフロー	百万円	△111	△1,650	△3,252	△1,959	△1,860	△2,390	△373	△3,920	△2,978	△2,533	△2,825
	財務活動による キャッシュフロー	百万円	△2,717	△2,142	733	1,559	5,282	99	△4,077	△2,780	△116	1,813	24
	現金および 現金同等物期末残高	百万円	4,758	5,952	3,538	3,720	8,734	9,063	7,001	2,763	2,571	3,715	4,600

↑

Contentsへ



INDEX

イントロダクション

FDKグループの価値創造ストーリー

サステナビリティ

財務情報

概要、グループ会社

		単位	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
会計年度末	純資産	百万円	8,578	7,754	4,638	4,293	10,280	6,739	10,888	12,460	13,196	15,645	16,414
	株主資本	百万円	8,969	9,135	5,969	5,683	12,207	9,860	11,750	12,451	12,769	12,889	13,425
	総資産	百万円	57,256	54,217	49,132	51,054	54,145	47,685	48,064	46,903	47,130	51,556	46,340
	有利子負債	百万円	18,750	17,337	18,294	20,477	19,214	19,182	15,119	12,340	12,223	14,555	14,708
	純金利負担(支払利息- 受取利息および配当金)	百万円	100	99	104	105	126	108	97	87	50	31	76
一株当たり 情報	一株当たり当期純利益 (EPS)	円	34.33	5.99	△113.04	△22.53	△9.91	△67.82	58.42	21.47	9.22	3.50	15.55
	一株当たり配当金	円	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	一株当たり純資産(BPS)	円	282.01	252.43	140.03	153.15	297.79	195.16	315.37	360.92	382.26	450.45	472.48
レシオ	配当性向	%	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
会計年度末	連結従業員数	人	4,169	4,175	4,103	3,971	3,557	3,030	2,486	2,431	2,436	2,418	2,405
	連結子会社数	社	16	14	14	12	12	12	11	10	9	10	10
	持分法適用会社数	社	2	2	1	1	1	0	0	0	0	0	0
	子会社および関連会社数	社	19	18	17	15	15	15	14	12	11	12	12

🏠

Contentsへ



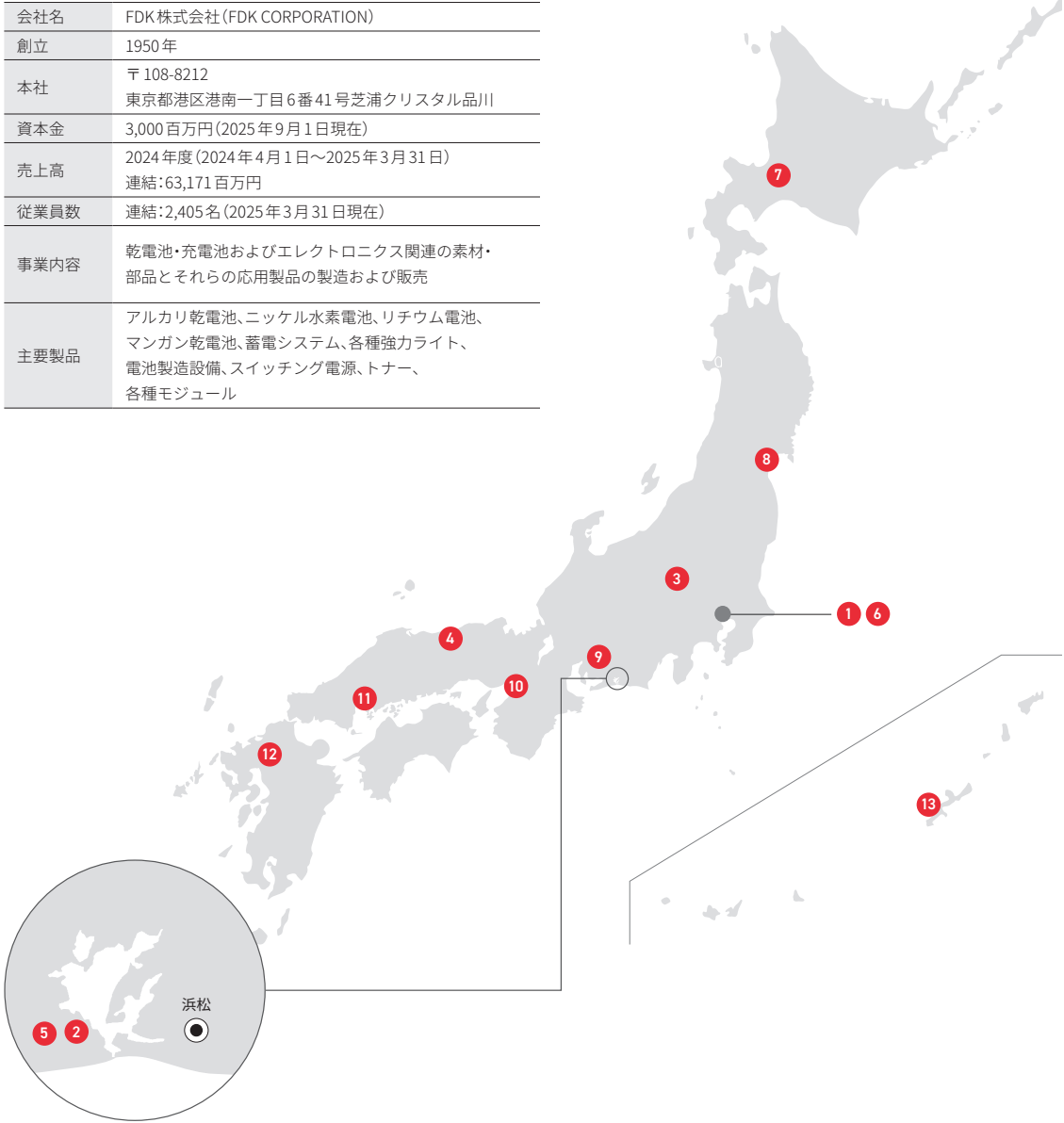
INDEX

- イントロダクション
- FDKグループの価値創造ストーリー
- サステナビリティ
- 財務情報
- 概要、グループ会社

概要、グループ会社

会社概要

会社名	FDK株式会社 (FDK CORPORATION)
創立	1950年
本社	〒108-8212 東京都港区港南一丁目6番41号芝浦クリスタル品川
資本金	3,000百万円(2025年9月1日現在)
売上高	2024年度(2024年4月1日～2025年3月31日) 連結:63,171百万円
従業員数	連結:2,405名(2025年3月31日現在)
事業内容	乾電池・充電電池およびエレクトロニクス関連の素材・部品とそれらの応用製品の製造および販売
主要製品	アルカリ乾電池、ニッケル水素電池、リチウム電池、マンガン乾電池、蓄電システム、各種強力ライト、電池製造設備、スイッチング電源、トナー、各種モジュール



本社、事業所、営業所

本社					
事業所	住所	TEL	ISO14001	ISO45001	ISO9001およびIATF16949
1 本社	〒108-8212 東京都港区港南1-6-41 (芝浦クリスタル品川)	03-5715-7400	EC98J2005	—	—
事業所					
事業所	住所	TEL	ISO14001	ISO45001	ISO9001およびIATF16949
2 湖西工場	〒431-0495 静岡県湖西市鷺津2281	053-576-2151	EC98J2005	WC22J0005	ISO9001:4745
3 高崎工場	〒370-0071 群馬県高崎市小八木町307-2	027-361-7575	EC98J2005	WC04J0013	ISO9001:JP025023 IATF16949:478849
4 鳥取工場	〒681-0063 鳥取県岩美郡岩美町太田28	0857-73-1771	EC98J2005	WC05J0003	ISO9001:JP025109 IATF16949:488358
5 鷺津工場	〒431-0431 静岡県湖西市鷺津614	053-576-2111	EC98J2005	WC22J0005	ISO9001:JQA-0459
営業所					
事業所	住所	TEL	ISO14001	ISO45001	ISO9001およびIATF16949
6 首都圏営業所	〒108-8212 東京都港区港南1-6-41 (芝浦クリスタル品川)	03-5715-7436	EC98J2005	—	—
7 札幌営業所	〒060-0007 北海道札幌市中央区北7条西13-9-1 (塚本ビル7号館4F)	011-798-4699	EC98J2005	—	—
8 仙台営業所	〒983-0852 宮城県仙台市宮城野区榴岡4-12-1 (榴岡BKテラス)	022-293-5265	EC98J2005	—	—
9 名古屋営業所	〒460-0003 愛知県名古屋市中区錦1-5-11 (名古屋伊藤忠ビル)	052-855-4846	EC98J2005	—	—
10 大阪営業所	〒532-0004 大阪府大阪市淀川区西宮原1-8-29 (テラサキ第2ビル)	(電池営業部門) 06-6350-4883 (電子営業部門) 06-6350-4877	EC98J2005	—	—
11 広島営業所	〒732-0052 広島県広島市東区光町2-9-27 (ユーベック光町ビル)	082-535-1450	EC98J2005	—	—
12 福岡営業所	〒812-0038 福岡県福岡市博多区祇園町1-28 (いちご博多ビル)	092-291-9421	EC98J2005	—	—
13 沖縄営業センター	〒901-2128 沖縄県浦添市伊奈武瀬1-9-6 (琉球通運(株)T.C.事業部内)	098-868-8685	EC98J2005	—	—



Contentsへ



INDEX

イントロダクション

FDKグループの価値創造ストーリー

サステナビリティ

財務情報

概要、グループ会社

▶ 会社概要

株式の状況

Contentsへ



INDEX

イントロダクション

FDKグループの価値創造ストーリー

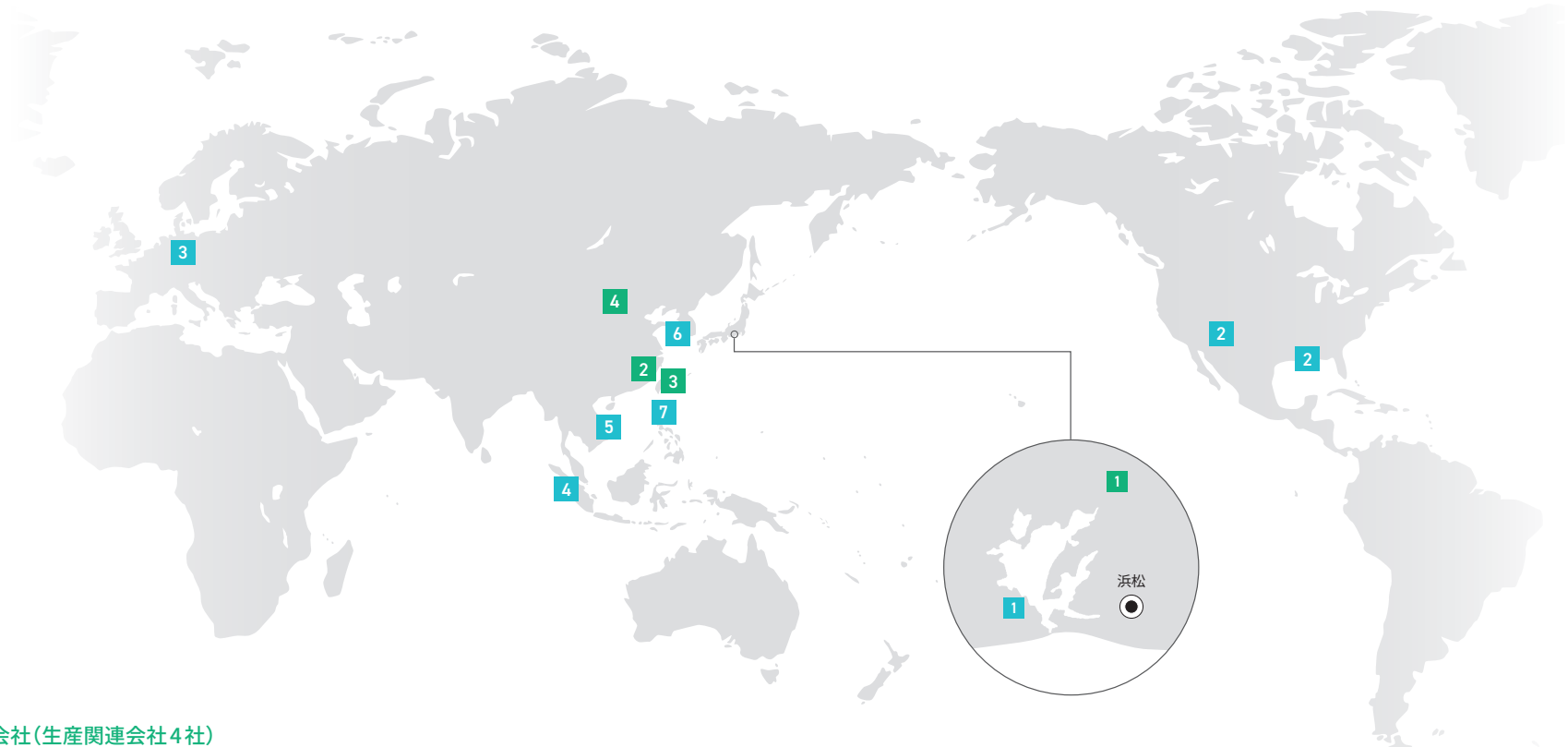
サステナビリティ

財務情報

概要、グループ会社

▶ 会社概要

株式の状況



グループ会社(生産関連会社4社)

事業所	住所	TEL	ISO14001	ISO45001	ISO9001およびIATF16949
1 (株)FDKエンジニアリング	〒431-1302 静岡県浜松市浜名区細江町広岡281	053-522-5280	EC98J2005	—	ISO9001:JQA-QMA15241
2 XIAMEN FDK CORPORATION	No. 16, Malong Road, Huoju Garden, Huoju Hi-Tech District,Xiamen, Fujian, China	+86-592-603-0576	00123E30289R5M/3502	00123S30272R5M/3502	ISO9001:00123Q30243R5M/3502 IATF16949:0506720
3 FUCHI ELECTRONICS CO., LTD.	No. 355, Section 2, Nankan Road, Rutsu Shan, Tao Yuan, Taiwan	+886-3-322-2124	4E9E001-04	4E9H001-02	ISO9001:2015/69024.5 IATF16949:0551695
4 BAOTOU FDK CO., LTD.	No.21,Rare-earth Street,Rare-earth Hi-tech Industrial Development Zone, Baotou,Inner Mongolia,China	+86-472-5320163	02125E10748R2M	02125S10708R0M	ISO9001:02125Q10990R2M

グループ会社(販売会社など7社)

事業所	住所	TEL	ISO14001	ISO45001	ISO9001およびIATF16949
1 FDKパートナーズ(株)	〒431-0431 静岡県湖西市鷺津2281	053-576-3121	EC98J2005	—	—
2 FDK AMERICA, INC.	(Head Office) 4655 Great America Pkwy, Suite 410, Santa Clara, CA 95054, U.S.A. (Dallas Office) 17304 Preston Road, Suite225, Dallas, Texas 75252, U.S.A.	+1-408-746-6815 +1-972-231-2531	—	—	—
3 FDK ELECTRONICS GMBH	Einsteinring 24, 85609 Aschheim/Munich, Germany	+49-89-3306680-0	—	—	ISO9001:91110693/4
4 FDK SINGAPORE PTE. LTD.	4, Leng Kee Road. #04-08 SIS Bldg., Singapore 159088, Singapore	+65-6472-2328	—	—	—
5 FDK HONG KONG LTD.	Suite 1607-1608A, 16/F., Tower 3, China Hong Kong City, 33 Canton Road, Tsim Sha Tsui, Kowloon, Hong Kong	+852-2799-9773	—	—	—
6 FDK KOREA LTD.	Room. 614, Suseo Hyundai Venture-vill Bldg., 10, Bamgogae-ro 1-gil, Gangnam-gu, Seoul, 06349, Republic of Korea	+82-2-582-8452	—	—	—
7 FDK TAIWAN LTD.	8F-4, No.57, Sec. 1, Chongqing S. Rd., Zhongzheng Dist.,Taipei City 100, Taiwan	+886-2-2311-5161	—	—	—

* ISO14001、ISO45001、ISO9001およびIATF16949など、第三者認証取得状況は2025年10月1日現在

株式の状況

株式情報

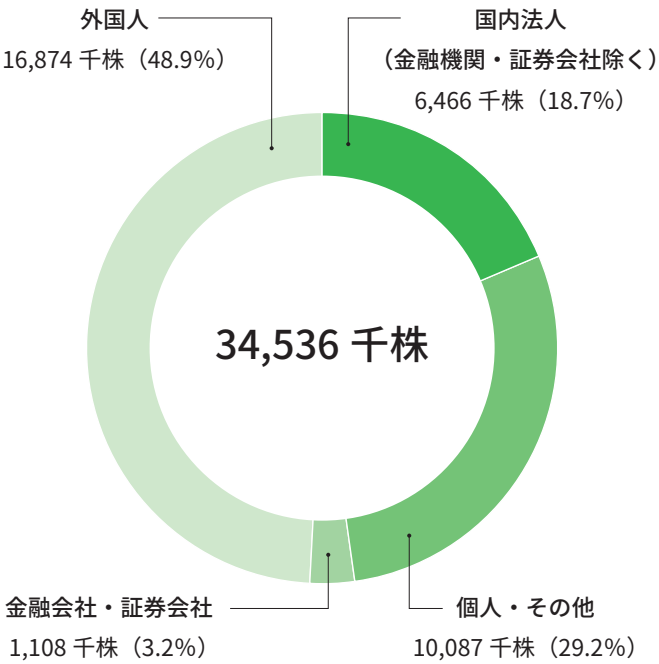
証券コード	6955
発行可能株式総数	51,000,000株
発行済株式の総数および資本金	34,536,302株 (自己株式31,151株を含む) 資本金 3,000百万円 2025年9月1日現在
当期中の株式の発行	なし
株主数	14,811名 2025年3月31日時点

大株主(上位10名)

株主名	当社への出資状況	
	持株数(千株)	持株比率(%)
SILITECH TECHNOLOGY CORPORATION	15,527	45.00
富士通株式会社	6,071	17.60
BNY GCM CLIENT ACCOUNT JPRD AC ISG (FE-AC)	377	1.09
MSIP CLIENT SECURITIES	220	0.64
株式会社SBI証券	219	0.64
FDK取引先持株会	151	0.44
田中隆士	140	0.41
モルガン・スタンレーMUFG証券株式会社	136	0.40
田中章吾	125	0.36
楽天証券株式会社	122	0.36

＊ 持株比率は、自己株式(31,151株)を控除して計算しております。

所有者別持株比率の状況



2025年3月31日現在
＊()内は、出資比率です。

↑

Contentsへ



INDEX

イントロダクション

FDKグループの価値創造ストーリー

サステナビリティ

財務情報

概要、グループ会社

会社概要

▶ 株式の状況